平成28年度

履修の手引

徳島大学総合科学部

平成 28（2016）年度　総合科学部年間行事予定表

前　期（４月１日～９月 30 日）

新入生オリエンテーション	４月４日㈪　から　４月８日㈮
入学式	４月６日㈬
授業開始	４月11日㈪
履修登録期間（Web登録期間）	４月４日㈪　から　４月22日㈮
履修登録確認期間（Web修正期間）	４月25日㈪　から　５月６日㈮
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	５月20日㈮
卒業研究題目届提出期限	５月31日㈫
総括授業・定期試験	７月25日㈪　から　８月５日㈮
夏季休業	８月６日㈯　から　８月31日㈬
成績の通知日（追・再試験は10月末までに適宜実施）	８月25日㈭　から

後　期（10 月１日～３月 31 日）

授業開始	10月３日㈪
履修登録期間（Web登録期間）	９月26日㈪　から　10月７日㈮
履修登録確認期間（Web修正期間）	10月11日㈫　から　10月24日㈪
大学祭準備のため休業	10月28日㈮
大学祭（休業日）	10月29日㈯　から　10月30日㈰
授業振替日（水曜日）	11月１日㈫
開学記念日（休業日）	11月２日㈬
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	11月11日㈮
冬季休業	12月25日㈰　から　１月７日㈯
授業振替日（金曜日）	１月10日㈫
大学入試センター試験場設営のため休業	１月13日㈮
卒業研究提出期間	１月27日㈮　から　１月31日㈫
コース配属・転学科・転コース願提出期限	１月31日㈫
授業振替日（金曜日）	２月15日㈬
総括授業・定期試験	２月１日㈬　から　２月15日㈬
成績の通知日	２月17日㈮
追試験・再試験（４年次生は２月24日㈮まで）	２月27日㈪　から　３月３日㈮
卒業式・修了式	３月23日㈭
学年末休業	３月25日㈯　から　３月31日㈮

大学・社会で求められる能力と自律的学習

徳島大学総合科学部新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心よりお祝い申し上げます。

総合科学部は，これまで３学科体制で文理融合型の教育や人材養成を目指してきましたが，この平成 28 年４月に学部改組を行い，社会総合科学科の１学科４コース体制で新たに再出発することになりました。皆さんは，その１期生となります。

総合科学部社会総合科学科では，人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能，技術を身につけるとともに，専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し，問題解決に対応し得る実践的な人材を養成することを目的としています。

これから新たに大学生活を始めるにあたって，皆さんは大きな夢や希望，目標とともに，いくばくかの不安も抱いているかもしれません。この『履修の手引』は，皆さんが卒業するまでの総合科学部での履修方法や単位･資格の修得方法，２年次以降に各コースに所属して専門教育を履修する上で必要な要件や規則をまとめたものです。言わば，皆さんが総合科学部で学修するためのナビゲーターです。**皆さんには卒業時までこれらの規則が適用されますので，この『履修の手引』に必ず目を通すとともに，卒業時まで大切に保管しておいてください。**

皆さんのこれまでの大きな目標は「大学に入ること」にあったかもしれませんが，**これからの４年間は，徳島大学総合科学部での学びを基礎に，皆さんが「社会で活躍する」ための準備期間**となります。その研鑽・学修の「場」が徳島大学であり，総合科学部であると思ってください。

徳島大学が掲げる教育の理念は，人間性に富む人格の形成を促し，優れた専門的能力と，自立して未来社会の諸問題に立ち向かう，**進取の気風を身につけた人材**の育成にあります。「**進取**」とは「進んで事をなすこと」（広辞苑）を意味します。すなわち，自らの問題関心あるいは社会の諸課題に対して，自らが培った能力をもって積極的に行動できる人材の育成が，徳島大学の教育目標となっています。

明治７年（1874）以来 140 年以上の歴史をもつ総合科学部もまた，そうした教育理念のもとに，**総合的・学際的な広い視野を持ちつつ核となる自らの専門性を深めることで，グローバル化する現代社会の諸課題について考察・分析し，その解決方法を模索できる人材**の育成を目指しています。「**探求心**」をもって自らの問題関心・課題テーマに取り組むことで，皆さんは総合科学部において「学問」や「研究」の醍醐味を知ることになります。

もちろん，社会が大学生に求める能力は，大学で培った教養的知識・専門的知識ばかりではありません。「**人間力**」あるいは「**社会人基礎力**」とも言われますが，主体性や行動力，チャレンジ精神，

問題発見・解決能力や発想力，コミュニケーション能力や協調性・協働性といった，「**前に踏み出す力**」「**考え抜く力**」「**チームで働く力**」も，社会から期待されている能力です。コミュニケーション能力とは語学力という意味ではなく，相手の話を聞き，それに対して自分の意見を伝えられる能力のことです。友達とのコミュニケーションであれば簡単でしょうが，見知らぬ他者との間で相手の立場・考えを理解し，自分の考えを相手にどう伝えるか，となると難しいものです。これらの能力は，「**学修する力**」にも求められます。

それゆえ，総合科学部では，広い視野の育成や社会人としての人格形成教育の観点から，教養教育科目や学部共通科目・実践学習科目の履修も重視しています。このような能力は，大学での学修の場だけではなく，学内外のサークル活動や社会活動などを通じて会得することもできます。時間の許す限り，こうした活動に積極的に参加し，**様々な社会体験を通じて自分を研鑽すること**が，将来にわたっての皆さんの自己形成につながるといえます。

「大学」には，リベラルアーツ（教養教育），学術研究（専門教育），職業教育（キャリア教育），という３つの顔があります。総合科学部でもこれらの教育プログラム（カリキュラム）が展開されており，これらの教育プログラムを通じて，**大学生としての能力・資質を高め，自らの目標に向かってのキャリアデザイン（将来設計）が求められることになります**。ただし，大学は高校までのように集団生活をおくる場ではありません。自己責任と自己管理のもとに，**大学生には自律的な学修が求められることになります**。そのことを皆さんが充分に理解し行動することで，ぜひ，皆さんが将来，「総合科学部で学んで良かった」「総合科学部で有意義な学生生活を送ることができた」と振り返ることができる，充実した学生時代を送られることを期待しています。

平成 28 年４月

徳島大学総合科学部長
平　井　松　午

目　　次

Ⅰ．総合科学部における学びと生活…… 1
1．総合科学部で学ぶための基本事項…… 3
⑴　総合科学部の学びの特長…… 3
⑵　専門教育と教養教育の区別…… 3
⑶　学年暦と授業の形態…… 4
⑷　履修登録単位の上限（CAP 制）…… 4
⑸　単位と進級・卒業…… 4
⑹　成績の評価…… 5
⑺　試験などにおける不正行為…… 5
⑻　コース配属と転コース…… 6
⑼　教員免許状や各種資格…… 6
2．コース毎の履修上の要望事項・履修例…… 7
社会総合科学科…… 7
国際教養コース…… 7
心身健康コース…… 13
公共政策コース…… 16
地域創生コース…… 18
3．学生生活の基本事項…… 22
学生への連絡方法／大学の連絡先…… 22
学生証の交付…… 22
学生支援の体制…… 22
キャリア支援・就職情報…… 23
定期健康診断…… 24
休学および退学の手続き…… 24
授業料納付および授業料免除…… 25
学術交流協定校等への交換留学および語学研修制度…… 26
奨学金制度…… 28
賞罰・表彰…… 29
証明書や届出…… 30
学部内施設の使用方法…… 30
建物・講義室などの使用および入退室…… 31
喫煙の禁止…… 31
構内の交通規制…… 31
交通事故に遭ったとき…… 31

その他…… 32

Ⅱ　規　則　集…… 33
1．徳島大学総合科学部規則…… 35
2．履修細則…… 40
3．試験細則…… 62
4．コース細則…… 64
5．徳島大学総合科学部学友会会則…… 65

Ⅲ　教員免許状と各種資格…… 67
1．教員免許状の取得…… 69
2．学芸員の資格取得…… 86
3．認定心理士の資格取得…… 87
4．健康運動指導士の資格取得…… 89
5．スポーツ指導者資格免除適応コース（共通科目）…… 91
6．アシスタントマネジャーの資格取得…… 92
7．ジュニアスポーツ指導員の資格取得…… 93
8．社会調査士の資格取得…… 94
9．社会福祉主事の資格取得…… 96
10. GIS 学術士の資格取得…… 98
11. 日本語教員の養成……100
12. グローバル人材育成学習プログラム……102

Ⅳ　授業概要（シラバス）……105

Ⅴ　そ　の　他……137
コース担当教員一覧表……139
総合科学部（教養教育棟を含む）建物配置図……141

Ⅰ．総合科学部における学びと生活

1．総合科学部で学ぶための基本事項

ここでは総合科学部で学んでいくうえで，もっとも基本的な事柄を説明します。詳細は別のページや，『教養教育履修の手引き』『学生生活の手引き』を参照してください。

(1) 総合科学部の学びの特長

① 専門性と総合性の融合

人文科学や社会科学，人間科学，地域科学，情報科学などの垣根を越えて，幅広く学際的に学ぶと同時に，特定の分野を専門的に深化させていきます。

② 手厚い教員体制による少人数教育

１学年の学生定員が170名であるのに対し，教員は約80名を数えます。学部の学生約８人（１学年の学生２人）に教員１人という手厚い体制で丁寧，親身な教育を行います。

③ 地域社会との連携や寄与

学生，教員とも学内での学習・教育にとどまらず，地域社会の課題を知り，積極的な協働を図ります。様々な形で学外の自治体や企業・団体などと連携して課題解決にあたることを目指します。

④ キャリア教育の重視

卒業後の就職・進学や人生設計について早い段階から考えていきます。自分の関心，特性，人生観などを振り返りつつ，社会の今と未来を見据える学習です。

⑤ グローバル人材の育成

グローバル化する内外の社会に対応でき，新しい諸問題に対応できる力を身につけます。その一環として語学力の向上や留学・海外研修などを重視します。

⑥ 汎用的技能の習得

情報リテラシーや外国語の基本的運用力，日本語の文章読解・表現力，国際感覚，コミュニケーション力，プレゼンテーション力，リーダーシップ，チームワークなど，社会で必要とされる基礎的技能を身につけます。

⑦ 教員免許などの資格取得

教員免許をはじめ，在学中に様々な資格が取得できます。ただし，そのためには卒業要件に加えてより多くの学習が必要です。特に，教員免許状の取得要件は近年厳しくなっていることから，真剣な取り組みが求められます。

(2) 専門教育と教養教育の区別

教育課程は，総合科学部で行う「専門教育」と教養教育院で行う「教養教育」とに分かれます。主に１年次で教養教育科目を履修し，２～４年次で専門教育科目を履修します。専門教育と教養教育とでは，時間割や履修の手続き，建物・教室，事務担当係なども別になります。

⑶　学年暦と授業の形態

２学期制で，年度は前期（４月～９月）と後期（10 月～３月）とに分かれ，毎学期の初めに授業の履修登録を行います。授業科目により多少の違いがありますが，それぞれ 16 週（16 回）の授業が実施され，学期中の小テストやレポート課題，あるいは学期末試験によって，成績が評価されます。祝日が多い曜日の授業は，他の曜日と振替られる場合があるので注意が必要です。学年暦をよく確認してください。

授業の形態は講義，演習（ゼミ），実験，実習などがあります。授業時間は，１講時を 45 分とし，原則として２講時 90 分を１コマ（ひとまとまり）として実施されます。90 分の講義の場合，予習と復習をそれぞれ，２時間行うのが前提です。演習（ゼミ）や実験，実習など，２コマ連続して実施する授業もあります。

⑷　履修登録単位の上限（CAP 制）

履修する科目が多すぎると学修時間や内容が不十分になりますので，履修登録できる授業の単位数に上限を設けています。総合科学部では学年に関わらず，１年間で最大 48 単位（前期と後期の合計）までしか履修ができません。きちんと履修計画を立て，学びたい授業をじっくり選び，しっかり勉強して，確実に単位を修得する必要があります。

ただし，次の科目は単位数の上限に関係なく履修登録できます。①グローバル人材育成学習プログラム（102 ページ参照）で指定されている科目（ただし 24 単位まで），②「教育相談」以外の教職科目，③学芸員科目，④前期・後期の授業期間中以外に行われる集中講義，⑤「SIH 道場」の科目，⑥語学検定により単位が認定される科目，⑦協定校へ長期留学する場合，現地で単位を修得した科目（＝単位互換して総合科学部で認定された科目），⑧その他，教務委員会が認めた科目。

また，年間 30 単位以上修得し，その GPA（次頁⑹を参照のこと）が 3.0 以上の場合，次年度は８単位を上限に追加して履修登録できます。

⑸　単位と進級・卒業

授業を受け，試験に合格すると単位が与えられ，その単位の合計数によって進級や卒業が認められます。卒業するためには，大学に４年以上在学し，教養教育科目 35 単位以上，専門教育科目 95 単位以上，合計 130 単位以上を修得しなければなりません。（進級に必要な単位数は「履修細則」の 48 頁を参照）。通常の講義形式の授業科目の場合，半期受講し試験に合格すると２単位が与えられます。授業科目は自分の知的関心に応じて基本的に自由に選べますが，一定の条件にしたがって履修し，進級や卒業に必要な単位をそろえる必要があります。「必修」とされている授業は必ず履修し，「選択必修」とされている授業は，そのカテゴリーの中にある複数の授業科目の中から必ず選択し履修します。コースによって履修要件が異なりますので，所属コースの履修上の要望事項を確認してください。

また，授業科目ごとに配当学年が定められています。たとえば配当学年が「２年」の場合，２年生以上の学生は履修できますが，１年生は履修できません。ほとんどの授業は毎年開講されますが，一部，隔年開講の授業科目もあるので，計画的に履修する必要があります。

(6) 成績の評価

授業ごとにその内容を説明するシラバス（授業概要）があります。皆さんは，シラバスを読んで学びたい授業科目を選択履修します。シラバスに書いてある「到達目標」に照らして，受講生の到達度が成績として示されます。成績は100点満点で「秀」（100～90点），「優」（89～80点），「良」（79～70点），「可」（69～60点），「不可」（59点以下）等に区分されます。

また，成績の総合的な指標としてGPA（Grade Point Average）があります。GPAには，「総合科学部GPA」と「徳島大学標準GPA」の2種類があります。

「総合科学部GPA」は次のような仕組みです。まず，学生が履修した個別の授業科目GP（Grade Point）を算出します。

・点数が60点以上の場合：GP＝（点数評価－50）÷10

・点数が60点未満の場合：GP＝0

つまり，100点ならGPは5.0，73点なら2.3，60点なら1.0，58点なら0となります。不可や欠席の場合，GPは0です。「認定」の評価は，GPの対象外となります。GPを総合して，個人の成績の平均値Grade Point Average（GPA）が算出されます。

・GPA＝（科目の単位数×GP）の総和÷（履修登録した単位数の合計）

このGPAの値で個人の成績全体が客観的に示されます。

「徳島大学標準GPA」は，基本的には「総合科学部GPA」と同様に成績評価値を示す指標ですが，GPの計算方法が異なり，90点以上が4，80～89点が3，70～79点が2，60～69点が1，59点以下が0，と整数での段階評価となります。GPAはこのGP整数値の平均値です。

「総合科学部GPA」のほうが成績の指標としては精度が高いことから，学内の成績評価にはこちらを用います。他方，国際的に使用されるのは「徳島大学標準GPA」の形ですので，成績証明書など学外向けの指標としては「徳島大学標準GPA」のGPAを使用します。

正規の手続きで履修を取り消した科目はGPAに換算されませんが，履修登録したままの出席不足や試験を受けなかった場合などはGP＝0として計算されます。

(7) 試験などにおける不正行為

試験やレポートなどにおいては，言うまでもなく不正行為をしてはいけません。定期試験等において不正行為が明らかになった場合には，懲戒処分と合わせて，当該の学期に履修した単位がすべて取り消されます。そうなると，その時点でほぼ留年が確定します。

試験における不正行為とは，以下のものをさします。①カンニング（カンニングペーパー，IT機器，参考書または他の受験者の答案などを見ること，他の受験者から答えを知るなど）をすること，また，答を教えたり，カンニングに協力したりすること。②使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。③試験場において，試験監督者などの指示に従わないこと。④そのほか，試験の公平性を損なう行為をすること。

また，試験以外であっても，以下のようなことは不正行為とみなされ，上記に準じて処分の対象となりえます。①単位認定にかかわるレポートの作成において，他人のレポートを写すこと，またインターネット上のホームページや著書，論文などから他人の意見やデータを盗用，剽窃すること。②単位認定にかか

わるレポートや小テストなどの代筆を行うこと，および代筆をさせること。③授業の出席確認において，不正を行うこと，および不正をさせること。

⑻　コース配属と転コース

２年次に進級すると，コースに分かれて所属します。１年次の12月にコースガイダンスがあり，翌１月に志望コースを決めることになります。コースの受入可能数（各コースともに60名）を超えた場合は，成績や面接などにもとづいて選抜が行われます。３年・４年次になると，コース内でさらにゼミ・研究室に分かれて専門的に学びます。卒業研究は，原則として，その所属するゼミ・研究室の指導教員の下で取り組みます。いずれの配属についても，自分の知的関心，適正，将来設計などふまえてじっくり考えて決めましょう。

２年生以上で所属コースを変更したい場合は，転コース制度があり，教育上支障がない場合にのみ許可されます。転コースを希望する場合，熟慮の上，担当の教員や学務係と相談し，所定の願書を１月末までに提出します。転コースはあくまで例外的な扱いですので，所属コースは当初から慎重に選択してください。

⑼　教員免許状や各種資格

教員免許状や各種資格の取得が可能です。（詳しくは「Ⅲ　教員免許状と各種資格」を参照）。教員免許状取得には多くの学生が関心を示しますが，通常の履修に加えて，卒業要件にはカウントされない教職課程の科目を履修する必要があります。近年，教職課程は厳格化されているので安易な気持ちでは教員免許は取得できません。説明会などに必ず参加し，教員養成推進委員会の担当教員にも相談してください。

2．コース毎の履修上の要望事項・履修例

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	国　際　教　養	60　名

Ⅰ　国際教養コースとは

国際教養コースは，高度な語学力にもとづき，多様な価値観に寛容で，異なる文化背景をもつ人々とコミュニケーションをおこないながら，社会や経済のグローバル化がもたらす諸課題に主体性と幅広い視野を持って解決にあたることができる人材を育てることを目指します。

こうした異なる文化やグローバル社会の諸課題への洞察力は，海外留学などの様々な社会体験とともに，自文化や自らの住む地域への深い理解という土台があってこそ育まれます。徳島はドイツ兵捕虜による「第九」の日本初演の地として知られ，ポルトガル人作家モラエスが晩年を過ごした地であり，現代では国際展開する企業を多数有しています。このような自分の暮らす地域と世界とのつながりを認識し，地域のグローバル化によって生じる課題を解決する能力がこれからの時代には必要となるでしょう。

そこで，本コースの学生には，自ら課題を見つけ，問題を掘り下げ研究を完成させる課題解決型の教育により，グローバル化の時代の中で地に足のついた問題意識と主体性，行動力を身につけ，将来，さまざまな組織的なプロジェクトの立案，作成，運営にかかわっていくことが期待されます。

Ⅱ　教育目標

国際教養コースは，異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする「教養」，広く世界に情報発信ができ，グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むための「コミュニケーション能力」，そして，海外留学･海外研修などの社会体験，さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して「異文化対応力」を育成することを目標としています。

このような教育目標を実現するために，本コースでは多様な海外留学プログラム，外国語演習科目，英語による講義科目，日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目，そして国際理解と自文化理解のための授業科目などを段階的に配置しています。まず１年次には，基本的な調査・発表能力を養いつつ，さまざまな分野についての基礎的な知識と技能を身につけます。こうした基礎的な学力にもとづいて，２年次からは，実践力を養っていきます。とりわけ，実践的な外国語教育・体験プログラムなどで語学力とコミュニケーション能力を磨いていきます。そのうえで，3・４年次には応用力を培っていきます。短期・長期の留学や国際交流体験を通じて異文化対応能力を培いつつ，自文化理解と国際理解を深めるために，個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米，その他の地域の言語や文学，文化，思想，歴史，経済，政治，社会について学んでいきます。またそれらの地域を相互に比較して学ぶこともできます。そして，ゼミナールを中心に自ら設定した問題を掘り下げ，議論を積み上げながら卒業研究にまとめていきます。

Ⅲ　履修パターン

本コースでは，こうした教育目標を実現するために次の５つの履修パターンを設けています。

１）グローバル履修パターン：豊かなコミュニケーション力，国際的視野をもって企業や諸団体の国際展開に必要とされる人材を育成する。

２）ヨーロッパ履修パターン：ヨーロッパの歴史や文化を学ぶなかで，異文化としての西洋の視点や価値観に対する理解を深め，そこから国内および国外のさまざまな現象や問題について考察し発信する能力を育成する。

３）東アジア履修パターン：東アジア地域に関する知見を高め，中国語を中心に国際社会で活躍できる人材を育成する。

４）日本語教育履修パターン：日本語・日本文学，異文化，外国語への理解を深め，国際人に求められる幅広い知識を習得することで，外国語としての日本語を教授できる人材を育成する。

５）日本文化履修パターン：国際教養を基盤としながら日本文学・日本語学を中心とする日本文化を深く理解し，修得した知見を広く発信できる人材を育成する。

主な進路としては，国際機関や NGO，外資系企業，貿易商社，グローバル展開する地元企業，外国人観光客交流支援機関，文化交流機関，さらには博物館学芸員，公務員，中学校・高等学校教員，大学院への進学が考えられます。取得可能な資格としては，中学校・高等学校教諭１種，日本語教員資格，学芸員資格などがあります。

Ⅳ　履修上の要望事項

【一般的な要望事項】

国際教養コースでは，さまざまな専門分野にわたる授業を履修することができます。これは「総合科学」を学ぶうえで重要な特徴です。逆に，しっかりとした問題意識・目的意識がないと，学習が散漫になってしまう可能性もあります。指導教員とよく相談し，履修計画を立てるようにしてください。

１年次の指導教員は，学部の教務委員・学生委員です。２年次には国際教養コースの各履修パターンの代表教員が指導教員です。３年次以降には，「演習」の担当教員が指導教員となります。

また，卒業に必要な単位を間違えなくそろえるために，この『履修の手引』と，別冊の『教養教育履修の手引』を熟読してください。

【国際教養コースでの履修の道筋】

１年次末にみなさんは国際教養コースを選択します。国際教養コースでは，みなさんが履修計画を立てる際の指針となるように上述の５つの「履修パターン」を用意しています。この５つの「履修パターン」から１つを選択し，そこに示された科目を中心に選択することで，ある領域について一貫性のある履修計画を立てることができます。

２年次初めに５つの「履修パターン」のうちの１つを仮選択し，その「履修パターン」に即して履修します。

３年次初めには，「履修パターン」を本選択します。必ずしも，２年次で仮選択した「履修パターン」と

同じパターンを選択する必要はありません。ただし，履修内容が大きく異なる「履修パターン」への変更は勧めません。

【１年次の履修】

１年次には，教養教育科目と学部共通科目，実践学習科目の授業から履修します。

１）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

２）学部共通科目

・学部共通科目は，必修科目を１単位，選択必修科目Ⅰを２単位，選択必修科目Ⅱを10単位以上，合計13単位以上修得するように履修してください。

３）実践学習科目

・実践学習科目はまず，必修科目を４単位修得するように履修してください。

【２年次の履修】

２年次には，教養教育科目，学部共通科目，実践学習科目に加えて，コース入門科目とコース基礎科目，一部のコース応用科目を受講します。実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目については，自分が仮選択した「履修パターン」（別表）に提示された科目を中心に履修してください。

１）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

２）学部共通科目

・学部共通科目は，選択必修科目Ⅱの残った単位分の科目を修得するように履修してください。

３）実践学習科目

・実践学習科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。必修科目をさらに２単位，選択必須科目を８単位以上，合計で14単位修得するように履修してください。なお，「総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）」で４単位を修得した場合，そのうちの２単位は他コース選択科目に含めることができます。

４）コース入門科目

・コース入門科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。必修科目を２単位，選択必修科目を12単位以上，合計14単位以上修得するように履修してください。

５）コース基礎科目

・コース基礎科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。選択必須科目を12単位以上修得するように履修してください。

６）コース応用科目

・コース応用科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

７）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

【３・４年次の履修】

３・４年次では，コース基礎科目，コース応用科目を中心に履修します。自分が選択した「履修パターン」（別表）に即して履修してください。コース自由選択科目や他コース選択科目については，視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように履修してください。

１）コース基礎科目

・コース基礎科目は，別表の「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

２）コース応用科目

・コース応用科目は，別表の「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

３）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が選択した「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

４）卒業研究

「演習」での指導に基づいて，卒業研究を行ってください。

【４年生進級のための語学力要件】

総合科学部では，全卒業生が，国際化の進む社会で必要な語学力を有することを保証するため，４年生に進級し，卒業研究を開始するために要件とされる語学試験基準点を設けています。国際教養コース所属学生については，英語についての要件が他コース所属学生よりも高いので，下記 ACE プログラムを計画的に履修することが必要です。４年生進級のための語学力要件については，本冊子の 48 頁を熟読しておいてください。

【ACE プログラム】

国際教養コースの目標である国際的なコミュニケーション･情報発信の力，　海外での社会体験にもとづく多様な価値観への理解力，グローバル化が進む現代社会・国際経済の問題への対処能力を身につけるためには，そのためのツールとしての高度な語学力が要求されます。とくに，英語による資料調査，レポート，ディベート，交渉やプレゼンテーションの能力をつけるために，国際教養コースでは，１年次より一貫して，英語の運用能力を高めてゆくためのプログラムを用意しています。それが ACE プログラム（Academic Communications in English）です。

国際キャリアでの実務をこなすための英語力の目安としては，海外の大学での英語開講授業でのレベルが基準になります。そこで「アカデミック」（academic）というのは，「大学での授業にかかわる」という意味で，大学レベルの学習活動を行うために必要な，英語での「読む」「書く」「聞く」「話す」のコミュニケーション四技能を身につけることを目標としています。この目標は，同時に，国際教養コースの中で重要な位置づけをされている海外長期留学に必要な英語力を身につけるということも意味します。ACE プログラムで伸ばした英語力を長期留学で国際的実戦レベルまで高め，それを卒業後国際キャリアで生かしてもらうことを意図しています。

国際教養コースを選ぶことを考えている学生は１年次より Academic English Ⅰ・Ⅱを履修してください。２年次の Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，英語で行われるそれぞれ週２回の授業により，留

学先での英語で授業を受けるのに必要なレベルに到達できるようにします。同時に Extensive Reading も受講して速読力を養成してください。３年次の Advanced Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，国際キャリアで必要な英語力をつけるため，留学先で課されるのに近いレベルのライティング，プレゼンテーションの活動を行います。ACEプログラムは，修了することでTOEIC得点にして730点以上のレベルまで英語力を高めることができるよう組まれています。

【留学による修得単位の認定】

国際教養コースに所属するみなさんの多くは，短期あるいは長期の海外留学を経験することになるでしょう。留学先で修得した単位は 40 単位まで卒業要件に算定されます。これについては，本冊子の 26 頁および 44 頁を熟読しておいてください。

【国際教養コース履修パターン】

パターン名称				グローバル	東アジア	日本語教育	日本文化	ヨーロッパ
学部共通科目	必修	1	総合科学入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	2以上	科学論	○		†		○
			情報処理基礎論			○	○	
	選択必修Ⅱ	10以上	総合科学の基礎 A		○	◎	◎	
			総合科学の基礎 B	○	○		○	○
			総合科学の基礎 C	○	○		○	○
			総合科学の基礎 D					
			総合科学の基礎 E					
			総合科学の基礎 F		○			
			総合科学の基礎 G	○	○			
			総合科学の基礎 H	○	○			○
			総合科学の基礎 J					
			Academic English Ⅰ	◎	○	◎	◎	◎
			Academic English Ⅱ	◎	○	◎	◎	◎
			Extensive Reading	◎			○	
実践学習科目	必修	4	キャリアプラン入門	※	※	※	※	※
			課題発見ゼミナール	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	8以上	キャリアプラン	○	○	○	○	○
			短期インターンシップ	○	○	○	○	○
			総合科学実践講義 A	◎	◎	◎	◎	◎
			総合科学実践講義 B					
			総合科学実践講義 C	○				
			総合科学実践講義 D					
			総合科学実践講義 E					
			総合科学実践講義 F	◎	◎	◎	◎	◎
	選択必修Ⅱ	2以上	総合科学実践プロジェクト A		○	◎	○	○
			総合科学実践プロジェクト B			○		○
			総合科学実践プロジェクト C					
			総合科学実践プロジェクト D					
			総合科学実践プロジェクト E		○			○
			総合科学実践プロジェクト F					
			総合科学実践プロジェクト G					
			総合科学実践プロジェクト H					
			総合科学実践プロジェクト J	◎	◎	○	○	◎
コース入門科目	必修	2	コース入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修	12以上	ジェンダー論	○	○			○
			比較宗教学	○	○			◎
			国際語としての英語	◎				○
			英語圏文学研究	○				○
			国際関係論	◎	○			○
			近現代世界の成立と展開	○	○			○
			グローバル交渉史	◎	○			○
			東アジア文化研究		◎		◎	○
			日本史研究Ⅰ				◎	
			地理学の基礎Ⅰ				○	
コース基礎科目	選択必修	12以上	日本研究Ⅰ（Japanese Studies I）	○			○	○
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies II）	○			○	○
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	○			○	
			日本言語概説				◎	
			方言と社会				◎	
			日本表象文化論Ⅰ				◎	
			日本表象文化論Ⅱ				◎	
			現代アジア社会Ⅰ		○		○	
			現代アジア社会Ⅱ		○		○	
			異文化間コミュニケーション	○				○
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	○				○
			国際ジャーナリズム	○				○
			Academic Communications Ⅰ	◎		◎	○	◎
			Academic Communications Ⅱ	◎		◎	○	◎
			実用外国語基礎演習Ⅰ		◎		○	○
			実用外国語基礎演習Ⅱ		◎		○	○
			実用中国語演習		◎		○	

			Advanced Academic Communications I	○		○		
			Advanced Academic Communications II	○		○		
			英語研究 I	○				
			英語研究 II	○				
			英語研究 III	○				
			カルチュラルスタディーズ	○	○	○		○
			比較社会論	○	○			○
			国際協力論	○	○			○
			平和学	○	○			○
			グローバル・ヒストリー	○	○	○		○
			ヨーロッパ史研究	○	○			○
			北米地域研究	○	○			○
			イスラーム世界研究	○	○			○
			アフリカ地域研究	○	○			○
			東アジア社会文化研究 I		◎	◎		○
			東アジア社会文化研究 II		◎	◎		○
			現代科学論研究	○				○
			環境倫理学	○				○
			芸術文化論	○		○		○
			比較文化研究	○	○	○		○
			ヨーロッパ研究	○	○			○
			ヨーロッパ文化研究	○	○			○
			応用日本語学概説		○		◎	
コース応用科目	選択必修	16 以上	日本言語研究		○	◎	◎	
			日本語教授法 I		○	◎		
			日本語教授法 II		○	◎		
			日本語教育方法論 I		○	◎		
			日本語教育方法論 II		○	◎		
			日本語教材研究		○	◎		
			応用日本語学研究		○	◎	◎	
			日本文化研究 I		○	○	†	
			日本文化研究 II		○	○	†	
			書道			○		
			日本史基礎研究 I				○	
			日本史基礎研究 II				○	
			日本史研究 II		○		○	
			考古学概説		○		○	
			日本文化研究演習 I				†	
			日本文化研究演習 II				†	
			言語コミュニケーション演習 I	○				
			言語コミュニケーション演習 II	○				
			言語メディア研究演習 I	○				
			言語メディア研究演習 II	○				
			国際教養演習 I	○	○			○
			国際教養演習 II	○	○			○
			日本言語演習 I（地域言語）			○	†	
			日本言語演習 II（地域言語）			○	†	
コース自由選択科目	選択必修	10 以上	「コース入門科目」,「コース基礎科目」,「コース応用科目」から選択					
			学習心理学			○		
			社会心理学					○
			認知心理学			○		
			マクロ経済学入門					○
			地域経済論	○				
			国際経済学 I	○	○			○
他コース選択科目	選択必修	10 以上	国際経済学 II	○	○			
			ブランド戦略論	○				
			社会変動論		○	○		
			地域文化論 I	○	○	○	○	○
			地域文化論 II		○	○	○	
			市民活動論					○
			地域変容論					○
			美術概論				○	
卒業研究	必修	6		※	※	※	※	※
専門教育科目　合計		95 以上						

履修パターンごとの履修推奨科目
1　必修　※　　2　強く推奨　◎　　3　推奨○　　†　担当教員の指導による

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	**心　身　健　康**	60　名

Ⅰ　心身健康コースとは

キーワードは「健康・心理・身体・スポーツ」です。心身健康コースでは，心と身体，および，人間を取り巻く社会環境について，心理学とスポーツ健康科学の二つの領域から学び，それぞれの専門性を高めます。また，心身相関の観点から人間の心と身体の健康を理解し，心理ケアや健康増進の面から健康社会づくりや対人支援に寄与できる人材となるための能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

心身健康コースでは，人間の健康な生活や社会づくりに向けた諸問題を，人間行動と社会環境という視点から広く学際的な視野に立って理解し，現実の課題と関連付けて実践的に処理する能力を身につけるための教育を目標にしています。具体的な教育目標は以下の通りです。

1）人間の心の仕組みについて心理学的に理解し，心理現象一般および心と関連する健康問題について研究および評価・支援できる能力を身につける。
2）人間の身体の仕組みと働きについて生理学や解剖学を中心に理解し，健康に関わる身体の諸問題について分析・評価できる能力を身につける。
3）人間の健康行動を生活環境・文化環境・社会環境との関連性から捉え，地域における人々の健康的な暮らしや健康維持のための取り組みを企画・経営・評価できる能力を身につける。
4）海外の健康づくり政策や健康課題を学び，グローバルな視点にたった健康社会づくりの知識を身につけ，地域における健康問題の解決に還元できる能力を身につける。

心身健康コースの授業は，心の働きとその仕組みを個人・集団・社会との関わりから探求する心理学と，健康体力づくりに関わる科学的・実践的アプローチであるスポーツ健康科学の二領域から構成されており，自分の興味にあわせてテーマごとに学ぶことができます。

知覚心理学，社会心理学，臨床心理学をはじめとする心理学諸分野，運動生理学，スポーツ社会学などのスポーツ健康科学諸分野の基礎的な知識を体系的に学ぶとともに，心理学実験実習，スポーツ科学実験実習などをとおして心身健康支援のためのカウンセリングの視点やデータ解析の知識とスキルを習得します。また，地域スポーツ文化論やコミュニティ心理学をとおして地域社会と心身健康との関連を学び，総合科学実践講義・プロジェクトにおいて実践的な取り組みに触れます。さらに，社会福祉に関する科目など，その周辺諸科学の知識を身につけることによって，理論と実践の両面を兼ね備えた学際的視点から，その成果を全人的な健康増進に生かし，教育・福祉・医療などの分野で，人々の心身の健康生活を総合的に支援できる人材を養成します。

Ⅲ　履修上の要望事項

【コース入門科目・コース基礎科目について】

心身健康コースにおける基礎的な知識を習得するために，コース入門科目とコース基礎科目が開設されています。心理学とスポーツ健康科学の専門的な教育の前に，２年生で履修することが望まれます。コース入門科目は14単位以上必要で，各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学びます。コース基礎科目は12単位以上必要で，専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルを習得します。なお，「心身行動研究法」（コース入門科目）および「行動統計学」（コース基礎科目）は，「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」等で必要となりますので，履修してください。

【コース応用科目について】

「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」は3，４年生で履修します。ⅠからⅡへと段階的に進み，卒業研究に直接繋がっていく科目ですので，原則として同一教員の演習と卒業研究をひとまとまりで履修してください。演習の受講者調整は２年生の後期に行います。また，中学校・高等学校の「保健体育」の教員免許取得を目指す場合，スポーツ健康科学教室の教員による「心身健康総合演習」を履修してください。

その他のコース応用科目は，各自の興味や進路に合わせて選択し，心身健康総合演習と合わせて16単位以上履修します。

また，コース自由選択科目（10単位以上），および他コース選択科目（10単位以上）についても，各自の興味や進路を十分に考慮して総合的な視点から履修してください。

【取得資格について】

心身健康コースでは，次の資格取得ができます。取得を希望する場合は，第Ⅲ章（pp.67－93）および以下の補足説明を参照し，履修計画を立ててください。

１）認定心理士（(公社）日本心理学会について）

この資格は，公益社団法人日本心理学会が認定する心理学の基礎資格で，大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定するものです。ただし，専門職としての職務を遂行することを想定したものではありません。

「教育心理学」は進級条件や卒業条件の単位としては認められませんが，認定心理士資格の取得のための単位としては認められます。

２）中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の履修クラスについて

２年次のコース配属から，中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の取得希望者を履修クラスに編成し，担当教員がついて履修指導します。また，応用科目における地域実習（ウェルネス・プロジェクト実習等）では教員免許取得のために，受け入れ先は学校関係や競技団体等に限定されます。また，履修クラスでは，２年から３年間，保健体育教育の学生ゼミを授業以外で行い，指導実践力を高めていきます。

３）健康運動指導士養成クラスについて

２年次のコース配属から，健康運動指導士養成クラスを編成し，指導教員を置き，資格取得のためにサポートを行います。

４）日本体育協会の公認スポーツ指導者資格に関して，次のコースが承認されています。

・共通科目Ⅰ・Ⅱ（講習・試験免除）コース

・アシスタントマネジャー（講習免除）コース

・ジュニアスポーツ指導員（講習免除）コース

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	公　共　政　策	60　名

Ⅰ　公共政策コースとは

本コースは，社会科学のうち，法律学，政治学，経済学，並びに経営学の基盤となる知識を総合的に習得した上で，現代社会が抱える様々な問題に対して，公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

持続可能な社会を創生することに貢献できる人材を養成するために，専門の講義，演習，実習などの履修を通じて以下のような教育目標を追求していきます。

1）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野をそれぞれ理解する能力の習得

2）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野を，総合的・融合的に理解する能力の習得

3）上記1），2）の能力を基礎として，現代社会が直面している具体的な課題に対し，公共政策的観点からの解決策を提示，実行できる能力の習得

それらの能力を習得した上，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成し，公共政策的視点から問題解決策を提示できるマネジメント能力を育成する。

また本コースでは，社会科学を総合的・融合的に理解する能力を習得できるように，各分野間に単位修得上の垣根を設けておりません。さらに公共政策の基礎能力を習得できるよう，公共政策学を開講しています。

Ⅲ　履修上の要望事項

1）演習（ゼミナール）について

本コースのカリキュラムの中核は，3・4年次に開講される「演習」（ゼミナール）です。所属する演習によって専攻が確定し，原則として演習担当教員の指導の下に，専門についての学習が深められ，卒業研究が行われます。2年生後期に演習の所属が決定されますが，できるだけ早い時期にどの演習を選択するのが自分にとってふさわしいか，関係各教員と十分に相談の上，慎重に検討してください。具体的には以下の演習が開講されます。

公共政策総合演習Ⅰ：3年次配当の法律・政治・経済・経営学系演習

公共政策総合演習Ⅱ：4年次配当の法律・政治・経済・経営学系演習

2）卒論について

本コースでは，卒業研究（6単位）が必修となります。4年次に所属する演習の担当教員の指導の下，卒業研究（卒論）を作成します。

3）学修モデルについて

本コースでは，上記の教育目標を達成するために，標準的な学修モデルをふたつ用意しております。

① ビジネス学修モデル

ビジネス学修モデルは経済学と経営学を中心に学び，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成するためのモデルであり，たとえば企業経営，少子高齢化，地域興しなどに関心を持ち，あるいは年金，財政や雇用創出などの問題に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

経営学
会計学
総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎），ミクロ経済学
マクロ経済学入門，マクロ経済学
財政学
地域経済論
国際経済学
公共政策学
なお，演習に関しては，経済・経営学系演習を推奨します。

② 政策学修モデル

政策学修モデルは法律学と政治学を中心に学び，公共政策的観点から問題解決策を提示し，それをマネジメントできる人材を育成するためのモデルであり，例えば政策設計のあり方，政治とメディアの関係，憲法改正などに興味を持ち，あるいは環境保護や男女平等をはじめとするさまざまな社会問題に関わる法律に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

憲法
民法
商法
行政法
平和学
国際関係論
環境政策論
総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎），公共政策学
なお，演習に関しては，法律・政治学系演習を推奨します。

4）その他

教養教育科目でも法律学，政治学，経済学，経営学の授業が多数開講されています。これらの授業科目を履修しておかないと公共政策コースの専門科目として開講される科目を受講できないわけではありませんが，当然両者は関連していますので，自分の関心の分野がある程度絞れているのであれば，教養教育科目の授業でもその関心分野に沿ったテーマの授業の履修を心がけてください。

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	地　域　創　生	60　名

Ⅰ　地域創生コースとは

キーワードは「まちづくり・地域づくり」です。実際のまちづくり活動に関わりながら，現代社会を，社会学，文化人類学・民俗学，地理学，都市計画，地域政策，歴史学・考古学，言語学，情報，芸術の視点で総合的・重層的に捉え，表現し，創造できる人材を養成することを目指しています。

Ⅱ　教育目標

グローバリゼーションが進行するなか，産業空洞化や経済的不均衡の拡大，過疎化，少子高齢化やコミュニティの変質，ICT 社会への適応など，現代の地域社会は多くの問題に直面しています。これらの問題の改善や解決に向けて，的確な判断と柔軟な発想に基づき，ICT（Information and Communication Technology）に関する知識とスキルを身につけた文理融合型「まちづくり・地域づくり」政策を，積極的に推進する人材を養成することを目標にしています。公共政策コース開講の科目も専門科目として多く取り入れ，政策に実践的に関わる人材を育成します。

４年間の学びを通じて育てたいのは，以下に掲げる５つの能力です。

① 統計データの活用と分析（データサイエンス），GIS（地理情報システム）を用いた空間解析など，高度な社会情報処理能力（GIS 学術士）

② 地域社会の現場におけるフィールドワークを重視し，調査の企画･設計から，インタビューやアンケートの実施，報告書の作成，プレゼンテーションに至るトータルなプロセスをこなせる能力（社会調査士）

③ 地域の歴史や文化に対する基本的な知識を身につけ，郷土史や伝統行事の継承と活用に際して指導的な立場で関われる能力（学芸員）

④ 情報処理に関連する基礎的な知識と技術を身につけ，地域づくりに活用できる能力（システムエンジニア・プログラマー）

⑤ コンテンツクリエーターとして論理的な思考能力とともに，それを芸術的に表現する能力（コンテンツクリエーター）

本コース在学生には，上記のうちの少なくとも１つの能力をコアに，複数の能力を横断的に身につけてもらいたいと考えています。

Ⅲ　履修上の要望事項

【卒業研究について】

地域創生コースでは，卒業研究が必修になっています。２年次の１月に希望する指導教員を届け出て，３年次からゼミを受講し，最終的には４年次に指導教員を決定します。教員のアドバイスを参考にしながら，体系的な履修計画を心がけてください。卒業研究は，卒業論文または卒業制作のどちらかになります。卒業研究を指導する教員ごとに異なりますので，指導教員に相談してください。

【学修モデルについて】

本コースでは，それぞれ関連し合った３つの学修モデルを想定しており，それぞれのモデルの科目を体系的に受講してもらうことで，教育目標の５つの能力を身につけてもらいたいと考えています。これらの科目は，学部共通科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目にまたがっています。各自，自分なりの履修計画を立ててください。

地　域　社　会　学　修　モ　デ　ル	
地域社会学修モデルは，「地域」と「調査実習」をキーワードにしています。地理学や社会学の観点から地域社会の構造を理解し，都市計画・地域政策学の観点から政策を立案できるような履修が可能となります。現地調査（フィールドワーク）に加えて，GIS や社会統計分析など，基礎的な調査に必要な手法も学ぶことができます。地方公務員となって地域づくり・まちづくりを担ってみたい方にお勧めのモデルです。このモデルを中心に履修する学生は，以下の科目を受講することを強く推奨します。	
地理学の基礎Ⅰ・Ⅱ	２前後（コース入門科目）
地域政策論Ⅰ	２前（コース入門科目）
社会変動論	２前（コース入門科目）
地域計画Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
比較社会論	２後（コース応用科目）
福祉社会論	２前（コース応用科目）
まちづくり地域社会論	２後（コース入門科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

調 査 実 習 （ フ ィ ー ル ド ワ ー ク ）	
この学修モデルで卒業論文を執筆される方は，２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で，「地域調査演習」はその応用と実践（フィールドワーク）にあたります。調査法と調査演習は一体として運営され，担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには，地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。	
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

地　域　文　化　学　修　モ　デ　ル

地域文化学修モデルは，「行動する文化・歴史研究」をキーワードにしています。歴史学・考古学，文化人類学・民俗学，社会言語学，地理学の観点から地域の歴史と文化を学ぶ科目から成り立っています。地域に根ざした「発展」のあり方について考え，実践するためには，その地域の歴史的な成り立ちや文化，言語について深く理解する必要があります。そのために，GIS を用いて過去の景観を復原する時空間分析の手法や，フィールドワークによる地域の文化や方言に関する調査，古文書や考古学的な資料の収集・分析・保存など多様な学びが可能です。博物館の学芸員や社会科の教員，国家・地方公務員やメディアや観光業界といった，ひろく地域ならではの歴史・文化資源の探究と活用に関わりたい方にお勧めのモデルです。この学修モデルでは，以下の科目の履修を強く推奨します。なお，卒業論文執筆については，文化人類学・民俗学と地理学では地域調査法と地域調査演習，考古学では考古学調査法と考古学調査実習，日本史学では日本史基礎研究Ⅰ又は日本史基礎研究Ⅱ，社会言語学では応用日本語学概説，日本言語研究を２年次か３年次に受講しておくことが前提となります。

日本史研究Ⅰ	２前（コース入門科目）
考古学概説	２前（コース入門科目）
日本言語概説	２前（コース基礎科目）
地域変容論	２後（コース応用科目）
地域文化論Ⅰ・Ⅱ	２後（コース応用科目）

調 査 実 習 （ フ ィ ー ル ド ワ ー ク ）

この学修モデルで文化人類学・民俗学や地理学に関連した卒業論文を執筆する学生は，２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で，「地域調査演習」その応用と実践（フィールドワーク）にあたります。調査法と調査演習は一体として運営され，担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには，地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。

地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

情　報　・　表　現　学　修　モ　デ　ル

情報・表現学修モデルは，プログラミングやアプリ開発のような情報学とデザインや絵画表現のようなアートの融合を目指しています。情報という観点により，地域社会をネットワークやコミュニケーションの視点から分析できるようにします。プログラミングを通じて，コンピューターに自分の意図した情報処理を行わせるスキルを習得できるようになります。その上で，アートや言語といった対象に即して効果的に表現する手法を習得し，実践します。この学修モデルでは，以下の科目をまず受講しておくことを強く推奨します。

ネットワーク・アプリケーション研究	２前（コース入門科目）
情報と職業	２後（コース入門科目）
情報創生プロジェクト	２前（コース基礎科目）
環境アート	２前（コース基礎科目）
メディア情報論	２後（コース応用科目）

【コース独自の教育でとれる資格】

社　会　調　査　士	
社会調査士の資格取得には，社会調査士認定機構により認定されたＡ～Ｇの中から６科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の社会調査士の項目を参照）。調査設計から実査･フィールドワークを通じての報告書作成といった一連社会調査に必要な能力が身につきます。認定科目は年度ごとに変わるので，申請の際には必ず，社会調査士認定機構の HP を参照すること。	
情報処理基礎論	１後（学部共通科目）
社会統計学Ⅰ	２前（コース基礎科目）
社会統計学Ⅱ	２後（コース基礎科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

Ｇ　Ｉ　Ｓ　学　術　士	
GIS 学術士の資格取得には，日本地理学会より認定されたＡ～Ｄに対応する科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の GIS 学術士の項目を参照）。地理情報をコンピューターで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示・伝達することに関わる能力が身につきます。対応科目は，年度ごとに多少の変動があるので，申請の際には必ず日本地理学会の GIS 学術士の HP を参照すること。	
情報科学	１前（教養教育科目・必修）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅱ	２後（コース応用科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）
地域総合演習Ⅰ・Ⅱ	３・４前後（コース応用科目）

3．学生生活の基本事項

総合科学部では，みなさんが充実した学生生活を送ることができるように，様々な支援体制をとっています。以下では，そうした情報や学生生活を送る上での注意事項を紹介しています。よく目を通し，有意義な学生生活を送るようにしてください。

なお，学務部発行の『学生生活の手引』も併せてよく読んでおいてください。

学生への連絡方法／大学の連絡先

みなさんに対する通知や連絡（講義室の変更，試験，休講，呼び出しなど）は，すべて掲示によって伝えられます。常に所定の掲示板（教養教育については教養教育４号館１階，専門教育については総合科学部１号館学務係前および１号館西側の外）を一日に一回は必ず見るようにして，自己に不利な結果を招かないように注意してください。また，総合科学部のホームページ（http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/）や，学生用教務事務システムにも主要な事項が掲載されています。

大学への問い合わせや緊急連絡等が必要な場合には，総合科学部事務課学務係まで連絡してください。

◎総合科学部事務課学務係（総合科学部１号館西棟１階）

TEL. 088 － 656 － 7108　　FAX.088 － 656 － 9314　　E-mail：skgakumk@tokushima-u.ac.jp

学生証の交付

学生証は，本学の学生であることの証明ですから，常に携帯してください。学生証を所持していないと，講義室，研究室，図書館，情報センターなどの本学諸施設が利用できなかったり，証明書等の交付や試験が受けられない場合があります。紛失した場合には，直ちに学生証汚損（紛失）届に写真（更新する場合のみ）を添え，学務部教育支援課教務・情報係で再交付を受けてください（徳島大学学部共通細則第７条～第11条,『学生生活の手引』関係諸規則参照）。

学生支援の体制

総合科学部では，留学生・社会人・帰国子女・編入生を含むすべての学生の大学生活を支援する体制を組織的に整えています。

授業の履修や学習等の支援については「教務委員会」，学生生活の支援については「学生委員会」，将来の進路や就職に関わる支援については「就職委員会」が中心になって担当しています。

また，それ以外の教員も含めて，各学年に担任教員を配置しています。１年生については，各コースの教務委員･学生委員のいずれかが主担任であり，「課題発見ゼミナール」の各クラス担当教員が副担任です。２年生については，所属するコースの教員のいずれかが主担任であり，そのコースの教務委員・学生委員が副担任です。３・４年生については，所属するゼミ（卒業研究のための演習）の担当教員が主担任であり，所属コースの教務委員・学生委員が副担任です。

この他，各コースに就職委員がいます。何かわからないこと，気になることがあれば，これらの教員に遠慮なく相談してください。また，どこに相談してよいかわからないときは，総合科学部事務課学務係に尋ねてください。

オフィスアワー

総合科学部の教員が，毎週決まった曜日・時間に研究室で皆さんの相談に応じています。また，相談内容によっては，専門分野の先生方を紹介しています（詳しくは，総合科学部のホームページ，シラバスおよび各教員研究室のドアの表示をご覧ください)。

キャリア支援・就職情報

将来の進路とキャリア教育

将来の進路（就職・進学）をどうするかは，学生生活で最大の課題です。就職・進学それぞれの進路には，それなりの準備と能力が求められます。早めに自分の将来設計（キャリアデザイン）を立て，その実現に向けて努力が必要になります。

総合科学部では，そうした皆さんの将来設計を支援するキャリア教育として，必修科目「キャリアプラン入門」を１年次の前期に履修することになります。この科目では，大学での学びの意義や方法を学修するとともに，社会人基礎力（人間力・就業力）やキャリアデザイン設計について学びます。コース配属後の２年次以降も,「キャリアプラン」あるいは「短期インターンシップ」という授業科目を履修することもできますので，自らの専門分野を深める中で，将来設計の一助としてください。

キャリア支援室

就職に関する情報は，キャリア支援室（教養教育４号館１階）で提供されています。ここでは，みなさんが将来の進路を考える参考になるように，全国の企業・事業所および公務員試験・教員採用試験等の就職情報が整理されており，必要に応じて自由に閲覧できるようになっています。

また，キャリアカウンセラーが皆さんの相談に応じていますので，3･４年生のみならず１・２年生のみなさんも気軽に相談してください。一人で悩んでいるより相談するほうが，良い結論が導き出されることはいうまでもありません。なお，キャリア支援室には次のような資料等があります。

- 企業からの求人票・会社概要など
- 就職ガイダンスや会社説明会の案内
- 公務員等受験案内
- 教員採用試験案内
- 就職関係図書・DVD，ガイダンス DVD
- 各種就職雑誌（受験ジャーナル・教職課程など）
- 新聞（徳島新聞・日本経済新聞）
- 卒業生の就職先一覧
- 企業等受験報告書
- 就職に関する情報検索のためのパソコン，プリンター
- コピー機

就職委員会

就職については，各コースの就職委員（教員）で組織する就職委員会を中心に，企業開拓，情報収集，就職説明会・講演会，就職相談，助言指導，進路調査などにあたっています。就職委員は皆さんの進路選択へのアドバイスも行っていますので，将来設計についても積極的に相談してください。就職は人生の一

大選択です。家族や指導教員，就職委員，あるいはキャリア支援室の職員やキャリアカウンセラーなどともよく相談しながら，悔いのない選択をしてください。

なお，民間企業を中心とした就職ガイダンスやセミナー，企業説明会，求人紹介などは，全学組織である「キャリア支援室」を中心に実施していますが，総合科学部就職委員会ではこのほかに，総合科学部学生にニーズが高い公務員や教員などの試験対策や卒業生との懇談会なども行っています。早い段階からこうした取組に積極的に参加し，自らの意識を高めるように心がけてください。

就活サポート室

総合科学部では独自に就活サポート室を設けており，人事等担当経験豊富なキャリアコーディネーターが県内において求人開拓を行っています。就活のワンポイントアドバイスを始め，県内・四国内企業就職希望者への情報提供，経済・雇用状況についての分析もしています。

就活サポート室で得られた情報は，各コースの就職委員を通じて掲示されますのでご覧ください。

また就活サポート室ではみなさんの就職相談，企業紹介，履歴書・エントリーシートの書き方，添削指導，企業研究，面接方法と言った個人指導も行っています。

３年生後期になって実際の就職活動が始まってみると戸惑う人も多いのですが，ベテランのキャリアコーディネーターの助言は有益です。少しでも就職活動を有利に進めるために就活サポート室を活用してください。

また１・２年のみなさんも，将来に向けて役立つ情報を提供しておりますので立ち寄ってください。

定期健康診断

毎年４月～５月に健康診断を実施していますので，**必ず受診してください**。また，４年次学生で就職活動などに必要な健康診断証明書は，定期健康診断受診者に対して諸証明自動発行機で発行しています。

休学および退学の手続き

１）休学の理由

次の理由により，２か月以上就学できない場合，許可されれば休学できます。休学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。それぞれの理由に応じて休学願のほか，カッコ内の書類が必要です。休学願は学務係で随時受け付けます。

① 疾病又は負傷（医師の診断書）
② 学資の支弁が困難な場合（理由書）
③ 災害等により修学困難と認められた場合（罹災証明書）
④ 海外の教育・研究施設において修学する場合（受入先の証明書（写））
⑤ 自主的な海外留学や長期海外生活体験のための休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑥ 大学院における研究を継続するために必要な期間の休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑦ 勤務の都合（理由書）（夜間主コース及び大学院各教育部の学生のみを対象とする）
⑧ 出産又は育児に従事する場合（母子健康手帳の写し等）
⑨ 家族の看病又は介護をする場合（理由書）
⑩ 公共的な事業に参加する場合（受入先の証明書（写））

⑪　その他，やむを得ない理由であると認められた場合（理由書及び指導教員等の意見書）

2）休学にともなう授業料の免除

休学しようとする学期の前に休学が許可されれば，当該の学期中，授業料は発生しません。そのためには学期の始まる１か月前までに休学願を提出してください。学期が始まってからの休学は一部または全額の授業料が必要です。

3）退学

退学の場合は，退学願のほか，指導教員等の意見書が必要です。学務係で随時受け付けますが，学期の途中での退学の場合は授業料が発生します。学期が始まる前に退学を許可されたい場合，学期の始まる１か月前までに退学願を出してください。授業料未納者の退学願は受理できません。

退学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。

授業料納付および授業料免除

1）授業料納付

授業料は前期（４月から９月）分を４月末日までに，後期（10 月から翌年３月）分を 10 月末日までに納入しなければなりません。

なお，申出により，前期分納入の際，後期分もまとめて納入することができます。

入学年の前期分授業料は，銀行窓口にて，本学専用の振込用紙を使った銀行振込となりますが，後期分～卒業までの授業料の納入方法として，本学では，「口座振替制度」を実施しています。口座振替制度とは，指定金融機関（阿波銀行・三菱東京 UFJ 銀行・四国銀行・徳島銀行・ゆうちょ銀行）に開設された学生，保護者又は保証人名義の預金口座から，前・後期ごとに自動引落が行われる納入方法で，手数料は不要です。

■注意事項

①　授業料口座振替申込書は合格通知書に同封されています。

②　正当な理由もなく納付を怠り，催告してもなお納付しない者は，学則第 28 条第２号により除籍されます。

2）授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難で，かつ学業成績が優れていると認められる者などには，授業料の全額または半額が免除されることがあります。授業料免除を希望する者は，学務部学生支援課で申請書の交付を受け，所定の期間内に提出してください。

ア．授業料免除提出期日

前期分　３月上旬～中旬（２月上旬に掲示）

後期分　９月上旬～中旬（７月下旬に掲示）

イ．提出書類

①　授業料免除申請書　　②　家庭調書　　③　市町村長の証明した生計状況調査書

④　その他必要書類

授業料免除の申請基準は？

授業料免除の申請時には，経済的な理由だけでなく，学業成績も審査の対象となります。１年次学生は高校の評点が3.5以上，２年次以降の学生は標準修得単位数（２年32単位，３年64単位，４年96単位以上）を取得したうえで，前年度までの学業成績が，学科の同学年で上位１／２以上であることが必要です。成績の算出にあたっては，履修した科目の成績に単位数を掛けた値を合計し，総単位数で除した数値を用います。ただし，成績が60点未満の場合や，履修届を出したにもかかわらず試験等を受けなかった科目については「０点」とカウントされますので注意してください。

学術交流協定校等への交換留学および語学研修制度

徳島大学は海外の大学と学術交流協定を結んでおり，協定校への交換留学制度を整えています（大学院生対象分も含む）。また，さまざまな奨学金制度もあります。ここでは概要のみを示しますので，詳細は以下に問い合わせてください。カルチャー・ラウンジ（１号館北棟２階）でも資料を閲覧できます。

・国際課国際交流係（地域創生・国際交流会館４階，TEL 656 － 9882）
・田久保　浩　教員（英語圏の場合）h.takubo@tokushima-u.ac.jp
・荒武　達朗　教員（中国語圏の場合）aratake@tokushima-u.ac.jp

１．学術交流協定締結校への留学（長期＝セメスター留学，単位取得を目的とする）

学術交流協定締結校へ交換留学をするためには，次の３点を満たすことが必要です。希望する学生は計画的に準備をしておく必要があります。

１）グローバル人材育成学習プログラム（102頁参照）に登録すること
２）現地使用言語の充分な能力
　英　語：以下に示すいずれかの検定試験の得点以上のスコアを持っていなければ派遣候補にはなれません。また，高スコアを持っているほうが選考上有利です。
　　TOEIC　スコア500，TOEFL　スコア470
　　（TOEIC IP，TOEFLはITP Level １を基準とする）
　中国語：HSK，中国語検定試験，TECCによる資格に基づいて審査をします。未取得でも応募できますが，上級，高スコアを持っているほうが有利になります。
３）応募時点での総合科学部GPA2.6以上
　（未満は派遣候補になれません）

これらの条件を満たした上で，書類選考，面接により派遣が決定されます。なお，「外国留学願」は出発の２ヶ月前までに国際課国際交流係に提出すること（短期留学の場合も提出する必要あり）。さらに長期＝セメスター単位で留学する者は「留学に伴う履修計画書」を学務係に提出する必要があります。これには単位認定を希望する科目などの情報を書き込みます。また，留学により修得した単位の本学部での認定については，「９留学及び外国語技能検定試験による単位認定」（44頁）を参照してください。

・学術交流協定締結校等と使用言語

①　ルンド大学（スウェーデン）（英語）
②　ビショップス大学（カナダ）（英語）
③　ヴァレンシア大学*（アメリカ合衆国）（英語）

④　慶北大学校（韓国）（英語）

⑤　サビトリバイ　プーレ　プネ大学（インド）（英語）

⑥　マラヤ大学（マレーシア）（英語）

⑦　復旦大学（中国）（中国語）

⑧　武漢大学（中国）（中国語）

⑨　南京大学（中国）（中国語）

⑩　吉林大学（中国）（中国語）

⑪　西安交通大学（中国）（中国語）

⑫　国立嘉義大学（台湾）（中国語）

上記の大学へのセメスター単位の留学が可能です。人数，締め切り時期については問い合わせてください。なお，毎年複数回，留学制度の説明会を開催します。

＊ヴァレンシア大学への留学は，ディズニー･ワールド（カリフォルニア州オーランド）でのインターンシップを含みます。英語でのジョブ・インタビューに合格する必要があります。

＊協定校等へ長期留学する学生は，渡航日程の関係上，不都合があれば学部専門科目の定期試験を繰り上げて受験できる場合があります。詳しくは学務係に問い合わせてください。

２．語学研修制度（短期留学）

①　南イリノイ大学 Center for English as a Second Language（アメリカ合衆国）

派遣期間：８月～９月（４週間程度）

募集期間：５月

費　　用：55 万円程度

②　オークランド大学 English Language Academy（ニュージーランド）

派遣期間：２～３月（４週間程度）

募集期間：10 月～ 11 月

費　　用：50 万円程度

③　モナシュ大学 English Language Centre(オーストラリア）

派遣期間：８～９月，２～３月（４週間程度）

募集期間：５月，10 月～ 11 月

費　　用：50 万円程度

④　復旦大学　国際文化交流学院（中国）

派遣期間：８月（４週間程度）

募集期間：５月

費　　用：25 万円程度

語学研修は事情により，おこなわれない年もあります。この他に，７月末～８月初旬には慶北大学校で「夏休み短期文化研修プログラム」(募集は４月～５月頃)が，３月には台湾の育達科技大学を中心として「春休み短期日本語教育・台湾文化研修」（募集は 12 月頃）が行われる予定です。

上記語学研修は「総合科学実践プロジェクトＪ」（42 頁，134 頁）による単位認定のプログラムです。

3．学術交流協定締結校への留学及び語学研修に対する援助

① 「徳島大学海外留学支援制度　徳島大学アスパイア奨学金」

派遣期間：12ヶ月未満

奨学金額：短期（8日以上2ヶ月未満）　5万円～7万円（最高）

長期（2ヶ月以上12ヶ月未満）1ヶ月あたり　4万円～6万円（最高）

応募締切：募集要項（国際センターホームページ http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/ 内）による。

採　択　数（例年実績）：

長期（3月以上12ヶ月以内）　10名程度

短期（3ヶ月未満）　80名程度

② 「徳島大学学生後援会」による学生の海外派遣支援助成

派遣期間：28日以上

奨学金額：大学院生　5万円

学部学生　3万円　※1度の派遣につき1回限り

応募締切：随　時

③ JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）奨学金

申請プログラムが採択された場合のみ。

2016年度は3名に支給予定（地域により月額6～8万）

いずれも「外国留学願」を提出し，学長の許可を得る必要があります。また，本学及び他の機関から海外留学に関わる他の奨学金による給付を受ける場合は，原則として対象となりません。上記以外に援助が出る場合もありますので，国際課国際交流係に問い合わせてください。

総合科学部の海外留学については下記のページを参照にしてください。随時新しい情報がアップされます。また，カルチャー・ラウンジでも情報を提供していますので訪問してみてください。

http://www.souka-international-tokushima-u.net

徳島大学の留学生のための奨学金制度

私費留学生が応募できる奨学金には下記のようなものがあります。

・日本学生支援機構による文部科学省外国人留学生学習奨励費

申請時期：3月末～4月初旬

・徳島大学国際教育研究交流資金による外国人留学生に対する奨学金事業

申請時期：3月～4月末頃

・各種民間財団による奨学金

詳細については国際課国際交流係に問い合わせてください。

奨学金制度

人物・学業ともに優秀で，かつ経済的理由から就学が困難と認められる者には，選考の上，日本学生支援機構から**第1種奨学金（無利子貸与），第2種奨学金（有利子貸与）**が貸与されます。ただし，学業成績が著

しく不良な者は，奨学金の貸与が停止になることがあります。

これ以外にも，地方公共団体および民間奨学会による奨学金制度があります。募集等の条件は，団体により種々異なり，大学を通して応募するものと団体へ直接応募するものがあります。

奨学生の募集は掲示により通知しますので，希望者は学務部学生支援課（教養教育４号館１階）へ申し出てください（詳細は学務部発行の『学生生活の手引』を参照）。

賞罰・表彰

学業や課外活動，社会活動において高い評価を受けた学生は，「徳島大学学生表彰」を受けることがあります。また，学業・人物が優秀な学生は「康楽賞」による表彰制度もあります。一方，本学学生としての本分に反した者は，退学・停学などの懲戒処分を受ける場合があります（「徳島大学学則第51・52条」）。

１）徳島大学学生表彰

「徳島大学学生表彰要項」にもとづいて推薦されますが，表彰を受ける基準は次のようになっています。該当者は学務部学生支援課（教養教育４号館１階）まで申し出てください。

① 学業その他において得られた成果が，学会又は国内外の公的機関等において表彰された者

② 全国規模のスポーツ競技会等において３位以内に入賞した者

③ 西日本大会等において優勝した者

④ 中・四国大会等において優勝した者

⑤ 四国地区大学総合体育大会（通称インカレ）において優勝した者

⑥ 文学，絵画，彫刻，音楽，演劇等の芸術・文化活動で作品・公演等が，全国規模の審査等で賞を受けた者

⑦ ボランティア活動，人命救助，犯罪または火災防止等で，国内外の公的機関等において表彰された者

２）総合科学部学生表彰

総合科学部では，学業成績（GPA）が優秀であった３年生及び４年生を「総合科学部学生表彰要項」に基づいて表彰します。

３）康（こう）楽（らく）賞

本学には，康楽会から贈られる康楽賞（学術研究と奨学金の２種類）の制度があります。いずれも，各年度の卒業年次学生に対して優先的に授与されます。募集は毎年７月頃に掲示により通知されますので，希望者は推薦書などの所定の書類を揃えて総合科学部事務課学務係へ提出してください。

康楽賞（学術研究）は人物および学業成績が優秀で，卒業研究などで優れた研究成果等をあげた者（３件）に賞状と賞金（５万円）が授与されます。応募時には研究報告書が必要です。また，康楽賞（奨学金）は学業成績が優秀で，経済的に困難である者（３名）に賞状と賞金（10万円）が授与されます。

４）徳島大学総合科学部渭水会会長賞

本学部には，渭水会から贈られる渭水会会長賞の制度があります。渭水会会長賞は，指導教員の推薦に基づき，学業成績優秀で研究活動及び学生としての活動全般について，模範となる優れた学生（３名）に賞状と副賞（５万円）が授与されます。

５）試験などの不正行為

試験でカンニングをはじめ不正行為をした者は，徳島大学学則により懲戒処分（退学，停学，訓告）

を受けます。また，当該の科目はもとより，その学期中に履修した他のすべての科目の成績が取り消されます。

不正行為とは，次の行為をいいます。

① カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること，他人から答えを教わることなど）をすること。カンニングに協力することも不正行為です。

② 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。

③ 試験場において，試験監督者等の指示に従わないこと。

④ 試験場において，他の受験者の迷惑となる行為をすること。

⑤ その他，試験の公平性を損なう行為をすること。

試験時以外に，不正行為と見なされるものとして，次のような行為があります。

① インターネット上からのコピペや文献・書籍を丸写しすること。レポートなどで，他人の書いた文章を自分が書いた文章のようにして提出するのは盗作です。他人の文章を引用，参照する際は出典を明記します。

② 代筆や代返など他人がなりすまして出席を装うこと。

学業成績も考慮されます

授業料免除と同様に，学生交流協定締結校への留学や，奨学資金・康楽賞の応募には，「学業成績が優秀」であることも条件となっています。各選考の学業成績基準は若干異なりますが，１）１年次の場合には高校の評点が3.5以上，2年生以上は標準修得単位数（２年32単位，3年64単位，4年96単位以上）を取得したうえで，２）成績が学科の同学年で上位１／２以上か，3）修得単位ごとの各科目の成績に［優５／良３／可１］の数字を乗じ，その総和を総単位数で除した成績が3.0以上であることが，一つの目安になります。

証明書や届出

各種証明書の発行や各種届の手続き・窓口は，内容によって違います。成績証明書，在学証明書，学割証，卒業（修了）見込証明書，健康診断書などは，諸証明自動発行機（４号館１階・教育支援課）で発行されます。他の証明や届は総合科学部事務課学務係，学務部教育支援課・学生支援課（４号館１階）などに分かれますので，詳細は『学生生活の手引き』で確認してください。

身上調書に記入した内容に変更があった場合は，１週間以内に学務係に届け出てください。

学部内施設の使用方法

１）運動場およびテニスコートの使用

⑴ 使用の受付は総合科学部事務課学務係が担当しています。

⑵ 使用調整のため，前期･後期に使用の希望調査（仮予約）を実施します。希望調査は「希望調査表」を学務係に提出してください。

⑶ 希望調査期間等は，それぞれの学期の初めに掲示板で周知します。

⑷ 「希望調査表」に基づき「使用日の仮予約」を学務係が行います。

⑸ 使用責任者は，仮予約後に実際に使用する場合は必ず使用日の３日前までには，「運動場及びテニス

コート使用願」を学務係に提出してください。

⑹　仮予約をしていない使用予定者は学務係で「使用状況表」を確認し，「運動場及びテニスコート使用願」を必ず提出してください。

建物・講義室などの使用および入退室

建物や部屋は夜間・休日は施錠されますが，学生証（カードキー）をかざせば開錠できます。ただし建物や部屋，学年，学科，コースなどにより入場できる条件は違いますので，掲示や説明会などで確認してください。各教室やゼミ室は空いている時間に限り利用できます。使用については，総合科学部事務課学務係まで問い合わせてください。

喫煙の禁止

キャンパス内は原則禁煙です。常三島キャンパスでは，非喫煙者の受動的喫煙による不快感を解消し，その健康被害を予防するために，建物内を全面禁煙としています。喫煙場所は生協前の憩い広場（喫煙コーナー）など指定された場所のみです。

構内の交通規制

交通事故防止のため構内では自転車，オートバイ，自動車等の車両の通行が規制されていますので，次の事を厳守してください。

1）**自転車**は自転車置場に整然と駐輪してください。通路をふさぎ歩行者の迷惑にならないように。

2）**オートバイ**

ア．学内に駐輪する場合は，登録申請が必要です。総合科学部オートバイ登録申請書を総合科学部事務課学務係へ提出してください。

イ．オートバイの構内走行は禁止しています。

ウ．オートバイは必ずオートバイ専用置場に駐輪してください。

3）**自　動　車**

ア．公共交通機関を利用して通学するのが原則ですが，交通が不便，かつ，通学距離が片道10㎞以上で，公共交通機関による通学が著しく不便である第４年次生（卒業研究受講資格者）に限り，希望すれば自動車通学が可能です。駐車許可申請書を総合科学部事務課総務係へ提出してください。選考の上，駐車許可証を発行します。なお，駐車許可証の発行は年１回で，申請時期は３月下旬～４月です。詳細は掲示で通知します。

イ．駐車許可証の交付を受けた者の駐車場は，附属図書館南側の第１駐車場です。入構時には，駐車許可証を車外から確認できるようにしてください。

ウ．休日や休業期間も含め，総合科学部構内への学生の乗り入れは原則禁止しています。

交通事故に遭ったとき

日頃から交通安全及び交通規則の遵守を心掛けてください。万一，学内外で交通事故が発生し，事故の当事者になった場合は，すみやかに以下へ届けてください。

・平　日　昼　間　　総合科学部事務課学務係　　TEL　088－656－7108
・平日夜間と休日　　セ　コ　ム　　TEL　088－655－4001

その他

エレベーターの利用は，障がいのある人，けがや病気の人，大きな荷物を持つ人などに限られます。

学生個人や団体が総合科学部の掲示板を利用したい場合は，掲示物を学務係に持参して許可を受けてください。掲示期間は１週間です。期限後は責任者が撤去してください。

Ⅱ. 規　　則　　集

1．徳島大学総合科学部規則

第１章　総則

（通則）

第１条　徳島大学総合科学部（以下「本学部」という。）に関する事項は，徳島大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

２　学則及びこの規則に定めるもののほか，本学部に関する事項は，本学部教授会が定める。

（教育研究上の目的）

第１条の２　本学部は，人文，人間，社会，地域及び情報等の諸科学における専門知識や専門技能及び技術を身につけるとともに，専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し，問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的とし，人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。

第２章　入学者選考

（入学者選考）

第２条　本学部の入学者の選考は，学則の定めるところによって行うものとする。

第３章　教育課程及び履修方法

（コース）

第３条　本学部社会総合科学科に次のコースを置く。

国際教養コース
心身健康コース
公共政策コース
地域創生コース

（コースの決定及び変更）

第４条　本学部の学生は，前条に掲げる各コースのうち，いずれか一つに所属するものとする。

２　前項のコースの決定時期は，第２年次の初めとする。

３　第１項のコースを変更しようとするときは，第２年次以降の学年末に，所定の願書を本学部長に提出しなければならない。

４　前項の願出については，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

（教育課程）

第４条の２　本学部の教育課程は，教養教育の授業科目（以下「教養教育科目」という。）及び専門教育の授業科目（以下「専門教育科目」という。）により編成する。

（教養教育科目の履修等）

第４条の３　教養教育科目の履修等に関することは，徳島大学教養教育履修規則（以下「教養教育履修規則」という。）の定めるところによる。

２　教養教育履修規則第５条に定める履修要件は，別表第１のとおりとする。

（専門教育科目）

第５条　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目及び卒業研究に区分する。

２　専門教育科目及びその単位数は，別表第２のとおりとする。この場合において，コース自由選択科目は所属コースの授業科目を，他コース選択科目は所属以外のコースの授業科目を選択するものとする。

３　他の学部に属する専門教育科目は自由科目とし，これを履修することができる。

４　前項の規定により修得した単位は，20単位を超えない範囲で本学部における修得単位として認定することができる。

（履修手続）

第６条　専門教育科目を履修するためには，所定の期日までに当該専門教育科目担当教員に受講申請し，承認を受けるものとする。

第７条　第５条第３項の規定により履修するためには，本学部長を経て関係学部長の許可を得た後，当該専門教育科目担当教員に受講申請するものとする。

（進級要件）

第７条の２　上級学年に進級するためには，本学部長が別に定める要件を満たさなければならない。

（卒業研究）

第８条　卒業研究を行うには，各コースにおいて必要と認めた授業科目について，その単位を修得していなければならない。

（留学及び他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第９条　学則第27条の２の規定に基づき外国の大学又は短期大学に留学しようとする者及び第34条の２の規定に基づき他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとする者は，所定の願書を本学部長を経て学長に提出し，許可を受けなければならない。

（単位の認定）

第10条　前条の規定により許可を受けた者（以下「派遣学生」という。）が修得した単位又は学則第34条の４第１項の規定に基づき学生が休学期間中に，外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位の認定は，当該大学又は短期大学が発行する成績証明書により行う。

２　学則第34条の３第１項の規定に基づき大学以外の教育施設等において学修した授業科目について修得した単位の認定は，当該教育施設等が発行する成績証明書等により行う。

（履修報告書）

第11条　派遣学生は，履修を終えたときは，速やかに（外国の大学又は短期大学に留学する者については，帰国の日から１月以内），所定の履修報告書を本学部長を経て学長に提出しなければならない。

（外国人留学生に対する特例）

第11条の２　学則第49条の規定により入学を許可されたものに対し，日本語科目を置く。

２　日本語科目の授業科目，単位数及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第４章　試験，卒業，教員の免許状及び学芸員の資格

（試験）

第12条　授業科目の試験は，原則として定められた試験期間に行う。ただし，演習，実験及び実習については，試験を行わないことがある。

２　授業科目の試験を受けるには，授業時間数の３分の２以上出席していなければならない。

（成績）

第13条　試験及び卒業研究の成績は，100点をもって満点とし，60点以上をもって合格とする。

２　成績は，秀（90点以上），優（80点以上），良（70点以上）及び可（60点以上）に区分する。

（追試験）

第14条　病気その他やむを得ない事情のため，定められた期日に受験できなかった者は，その学年末までに追試験を受けることができる。

（再試験）

第15条　試験を受けて合格しなかった者は，その学年末までに再試験を受けることができる。

（卒業）

第16条　本学部を卒業するためには，次の単位を修得しなければならない。

教育課程	授業科目区分	単位数
教養教育科目		35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	13単位以上 （ただし，選択必修科目Ⅰから２単位以上必修，選択必修科目Ⅱから10単位以上必修）
	実践学習科目	14単位以上 （ただし，選択必修科目Ⅰから８単位以上必修，選択必修科目Ⅱから２単位以上必修）
	コース入門科目	14単位以上
	コース基礎科目	12単位以上
	コース応用科目	16単位以上
	コース自由選択科目	10単位以上
	他コース選択科目	10単位以上
	卒業研究	６単位
	計	95単位以上
合　　計		130単位以上

（教員の免許状）

第17条　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

（学芸員の資格）

第17条の2　学芸員となる資格を取得しようとする者は，博物館法（昭和26年法律第285号）及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第5章　転学部並びに再入学及び補欠入学

（転学部）

第18条　学則第22条の3の規定により本学部に転学部を願い出た者があるときは，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

2　転学部を許可する時期は，入学後1年以上を経過した学年の初めとする。

3　転学部を許可した学生を在籍させる年次は，本学部教授会の議を経て定める。

4　転学部を許可した学生の既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

（再入学及び補欠入学）

第19条　学則第21条の5及び第22条の規定により入学した者の在学期間及び既修得単位の認定については，次のとおりとする。

⑴　在学期間は，第2年次に入学した者は6年，第3年次に入学した者は4年とする。

⑵　既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

別表第1

教養教育科目の履修要件

区分	授業科目	所要単位数
一般教養教育科目群	歴史と文化	2単位
	人間と生命	2単位
	生活と社会	2単位
	自然と技術	4単位
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	4単位
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目	2単位
基礎基盤教育科目群	ウェルネス総合演習	2単位
汎用的技能教育科目群	SIH道場	1単位
	情報科学	2単位
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	2単位
外国語教育科目群	英語	8単位
	英語以外の外国語科目	4単位
合計		35単位

別表第2

専門教育科目表

学部共通科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	総合科学入門講座	1
選択必修科目Ⅰ	科学論	2
	情報処理基礎論	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学の基礎A	2
	総合科学の基礎B	2
	総合科学の基礎C	2
	総合科学の基礎D	2
	総合科学の基礎E	2
	総合科学の基礎F	2
	総合科学の基礎G	2
	総合科学の基礎H	2
	総合科学の基礎J	2
	Academic English Ⅰ	2
	Academic English Ⅱ	2
	Extensive Reading	2

実践学習科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	キャリアプラン入門	2
	課題発見ゼミナール	2
選択必修科目Ⅰ	キャリアプラン	2
	短期インターンシップ	2
	総合科学実践講義A	2
	総合科学実践講義B	2
	総合科学実践講義C	2
	総合科学実践講義D	2
	総合科学実践講義E	2
	総合科学実践講義F	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学実践プロジェクトA	2
	総合科学実践プロジェクトB	2
	総合科学実践プロジェクトC	2
	総合科学実践プロジェクトD	2
	総合科学実践プロジェクトE	2
	総合科学実践プロジェクトF	2
	総合科学実践プロジェクトG	2
	総合科学実践プロジェクトH	2
	総合科学実践プロジェクトJ	4

国際教養コース

コース入門科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	コース入門講座	2
選択必修科目	ジェンダー論	2
	比較宗教学	2
	国際語としての英語	2
	英語圏文学研究	2
	国際関係論	2
	近現代世界の成立と展開	2
	グローバル交渉史	2
	東アジア文化研究	2
	日本史研究Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2

国際教養コース
コース基礎科目

授業科目	単位数
日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2
日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2
現代日本社会論	2
日本言語概説	2
方言と社会	2
日本表象文化論Ⅰ	2
日本表象文化論Ⅱ	2
現代アジア社会Ⅰ	2
現代アジア社会Ⅱ	2
異文化間コミュニケーション	2
現代国際情勢概論	2
国際ジャーナリズム	2
Academic Communications Ⅰ	4
Academic Communications Ⅱ	4
実用外国語基礎演習Ⅰ	2
実用外国語基礎演習Ⅱ	2
実用中国語演習	4

国際教養コース
コース応用科目

授業科目	単位数
Advanced Academic Communications Ⅰ	4
Advanced Academic Communications Ⅱ	2
英語研究Ⅰ	2
英語研究Ⅱ	2
英語研究Ⅲ	2
カルチュラルスタディーズ	2
比較社会論	2
国際協力論	2
平和学	2
グローバル・ヒストリー	2
ヨーロッパ史研究	2
北米地域研究	2
イスラーム世界研究	2
アフリカ地域研究	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
現代科学論研究	2
環境倫理学	2
芸術文化論	2
比較文化研究	2
ヨーロッパ研究	2
ヨーロッパ文化研究	2
応用日本語学概説	2
日本言語研究	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
日本語教育方法論Ⅰ	2
日本語教育方法論Ⅱ	2
日本語教材研究	2
応用日本語学研究	2
日本文化研究Ⅰ	2
日本文化研究Ⅱ	2
書道	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
日本史研究Ⅱ	2
考古学概説	2
日本文化研究演習Ⅰ	8
日本文化研究演習Ⅱ	4
言語コミュニケーション演習Ⅰ	4
言語コミュニケーション演習Ⅱ	4
言語メディア研究演習Ⅰ	4
言語メディア研究演習Ⅱ	4
国際教養演習Ⅰ	4
国際教養演習Ⅱ	4
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4

心身健康コース
コース入門科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	コース入門講座	2
選択必修科目	心身行動研究法	2
	健康教育学	2
	健康科学の基礎	2
	健康体力科学の展開	2
	生涯発達心理学	2
	臨床心理学	2
	生理心理学	2

心身健康コース
コース基礎科目

授業科目	単位数
心理学実験実習Ⅰ	1
心理学実験実習Ⅱ	1
コーチング論	2
スポーツ心理学	2
学習心理学	2
行動統計学	2
運動生理学	2
知覚心理学	2
社会心理学	2
スポーツ社会学	2
スポーツ経営学	2

心身健康コース
コース応用科目

授業科目	単位数
コミュニティ心理学	2
精神医学	2
心理学実験実習Ⅲ	1
心理学実験実習Ⅳ	1
応用解剖生理学	2
衛生・公衆衛生学	2
コーチング論実習Ⅰ	1
コーチング論実習Ⅱ	1
コーチング論実習Ⅲ	1
コーチング論実習Ⅳ	1
コーチング論実習Ⅴ	1
コーチング論実習Ⅵ	1
コーチング論実習Ⅶ	1
コーチング論実習Ⅷ	1
地域スポーツ文化論	2
スポーツ栄養学	2
心身健康総合演習Ⅰ	4
心身健康総合演習Ⅱ	4
人格心理学	2
認知心理学	2
教育相談	2
健康心理学	2
スポーツマーケティング論	2
救急処置法	2
スポーツ科学実験実習	2
ウェルネス・プロジェクト実習	2
応用生理学	2
福祉心理学	2
健康行動論	2

公共政策コース
コース入門科目

区　　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	マクロ経済学入門	2
	経営学Ⅰ	2
	憲法Ⅰ	2
	民法Ⅰ	2
	国際関係論	2
	地域政策論Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	まちづくり地域社会論	2

公共政策コース
コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
公共政策学	2
環境政策論Ⅰ	2
行政法Ⅰ	2
商法Ⅰ	2
地域経済論	2
マクロ経済学Ⅰ	2
ミクロ経済学Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
国際経済学Ⅰ	2
会計学Ⅰ	2

公共政策コース
コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
憲法Ⅱ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱ	2
経営学Ⅱ	2
民法Ⅱ	2
民法Ⅲ	2
マクロ経済学Ⅱ	2
ミクロ経済学Ⅱ	2
応用経済学	2
国際経済学Ⅱ	2
財政学Ⅱ	2
平和学	2
環境政策論Ⅱ	2
会計学Ⅱ	2
近現代世界の成立と展開	2
グローバル・ヒストリー	2
国際協力論	2
公共政策総合演習Ⅰ	4
公共政策総合演習Ⅱ	4
知的財産の基礎と活用	2
国際農業論	2
ブランド戦略論	2

地域創生コース
コース入門科目

区　　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	社会変動論	2
	まちづくり地域社会論	2
	日本史研究Ⅰ	2
	考古学概説	2
	グローバル交渉史	2
	近現代世界の成立と展開	2
	地域政策論Ⅰ	2
	経営学Ⅰ	2
	情報と職業	2
	ネットワーク・アプリケーション研究	2
	国際関係論	2
	憲法Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2

地域創生コース
コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
社会統計学Ⅰ	2
社会統計学Ⅱ	2
行政法Ⅰ	2
Ｃ言語プログラミング	2
情報創生プロジェクト	2
環境アート	2
日本言語概説	2
空間情報論Ⅰ	2
地域調査法Ａ	4
地域調査法Ｂ	4
地域計画Ⅰ	2
考古学調査法	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
方言と社会	2
現代絵画論	2
写真画像保存技術概論	2

地域創生コース
コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
総合情報研究	2
地域文化論Ⅰ	2
福祉社会論	2
比較社会論	2
国際協力論	2
市民活動論	2
日本言語研究	2
応用日本語学研究	2
応用日本語学概説	2
地域環境論	2
地域文化論Ⅱ	2
地域構造論	2
空間情報論Ⅱ	2
地域変容論	2
地域計画Ⅱ	2
アフリカ地域研究	2
地域政策論Ⅱ	2
地域調査演習Ａ	4
地域調査演習Ｂ	4
日本史研究Ⅱ	2
日本史基礎研究Ⅲ	2
日本史基礎研究Ⅳ	2
考古学調査演習	2
メディア表現	2
メディア情報研究	2
映像デザイン	2

アート表現基礎	2
工芸表現と技法	2
彫刻研究	2
美術概論	2
データ表現研究	2
芸術創生基礎演習	2
メディア情報論	2
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4
絵画表現演習Ⅰ	4
絵画表現演習Ⅱ	4
デザイン表現演習Ⅰ	4
デザイン表現演習Ⅱ	4
メディア表現演習Ⅰ	4
メディア表現演習Ⅱ	4
インタラクション・デザイン演習Ⅰ	4
インタラクション・デザイン演習Ⅱ	4
メディア情報演習Ⅰ	4
メディア情報演習Ⅱ	4
情報創生演習Ⅰ	4
情報創生演習Ⅱ	4
地域総合演習Ⅰ	4
地域総合演習Ⅱ	4
スポーツ経営学	2
商法Ⅰ	2
民法Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
平和学	2
比較文化研究	2
スポーツ社会学	2
現代日本社会論	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
グローバル・ヒストリー	2
北米地域研究	2
ヨーロッパ史研究	2
環境倫理学	2
計画の論理	2
環境を考える	2
自然災害のリスクマネジメント	2
生態系の保全	2
都市・交通計画	2
最適化論	2
データベース基礎論	2
計算機概論	2
計算機数学	2
ネットワーク論	2
制御概論	2
現象数理１	2
コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
知的財産の基礎と活用	2

卒業研究

授業科目	単位数
卒業研究	6

2．履　修　細　則

1　授業科目の科目区分

⑴　授業科目は，教養教育科目及び専門教育科目に大別される。

⑵　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目，卒業研究（必修科目）とする。

2　科目区分と卒業に必要な単位数

詳しくは，16 コース別履修科目表を参照すること。

教育課程	授業科目群	授業科目名	単位数
教養教育科目	一般教養教育科目群	歴史と文化 人間と社会 生活と社会 自然と社会	２単位以上 ２単位以上 ２単位以上 ４単位以上
	グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	４単位以上
	イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目	２単位以上
	基礎基盤教育科目群	ウェルネス総合演習	２単位以上
	汎用的技能教育科目群	SIH 道場 スタディスキル／コミュニケーション	１単位以上
		情報科学	２単位
	地域科学教育科目群	地域科学教育科目	２単位以上
	外国語教育科目群	英語	８単位以上
		中国語	４単位以上
		ドイツ語	
		フランス語	
教養教育科目　合　計			３５単位以上
教育課程	授業科目区分	副区分	単位数
専門教育科目	学部共通科目	必修科目	１単位
		選択必修科目Ⅰ	２単位以上
		選択必修科目Ⅱ	１０単位以上
	小　計		１３単位以上
	実践学習科目	必修科目	４単位
		選択必修科目Ⅰ	８単位以上
		選択必修科目Ⅱ	２単位以上
	小　計		１４単位以上
	コース入門科目	必修科目	２単位
		選択必修科目	１２単位以上
	小　計		１４単位以上
	コース基礎科目	選択必修科目	１２単位以上
	コース応用科目	選択必修科目	１６単位以上
	コース自由選択科目	選択必修科目	１０単位以上
	他コース選択科目	選択必修科目	１０単位以上
	卒業研究	必修科目	６単位
専門教育科目　合　計			９５単位以上
合　計（卒業要件単位数）			１３０単位以上

3　授業等に関する担当係及び掲示

教養教育科目に関する担当係は教育支援課教養教育係であり，関連事項は教養教育用の掲示板に掲示される。専門教育科目に関する担当係は総合科学部事務課学務係であり，関連事項は総合科学部掲示板に掲示される。

4　履修要件と履修方法

⑴　単位の定義

授業時間数と単位の関係は，徳島大学学則第30条の規定に基づき下表のように定められている。十分な予習及び復習をすることが，授業の理解と単位の修得のために必要となる。

単位の定義　　大学設置基準に準拠（学則第30条）

科　　目	1単位の時間	内　　容
講義・演習科目	45時間	（予習1時間＋授業1時間＋復習1時間）×15回
実験・実習科目	45時間	（予習・復習1時間＋授業2時間）×15回
卒　業　研　究		学修の成果を評価して定める

⑵　年間の履修単位数

①　各学年において1年間に履修する総単位数は，原則として48単位を上限とする。

②　前項の規定にかかわらず，総合科学部長が教育上特別の必要があると認める場合は，上限を超えて履修登録を認めることができる。

なお，上限を超えて履修登録を認めることができる要件及び単位数は別途定める。

⑶　教養教育科目の履修要件と履修方法

教養教育科目の詳しい説明は，「教養教育履修の手引」を参照すること。

⑷　専門教育科目の履修要件と履修方法

①　学部共通科目

ア　履修科目表に従って13単位以上修得すること。

イ　「総合科学入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから2単位，選択必修科目Ⅱから10単位以上を必ず修得すること。

エ　学部共通科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

②　実践学習科目

ア　履修科目表に従って14単位以上修得すること。

イ　「キャリアプラン入門」及び「課題発見ゼミナール」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから8単位，選択必修科目Ⅱから2単位以上を必ず修得すること。

エ　「総合科学実践プロジェクトA～H」の履修に当たっては，関連する「総合科学実践講義A～F」を必ず履修済みであること。関連する総合科学実践講義は下記のとおりとする。

総合科学実践プロジェクト	関連する総合科学実践講義
総合科学実践プロジェクトA	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトB	総合科学実践講義A，F

総合科学実践プロジェクトC	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトD	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトE	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトF	総合科学実践講義C，E
総合科学実践プロジェクトG	総合科学実践講義D
総合科学実践プロジェクトH	総合科学実践講義C，D，E

オ　「総合科学実践プロジェクトJ」は，海外体験等による単位認定科目とし，短期語学研修（英語・中国語），海外フィールドスタディ，海外キャリア実習，長期インターンシップなどの研修等において，一定の条件を満たしたと認められる場合に2単位もしくは4単位を認定する。

カ　実践学習科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

③　コース入門科目

ア　コース別履修科目表に従って14単位以上修得すること。

イ　「コース入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目から12単位以上を必ず修得すること。

エ　コース入門科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

④　コース基礎科目

ア　コース別履修科目表に従って12単位以上修得すること。

イ　コース基礎科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑤　コース応用科目

ア　コース別履修科目表に従って16単位以上修得すること。

イ　コース応用科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑥　コース自由選択科目

コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択し，原則として3年次以降に10単位以上履修すること。

⑦　他コース選択科目

自コース専門科目表の上記③から⑤以外の科目の中から10単位以上修得すること。

5　授業科目の配当学年

⑴　授業科目の配当学年は時間割表に記載する。

⑵　専門教育科目は，配当学年以上の学年の学生のみが履修できる。

6　受講申請

⑴　毎学期の始めに，履修しようとする科目の授業担当教員に受講申請を行わなければならない。

ただし講義室等の関係で受講者を制限する場合がある。

受講申請は，その学期に履修しようとする科目を履修登録期限までにWeb履修システムにおいて履修登録をすることにより行う。

⑵　履修登録していない科目は受講できない。

⑶　履修登録の変更について

①　履修登録確認期間中（Web修正期間）には担当教員の承認なしで履修登録を削除することができる。

②　履修登録確認期限までは履修登録の変更は可能であるが，担当教員の承認を必要とする。

なお，本人の責に帰さない事由で承認印を得られない場合は仮提出理由書（所定様式）を学務係に提出する。

③　履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）を過ぎての変更はできない。

7　授業科目区分の変更

転コースをした場合は，転コース先の科目区分に従って，修得した専門教育科目の科目区分を自動的に変更する。

8　他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修

他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修については次のように定める。

⑴　鳴門教育大学及び放送大学の授業科目の履修を希望する学生は事前に「願書」を担当係へ提出し，許可を受けなければならない。

⑵　履修可能な授業科目名及び科目区分等は学務係で閲覧できる。

⑶　修得した成績は本学部の評価に読み替え，修得大学名または学部名を付記する。

⑷　鳴門教育大学・放送大学，本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は，合計で20単位まで卒業要件に算定される。

①　鳴門教育大学での履修

鳴門教育大学で修得できる単位数は，他コース選択科目又は教職に関する科目で合計８単位までである。なお，教職に関する科目の単位は卒業要件に算定されない。

②　放送大学での履修

ア　放送大学で修得できる単位数は，専門教育科目と教養教育科目を合わせた12単位まで含めることができる。ただし，教養教育科目（外国教育科目を含む）はｅ－ラーニング科目（大学間の単位互換協定に基づく他大学開設の科目）を含めた８単位以下とする。

イ　放送大学の授業科目の単位数（２単位）は本学部の２単位とするが，外国語及び保健体育科目の２単位は本学部の１単位とする。

ウ　放送大学の授業科目は下記の範囲内で本学部の授業科目として履修できる。

㈠　放送大学の共通科目

ｉ）外国語科目と保健体育科目を除く共通科目は，教養教育科目における一般教養教育科目群の授業科目として履修できる。ただし，教養教育科目の４つの授業科目区分（一般教養教育科目

群・グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群・地域科学教育科目群）からは少なくとも合計６単位分は本学の授業題目で履修すること。

ⅱ）外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）は，教養教育の外国語教育科目として履修できる。

ⅲ）保健体育科目は，教養教育科目の基礎基盤教育科目（ウェルネス総合演習）として履修できる。

(ｲ) 放送大学の専門科目

本学部の他コース選択科目として履修できる。

③ 本学理工学部及び生物資源産業学部での履修

本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は８単位まで，他コース選択科目に含めることができる。

9 留学及び外国語技能検定試験による単位認定

留学により修得した成績や，外国語技能検定試験により修得した成績は，教養教育科目や本学部の専門教育科目の単位として認めることがある。教養教育科目の単位認定については，「教養教育履修の手引」に示される基準に基づいて行うものとする。

(1) 留学

留学の申請は，留学を希望する学生が，「外国留学願」に健康診断書を添えて担当係に提出することにより行うものとする。また，留学中に修得した成績を本学部の専門教育科目の単位として認定する申請は，帰国後速やかに「外国留学における成績に基づく単位認定申請書」等を学務係に提出することにより行うものとする。

① 交流協定校への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。

イ 修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

② 交流協定校以外への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。ただし，成績認定の申請時には留学先の大学概要・シラバス等を併せて学務係に提出し，認定可能かどうか審査を受けなければならない。この審査は出発前に受けておくのが望ましい。

イ 修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

③ 上記①，②において認定された単位は，40 単位まで卒業要件に算定される。

④ 上記①，②は本学部を休学する場合にも適用する。

(2) 外国語技能検定試験

外国語技能検定試験により修得した成績は本学部の専門教育科目の単位として審査の上認めることがある。単位の認定の申請は，学務係に所定の申請書を提出することにより行うものとする。申請の期限は，当該の試験を受験した日から２年以内とする。下記の単位認定に際して，既に認定又は単位の修得

がなされている場合は，「Academic English Ⅰ」，「Academic English Ⅱ」においては各２単位から，「Academic Communications Ⅰ」，「Academic Communications Ⅱ」及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」においては４単位から，既に認定及び修得された単位数の合計を差し引いた単位数を認定の上限とする。

認定基準については言語ごとに次のように定める。

① 英語

実用英語技能検定（英検）（財団法人　日本英語検定協会）

１級：「Academic English Ⅰ」２単位，「Academic English Ⅱ」２単位，
「Academic Communications Ⅰ」４単位，「Academic Communications Ⅱ」４単位
及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEFL（国際教育交換協議会）

IBT（Internet-based Testing）90 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

IBT（Internet-based Testing）100 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEIC（財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会）

800 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

900 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

IELTS（ブリティッシュカウンシル他　日本英語検定協会）

6.5 以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

7.0 以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験（独検）（財団法人　ドイツ語学文学振興会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）」２単位

※　ただし，いずれの場合も「教養教育」の「ドイツ語」に加えて認定することができる。

③　フランス語

実用フランス語技能検定試験（仏検）（財団法人　フランス語教育振興協会）

準２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）」２単位

※　ただし，「教養教育」の「フランス語」に加えて認定することができる。

④　中国語

中国語検定試験（日本中国語検定協会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）

４級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

５級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

なお，平成21年度以前に実施された旧HSKにおいて取得した級については，次のとおり認定する。

初等４級もしくは初等５級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

中等６級以上：　「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

10　入学前の既修得単位の認定

⑴　他大学又は本学において修得した科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は，下記に定める単位を上限として，本学部で修得した単位として認めることがある。ただし，成績は，本学で修得した場合を除き，「認定」と表記する。

⑵　本学部において修得した科目の単位（科目等履修生等として修得した単位を含む）は⑴の上限規定にかかわらず上限なしで認めることができる。

⑶　科目及び単位認定は，入学時の学年及び所属するコースの科目区分に従って，対応する科目について

行う。

⑷　既修得単位の認定申請は，本学部の入学時に行わなくてはならない。

①　第１年次入学者

ア　他大学卒業者又は中途退学者の場合

㈠	教養教育科目	３０単位まで
	一般教養教育科目	８単位まで
	グローバル化教育科	２単位まで
	イノベーション教育科目	２単位まで
	基礎基盤教育科目	２単位まで
	汎用技能教育科目	２単位まで
	地域科学教育科目	２単位まで
	外国語教育科目	１２単位まで
㈡	専門教育科目	８単位まで
	合　計	３８単位まで

イ　徳島大学卒業者又は中途退学者の場合

㈠	教養教育科目	３５単位まで
	一般教養教育科目	１０単位まで
	グローバル化教育科目	４単位まで
	イノベーション教育科目	２単位まで
	基礎基盤教育科目	２単位まで
	汎用技能教育科目	３単位まで
	地域科学教育科目	２単位まで
	外国語教育科目	１２単位まで
㈡	専門教育科目	８単位まで
	合　計	４３単位まで

②　第２年次入学者（転学部入学者が対象）

ア　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤教育科目を除きすべてそのまま認定する。

イ　専門教育科目　　6 単位まで

③　第３年次入学者（転学部入学者及び補欠入学者が対象）

ア　転学部入学者の場合

㈠　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤教育科目を除きすべてそのまま認定する。

㈡　専門教育科目　　38 単位まで

イ　補欠入学者の場合

(ア)　教養教育科目

一般教養教育科目	１０単位まで
グローバル化教育科目	４単位まで
イノベーション教育科目	２単位まで
基礎基盤教育科目	２単位まで
汎用技能教育科目	３単位まで
地域科学教育科目	２単位まで
外国語教育科目	１２単位まで
合　計	３５単位まで

(イ)　専門教育科目　　３８単位まで

11　進級要件及び卒業研究の受講資格

(1)　進級要件

①　２年次に進級するためには，１年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて20単位以上を修得していなければならない。

②　３年次に進級するためには，２年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて60単位以上を修得していなければならない。

③　４年次に進級するためには，３年次末において教養教育科目30単位以上，専門教育科目76単位以上，合計106単位以上を修得するとともに，語学検定成績・資格取得において下記要件のいずれかを満たしていなければならない。ただし，下記の要件を満たさない場合は，成績に応じて「Extensive Reading（ACEプログラム）」の修得を要件として，仮進級を認める場合がある。なお，この場合の「Extensive Reading（ACEプログラム）」の単位は，卒業要件に含めることはできない。また，事前にこの科目を修得していても，それをもって進級要件の代替とすることはできず，再度履修しなければならない。

ア　英語検定等

（国際教養コース）

実用英語技能検定（英検）	２級以上
TOEFL　IBT	60点以上
TOEIC　IP	550点以上
IELTS	5.0以上

（心身健康コース，公共政策コース，地域創生コース）

実用英語技能検定（英検）	準２級以上
TOEFL　IBT	30点以上
TOEIC　IP	350点以上
IELTS	3.0以上

イ　中国語検定等

（全コース）

中国語検定　３級以上

漢語水平考試（略称 HSK，筆記・リスニング試験）　３級以上

漢語水平考試口頭試験（略称 HSK 口試，会話能力試験）　初級以上

中国語コミュニケーション能力検定（TECC）　500 以上

ウ　ドイツ語検定等

（全コース）

ドイツ語技能検定試験（独検）　３級以上

エ　フランス語検定等

（全コース）

実用フランス語技能検定試験（仏検）　３級以上

④　上記の専門教育科目は，徳島大学総合科学部規則第５条第２項の別表第２に掲げる専門教育科目を言う。

⑤　後期より半年以上留学する学生は，翌年４月に進級するためには，出国前にあらかじめ留学先での修得単位の認定を希望する科目を申請するとともに，２月末までに留学先での単位修得見込みを証明する文書を提出し，その修得見込みの単位数を加算した単位数が上記の進級要件を満たしていなければならない。

⑵　卒業研究の受講資格

卒業研究は４年生の履修科目であり，これを受講するには，４年次への進級要件を満たしていなければならない。なお，長期留学中の４年次生は，５月末までに卒業研究の題目とともに留学中における通信指導の方法などを示す，卒業研究指導教員の指導証明書を提出しなければならない。

12　卒業の要件

本学部を卒業するには，大学に４年以上在学して，総合科学部規則の規定に従って 130 単位以上を修得しなければならない。

13　卒業研究の題目の届出及び成果の提出

⑴　卒業研究の題目は，５月末日までに指導教員の認印を得て，学務係へ提出しなければならない。

なお，卒業研究の指導教員は，総合科学部の教員であれば必ずしも所属コースの教員であることを要しない。

⑵　卒業研究の成果は，１月末日までに指導教員又は学務係へ提出しなければならない。ただし，年度を超えて留学する学生については，卒業研究の成果の提出は次年度の７月末日又は１月末日までとする。

14　学習プログラムの単位修得による証明書の発行

総合科学部で開設している学習プログラムの所定の単位を修得した場合は，そのことを証明する証明書を本学部が発行するので，希望者は所定の手続きをとること。

15　気象警報が発令された場合の休講措置

台風等により，気象警報等が徳島市に発表された場合の授業の休講措置は，次のとおりとする。

⑴　昼間に開講する授業については，午前７時に「暴風警報と大雨警報」，「暴風警報と洪水警報」，「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表中の場合は，午前の授業を休講とする。午前 11 時に警報又は特別警報が発表中の場合は，午後の授業を休講とする。

⑵　夜間に開講する授業については，午後４時に警報又は特別警報が発表中の場合は，すべて授業を休講とする。

⑶　授業開始後に警報が発表された場合は，次の時限以降の授業を休講とする。ただし，特別警報が発表された場合は，直ちに休講とする。

⑷　⑴から⑶に定める以外の場合又は特別な事情がある場合は，総合科学部長が措置を決定する。

⑸　⑴から⑷の措置により休講となった授業は後日に補講を行う。

⑹　上記のほか，授業の休講措置に関し必要な事項は，総合科学部長が別に定める。

16　コース別履修科目表

国際教養コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	２単位以上
			人間と生命	２単位以上
			生活と社会	２単位以上
			自然と技術	４単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	４単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	２単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	２単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	１単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	２単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	２単位以上
	外国語教育科目群		英語	８単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	４単位以上
	教養教育科目　計			35 単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必　　修	総合科学入門講座	1
			計	１単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	２単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（情報社会と情報倫理）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10 単位以上
	実践学習科目	必　　修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	４単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	８単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	２単位以上
	コース入門科目	必　　修	コース入門講座	2
			計	２単位
		選択必修	ジェンダー論	2
			比較宗教学	2
			国際語としての英語（English as an International Language）	2
			英語圏文学研究	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			近現代世界の成立と展開	2
			グローバル交渉史	2
			東アジア文化研究（漢文学）	2
			日本史研究Ⅰ	2
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			計	12 単位以上
	コース基礎科目	選択必修	日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	2
			日本言語概説	2
			方言と社会	2
			日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2
			日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	現代アジア社会Ⅰ	2
			現代アジア社会Ⅱ	2
			異文化間コミュニケーション（Cross-Cultural Communication）	2
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	2
			国際ジャーナリズム（International Journalism）	2
			Academic Communications Ⅰ（英語文章表現）	4
			Academic Communications Ⅱ（英語スピーチ＆ネゴシエーション）	4
			実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2＊
			実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	2＊
			実用中国語演習	4
			計	12単位以上
	コース応用科目	選択必修	Advanced Academic Communications Ⅰ （ライティング＆ディスカッション）	4
			Advanced Academic Communications Ⅱ（論文作成＆ディベート）	2
			英語研究Ⅰ（Studies in English-Linguistic Approaches）	2
			英語研究Ⅱ（Studies in English-Phonetics）	2
			英語研究Ⅲ（Studies in English-Semantics and Pragmatics）	2
			カルチュラルスタディーズ	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			平和学	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			ヨーロッパ史研究	2
			北米地域研究	2
			イスラーム世界研究	2
			アフリカ地域研究	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			現代科学論研究	2
			環境倫理学	2
			芸術文化論	2
			比較文化研究	2
			ヨーロッパ研究	2
			ヨーロッパ文化研究	2
			応用日本語学概説	2
			日本言語研究	2
			日本語教授法Ⅰ	2
			日本語教授法Ⅱ	2
			日本語教育方法論Ⅰ	2
			日本語教育方法論Ⅱ	2
			日本語教材研究	2
			応用日本語学研究	2
			日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2
			日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2
			書道	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			日本史研究Ⅱ	2
			考古学概説	2
			日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）	4
			日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）	4
			日本文化研究演習Ⅱ（日本古典文学） 日本文化研究演習Ⅱ（日本近現代文学）	4＊
			言語コミュニケーション演習Ⅰ (Seminar in Language and Communication Ⅰ)	4
			言語コミュニケーション演習Ⅱ (Seminar in Language and Communication Ⅱ)	4
			言語メディア研究演習Ⅰ（Seminar in Language and Media Ⅰ）	4
			言語メディア研究演習Ⅱ（Seminar in Language and Media Ⅱ）	4
			国際教養演習Ⅰ	4
			国際教養演習Ⅱ	4
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学） 日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	4＊
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

＊２又は３科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

心身健康コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（情報社会と情報倫理）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	14単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	心身行動研究法	2
			健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2
			健康科学の基礎	2
			健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む））	2
			生涯発達心理学	2
			臨床心理学	2
			生理心理学	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	心理学実験実習Ⅰ	1
			心理学実験実習Ⅱ	1
			コーチング論（体育原理を含む）	2
			スポーツ心理学	2
			学習心理学	2
			行動統計学	2
			運動生理学	2
			知覚心理学	2
			社会心理学	2
			スポーツ社会学	2
			スポーツ経営学	2
			計	12単位以上

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	コミュニティ心理学	2
			精神医学（精神保健を含む）	2
			心理学実験実習Ⅲ	1
			心理学実験実習Ⅳ	1
			応用解剖生理学	2
			衛生・公衆衛生学	2
			コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1
			コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1
			コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1
			コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1
			コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1
			コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1
			コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1
			コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1
			地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2
			スポーツ栄養学（生理学を含む）	2
			心身健康総合演習Ⅰ	4＊
			心身健康総合演習Ⅰ（運動行動制御学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ経営学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）	
			心身健康総合演習Ⅱ	4
			人格心理学	2
			認知心理学	2
			教育相談	2
			健康心理学（学校保健を含む）	2
			スポーツマーケティング論	2
			救急処置法	2
			スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2
			ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習・健康増進施設実習を含む）	2
			応用生理学	2
			福祉心理学	2
			健康行動論（学校安全を含む）	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

＊８科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

公共政策コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（情報社会と情報倫理）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	マクロ経済学入門	2
			経営学Ⅰ	2
			憲法Ⅰ	2
			民法Ⅰ	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			地域政策論Ⅰ	2
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2
			まちづくり地域社会論	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	公共政策学	2
			環境政策論Ⅰ	2
			行政法Ⅰ	2
			商法Ⅰ	2
			地域経済論	2
			マクロ経済学Ⅰ	2
			ミクロ経済学Ⅰ	2
			財政学Ⅰ	2
			国際経済学Ⅰ	2
			会計学Ⅰ	2
			計	12単位以上

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	憲法Ⅱ	2
			行政法Ⅱ	2
			商法Ⅱ	2
			経営学Ⅱ	2
			民法Ⅱ	2
			民法Ⅲ	2
			マクロ経済学Ⅱ	2
			ミクロ経済学Ⅱ	2
			応用経済学	2
			国際経済学Ⅱ	2
			財政学Ⅱ	2
			平和学	2
			環境政策論Ⅱ	2
			会計学Ⅱ	2
			近現代世界の成立と展開	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			国際協力論	2
			公共政策総合演習Ⅰ	4
			公共政策総合演習Ⅱ	4
			知的財産の基礎と活用	2
			国際農業論	2
			ブランド戦略論	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

地域創生コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（情報社会と情報倫理）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2
			社会変動論	2
			まちづくり地域社会論	2
			日本史研究Ⅰ	2
			考古学概説	2
			グローバル交渉史	2
			近現代世界の成立と展開	2
			地域政策論Ⅰ	2
			経営学Ⅰ	2
			情報と職業	2
			ネットワーク・アプリケーション研究	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			憲法Ⅰ	2
			マクロ経済学Ⅰ	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	社会統計学Ⅰ	2
			社会統計学Ⅱ	2
			行政法Ⅰ	2
			Ｃ言語プログラミング（実習を含む）	2
			情報創生プロジェクト（実習を含む）	2

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	環境アート	2
			日本言語概説	2
			空間情報論Ⅰ	2
			地域調査法Ａ	4
			地域調査法Ｂ	4
			地域計画Ⅰ	2
			考古学調査法	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			方言と社会	2
			現代絵画論	2
			写真画像保存技術概論	2
			計	12 単位以上
	コース応用科目	選択必修	総合情報研究（実習を含む）	2
			地域文化論Ⅰ	2
			福祉社会論	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			市民活動論	2
			日本言語研究	2
			応用日本語学研究	2
			応用日本語学概説	2
			地域環境論（自然地理学）	2
			地域文化論Ⅱ	2
			地域構造論（人文地理学）	2
			空間情報論Ⅱ	2
			地域変容論（地誌学）	2
			地域計画Ⅱ	2
			アフリカ地域研究	2
			地域政策論Ⅱ	2
			地域調査演習Ａ	4
			地域調査演習Ｂ	4
			日本史研究Ⅱ	2
			日本史基礎研究Ⅲ	2
			日本史基礎研究Ⅳ	2
			考古学調査演習	2
			メディア表現	2
			メディア情報研究（実習を含む）	2
			映像デザイン	2
			アート表現基礎	2
			工芸表現と技法	2
			彫刻研究	2
			美術概論	2
			データ表現研究	2
			芸術創生基礎演習	2
			メディア情報論	2
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学）	}4 *
			日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	
			絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅱ（平面表現）	2
			絵画表現演習Ⅱ（造形表現）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（デザイン表現におけるテクノロジー）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（映像メディア表現）	2
			メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）	2
			メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（インタラクション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（映像表現）	2
			インタラクション・デザイン演習Ⅰ	4
			インタラクション・デザイン演習Ⅱ	4
			メディア情報演習Ⅰ（バーチャルリアリティ）	2
			メディア情報演習Ⅰ（３ DCG シミュレーション）	2
			メディア情報演習Ⅱ（空間デザインへの応用）	2
			メディア情報演習Ⅱ（システム評価）	2
			情報創生演習Ⅰ（WEB アプリケーション）	2
			情報創生演習Ⅰ（オープンソース開発）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ・マネジメント）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ可視化）	2
			地域総合演習Ⅰ	4
			地域総合演習Ⅱ	4
			スポーツ経営学	2
			商法Ⅰ	2
			民法Ⅰ	2
			財政学Ⅰ	2

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	行政法Ⅱ	2
			平和学	2
			比較文化研究	2
			スポーツ社会学	2
			現代日本社会論	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			北米地域研究	2
			ヨーロッパ史研究	2
			環境倫理学	2
			計算機概論	2
			計算機数学	2
			制御概論	2
			現象数理１	2
			最適化論	2
			データベース基礎論	2
			ネットワーク論	2
			コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
			計画の論理	2
			都市・交通計画	2
			環境を考える	2
			自然災害のリスクマネジメント	2
			生態系の保全	2
			知的財産の基礎と活用	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

＊２科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

17　教職に関する科目

授業科目	単位数
教師論	2
教育学概論	2
教育心理学	2
教育の制度と経営	2
教育課程論	2
国語科教育法Ⅰ	2
国語科教育法Ⅱ	2
国語科教育法Ⅲ	2
国語科教育法Ⅳ	2
社会科教育法	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・地理歴史科教育方法論	2
社会科・公民科教育法	2
社会科・公民科教育方法論	2
英語科教育法Ⅰ	2
英語科教育法Ⅱ	2
英語科教育法Ⅲ	2
英語科教育法Ⅳ	2
美術科教育法Ⅰ	2
美術科教育法Ⅱ	2
美術科教育法Ⅲ	2
美術科教育法Ⅳ	2
保健体育科教育法Ⅰ	2
保健体育科教育法Ⅱ	2
保健体育科教育法Ⅲ	2
保健体育科教育法Ⅳ	2
情報科教育法Ⅰ	2
情報科教育法Ⅱ	2
道徳教育	2
特別活動論	2
教育方法学	2
生徒指導論（進路指導を含む）	2
教育相談	2
教育実習事前事後指導	1
教育実習（中学）	4
教育実習（高校）	2
介護等体験	1
教職実践演習（中・高）	2

上記の科目のうち，「教育相談」以外は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

18　学芸員資格に関する科目

授　業　科　目	単　位　数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
博物館実習	3

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

19　日本語科目

授　業　科　目	単　位　数
日本語Ⅰ	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語Ⅳ	2

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

3．試　　験　　細　　則

1　試　　験

⑴　成績の考査の一環として学年暦に定める期間に試験（定期試験）を行う。

⑵　定期試験は，授業時間数の３分の２以上出席した者につき行う。

⑶　成績の考査を試験によらない科目は，論文，レポート，制作物の提出及び作業演習等をもって行う。

⑷　成績は，１科目につき100点をもって満点とし，60点以上をもって合格とする。

2　受 験 心 得

⑴　受講の許可を得ている科目に限り受験することができる。

⑵　遅刻した場合は，受験することができない。ただし，遅刻が20分以内で，やむを得ない理由があると監督教員が認めたときは，受験することができる。

⑶　受験の際は，学生証を携行し，机上の右上隅に置くこと。忘れた者は，学務部又は学務係で仮学生証の交付を受けること。

⑷　受験の際は，監督教員の指示に従うこと。

⑸　不正行為をした者は，徳島大学学則第52条に基づき処分される。

3　成績の通知・確認

⑴　履修科目の成績は，原則として前期・後期ともに学期内に通知する。ただし，前期の追試験・再試験及び９月に実施される集中講義等の成績は，11月上旬に通知する。

⑵　成績について疑義がある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日明けの最初の平日までに学務係に申し出ることができる。申し出後の授業担当教員の対応に疑義がある場合は，文書により根拠を明示して学務係を通じて教務委員会に申し出ることができる。ただし，疑義の申し出ができるのは，以下の場合に限られる。

①　成績の誤記入など，明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。

②　シラバスに記載されている到達目標，成績評価方法・基準などから，明らかに成績評価について疑義があると思われるもの。

⑶　成績記入は，次のとおりである。

１科目につき60点以上……合　格

不……不合格（再試験可）　　（不）……再受講（再試験不可）

欠……試験当日欠席（追試験又は再受講）　　（欠）……受験資格なし（再受講）

⑷　すべての学生は，入学時に「個別成績表の送付に係る同意書」を学務係に提出し，成績表の保証人への送付の可否について申し出ることとする。

ただし，成績表の送付を「否」とした場合でも，下記の事項に該当する場合には，保証人に成績表を送付する。

①　単位の修得状況の芳しくない者

②　進級要件又は卒業要件に満たない者

4　追　試　験

⑴　次の理由により定期検査が受けられなかった者は，「追試験」を願い出ることができる。

ア　本人の責に帰し得ない理由の場合

イ　病気の場合

願い出にあたっては，欠席の詳細な理由を記した「欠席届」，アまたはイを証明する「証明書」（医師の診断書など），「追試験願」を学務係に提出する。

「欠席届」「追試験願」の用紙は学務係で交付される。

⑵　追試験の願い出は，試験実施日から２週間以内に行うこと。ただし２週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに行うこと。

⑶　追試験の許可は，教務委員会で審査のうえ行う。

⑷　追試験の受験を許可された者は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

5　再　試　験

⑴　定期試験に不合格になり，かつ「再試験」の指示があった場合には，再試験を受けることができる。

⑵　再試験は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

⑶　再試験を受験しようとするときは，学務係で願出用紙の交付を受け，当該試験の担当教員の認印を得たうえで，学務係に提出しなければならない。

⑷　願出用紙の提出は，その再試験が行われる日の前日までとする。

⑸　再試験に合格した者の成績は，１科目につき60点とする。

6　追試験・再試験成績の通知・確認

⑴　追試験・再試験の成績は，前期においては11月上旬に，後期においては学期内に学務係で本人に通知する。

⑵　通知を受けた者は，成績を確認して疑義のある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに学務係まで申し出のうえ，確認すること。

4．コ　ー　ス　細　則

1　コ　ー　ス

社会総合科学科に３の表に示すコースを置く。

2　コース決定及び変更

⑴　１年次学生は，コース選考についてのガイダンスを受け，学年暦によって定められた期日までに，コース志望届を提出しなければならない。

⑵　２年次以上の全学生が所属学科のいずれか一つのコースに所属しなければならない。コースへの所属は２年次の初めとする。

⑶　各コースの受入可能数は３の表のとおりである。

⑷　受入可能数を超える志望者があるコースは，選抜を行う。選抜の方法は，次のうち一つまたは二つを用いる。

①成績，②面接，③筆記試験，④小論文，⑤実技

⑸　教育上支障がない場合に限り，選考の上，年度の初めにコースの変更を許可することがある。コース変更を希望する者は，２年次以降，学年暦によって定められた期日までにコース変更届を提出する。

3　コ ー ス 表

コ　ー　ス	受入可能数
国 際 教 養	60
心 身 健 康	60
公 共 政 策	60
地 域 創 生	60

5．徳島大学総合科学部学友会会則

（名称）

第１条　本会は，徳島大学総合科学部学友会と称し，事務所を徳島大学総合科学部内に置く。

（会員）

第２条　本会は，正会員（総合科学部）及び特別会員（総合科学部教職員）で組織する。

（目的）

第３条　本会は，学生の自治的活動を通じて，健全な学風の樹立，学生生活の向上及び将来における社会参加への準備を図ることを目的とする。

（事業）

第４条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

一　学生が自治的に行う行事の企画及び実行。

二　学生のサークルに対する援助。

三　就職に関する学生の自治的活動。

四　その他本会が必要と認めた事項。

（役員）

第５条　本会に次の役員を置く。

一　会　　長　１名

二　副 会 長　１名

三　委 員 長　１名

四　副委員長　２名

五　監　　査　１名

六　幹　　事　３名

（役員の選出）

第６条　役員は，次の方法によって選出する。

一　会長は，学部長をもって充てる。

二　副会長は，学生委員会委員長をもって充てる。

三　委員長，副委員長，監査は，正会員から会長が指名する。

四　幹事は，正会員の中から委員長が委嘱する。

（役員の任務）

第７条　役員の任務は，次のとおりとする。

一　会長は，本会を代表し会務を総括する。

二　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。

三　委員長は，正会員の代表として本会の事業を総括する。

四　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故のあるときは，副委員長のうち１名が，その職務を代行する。

五　監査は，会計を監査する。

六　幹事は，会務を処理する。

（役員の任期）

第８条　役員の任期は，一年とし，再任を妨げない。

２　役員に欠員が生じた場合は，これを補充し，その任期は，前任者の残任期間とする。

（会議）

第９条　会長は，必要があると認めるときは，総会を招集することができる。

２　総会は，会則の改廃その他重要な事項を審議する。

３　総会の議事は，正会員の過半数の賛成によって議決し，議決にあたっては，あらかじめ作成された原案に対する委任状を認める。

（会計）

第10条　会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

２　本会の経費は，正会員の入会金（200円），会費（4,000円），寄付金及びその他の収入をもって充てる。

３　入会金及び会費は入学時に納入する。

４　既納の入会金及び会費は返還しない。

（情報開示）

第11条　情報開示は次に従うものとする。

一　開示請求書発行は委員長のみが発行できるものとする。

二　開示請求依頼者は発行依頼を委員長に対して行う。

三　開示請求が行える学生は，総合科学部の学生に限定する。

四　開示可能な情報は，監査を受けた最新の決算のみとする。

五　開示された情報はいかなる方法によっても，コピー，複製等は行わないものとする。

Ⅲ. 教員免許状と各種資格

1．教員免許状の取得

本学部では，「1　免許状の種類及び教科」に示す教員免許が取得できます。本学部では，教員免許状取得を希望する学生に対して，1年次の10月頃に説明会を実施し，免許状取得に関する指導を行っています。免許状の取得を希望する学生はこの説明会に必ず出席してください。

教員免許状を取得するためには，卒業に必要な単位のほかに，卒業要件とならない授業科目を多数履修し，4年次には「教育実習」や「教職実践演習」を受講しなければなりません。また，中学校教員免許状を取得するためには，「介護等体験」の受講が必修となっています。これらの実習や演習で実施される学外での実習は，実習先のご好意によって受講が可能となっているものです。このような実情を踏まえ，本学部では実習を受講するために要件を定めています。それらは，4－4及び5－1に示していますので，各自で確認してください。また，免許の取得に必修の科目の中には，隔年開講のものもあります。履修に際しては，各年次の時間割によく目を通して，履修計画を立てるようにしてください。

以下に大まかに，免許状取得までの説明会・事前指導等の実施予定を示しておきます。なお，教員免許状取得に関する単位履修について，詳細は，学務係前の「教職関連の掲示板」に掲示します。掲示板を毎日確認するようにしてください。

【教職課程スケジュール概要】

日　　程	「教育実習」と「介護等体験」	教職キャリアノートと「教職実践演習」
1年次10月	教員免許状取得希望者に対する説明会 （介護等体験受講希望調査を含む）	教職キャリアノートの配布
12月	介護等体験受講説明会	
2年次4月	介護等体験事前指導 （社会福祉施設実習について）	教職キャリアノートの提出（学務係まで）
6月		教職キャリアノート講習会
8，9月頃	介護体験（社会福祉施設実習（5日間））	
10月		教職キャリアノートの提出（学務係まで）
11月	介護等体験事前指導 （鳴門教育大学附属特別支援学校実習について） 介護体験（鳴門教育大学附属特別支援学校実習（5日間））	
12月	教育実習受講説明及び右の講習会時に 教育実習受講希望調査	教職キャリアノート講習会
3年次4月	教育実習受講説明会	教職キャリアノートの提出（学務係まで）
6月		教職キャリアノート講習会
10月		教職キャリアノートの提出（学務係まで）
12月		教職キャリアノート講習会
4年次4月	教育実習事前指導（集中講義）	教職キャリアノートの提出（学務係まで）
6月～	教育実習	教職実践演習開始
11月	教育実習事後指導	

教員免許状取得に関する単位履修要領

1　免許状の種類及び教科

総合科学部で取得可能な免許状の種類及び教科は次のとおりです。

免許状の種類及び免許教科	関　連　す　る　コ　ー　ス
中学校教諭一種免許状（国　語） 高等学校教諭一種免許状（国　語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（社　会）	国際教養コース・公共政策コース・地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	国際教養コース・公共政策コース・地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（公　民）	公共政策コース・地域創生コース
中学校教諭一種免許状（英　語） 高等学校教諭一種免許状（英　語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	心身健康コース
中学校教諭一種免許状（美　術） 高等学校教諭一種免許状（美　術）	地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（情　報）	地域創生コース

2　基礎資格及び所要単位数

教員免許状を取得する場合の基礎資格及び科目履修は次のとおりです。

免許状の種類	基礎資格	科目区分及び単位数				合計
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目（８）	教科に関する科目(20)	教職に関する科目(31)	教科又は教職に関する科目（８）	(67)
高等学校教諭一種免許状			教科に関する科目(20)	教職に関する科目(23)	教科又は教職に関する科目(16)	(67)

ただし，「４　**本学で開設している授業科目」のうち，必修の指定のある科目は上記の単位数にかかわらず必ず履修しなければなりません。**なお，本学部では，「介護等体験」を中学一種免許状の必修の科目として開設しています（４－４「教科又は教職に関する科目」参照）。

3　法令で規定された単位数

３－１　「教育職員免許法施行規則第 66 条の６に定める科目」

法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－１に従って履修してください。**

免許状の種類	免許法に定める教科	単位数
中学校教諭一種免許状	日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作	2 2 2 2
高等学校教諭一種免許状		

３－２　「教科に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－２に従って履修してください。**

中学校教諭一種免許状

教　科	免　許　法　に　定　め　る　科　目	単　位　数	合　計 単位数
国　語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学 書道（書写を中心とする。）	１単位以上 〃 〃 〃	20
社　会	日本史及び外国史 地理学（地誌を含む。） 「法律学，政治学」 「社会学，経済学」 「哲学，倫理学，宗教学」	１単位以上 〃 〃 〃 〃	20
美　術	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 工芸 美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	20
保　健 体　育	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」及び運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	20
英　語	英語学 英米文学 英語コミュニケーション 異文化理解	１単位以上 〃 〃 〃	20

高等学校教諭一種免許状

教　科	免　許　法　に　定　め　る　科　目	単　位　数	合　計 単位数
国　語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学	１単位以上 〃 〃	20
地　理 歴　史	日本史 外国史 人文地理学及び自然地理学 地誌	１単位以上 〃 〃 〃	20
公　民	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	１単位以上 〃 〃	20
情　報	情報社会及び情報倫理 コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 情報システム（実習を含む。） 情報通信ネットワーク（実習を含む。） マルチメディア表現及び技術（実習を含む。） 情報と職業	１単位以上 〃 〃 〃 〃 〃	20
美　術	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃	20
保　健 体　育	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」及び運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	20
英　語	英語学 英米文学 英語コミュニケーション 異文化理解	１単位以上 〃 〃 〃	20

３－３　「教職に関する科目」

免許状種別による法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－３に従って履修してください。**

中学校・高等学校教諭

免許法に定める科目	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教職の意義等に関する科目	2	2
教育の基礎理論に関する科目	6	6
教育課程及び指導法に関する科目	12	6
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	4	4
教職実践演習	2	2
教育実習（事前及び事後の指導１単位を含む。）	5	3

３－４　「教科又は教職に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令で規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－２「教科に関する科目」，４－３「教職に関する科目」又は４－４「教科又は教職に関する科目」から履修してください。**

３－２又は３－３で指定された単位数を超えて修得した単位数は「教科又は教職に関する科目」の単位数に算入されます。

免許状の種類	科　目　区　分	単位数
中学校教諭一種免許状	教科又は教職に関する科目	8
高等学校教諭一種免許状	教科又は教職に関する科目	16

４　本学で開設している授業科目

４－１　「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」

教員免許状取得にあたっては，本学で開設している以下の「授業科目」又は「授業題目」の中から各２単位，計８単位を履修してください。

免許法に定める教科	本学部で開設する授業科目・授業題目	中学	高校	摘　　要
日本国憲法	生活と社会：憲法と人権Ⅰ〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と人権Ⅱ〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と人権〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と市民自治〔教養教育科目〕 憲法Ⅰ〔専門教育科目〕 憲法Ⅱ〔専門教育科目〕	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	１科目選択必修
体育	ウェルネス総合演習（教養教育科目）	2	2	
外国語コミュニケーション	英語（教養教育科目） 英語以外の外国語（教養教育科目）	2 2	2 2	１科目選択必修
情報機器の操作	情報科学：情報科学入門（教養教育科目）	2	2	
合計		8	8	

４－２　「教科に関する科目」

本学部では「教科に関する科目」として下記の授業科目を開設していますので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，履修してください。

免許教科　中一種免・高一種免「国語」

科目の区分	授業科目	中一種免 単位数 必修	中一種免 単位数 選択	高一種免 単位数 必修	高一種免 単位数 選択
国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2		2	
	日本言語概説	2		2	
	応用日本語学概説	2		2	
	日本言語研究	2		2	
	応用日本語学研究	2		2	
	日本言語演習Ⅰ（地域言語学）		4		4
	日本言語演習Ⅰ（社会言語学）		4		4
	方言と社会		2		2
	歴史と文化：日本語の敬語〔教養教育科目〕		2		2
	グローバル化教育科目：世界の中の日本語〔教養教育科目〕		2		2
	歴史と文化：日本語の音声〔教養教育科目〕		2		2
国文学（国文学史を含む。）	日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）		4		4
	日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）		4		4
漢文学	東アジア文化研究（漢文学）	2		2	
	東アジア社会文化研究Ⅰ		2		2
	東アジア社会文化研究Ⅱ		2		2
書道（書写を中心とする。）（中一種免「国語」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	書道	2			

免許教科　中一種免「社会」

科目の区分	授業科目	中一種免 単位数 必修	中一種免 単位数 選択
日本史及び外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
	北米地域研究		2
	グローバル交渉史	2	
	歴史と文化：日本の古代史〔教養教育科目〕		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会〔教養教育科目〕		2
地理学（地誌を含む。）	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2 選択必修	2
	地域構造論（人文地理学）		2
	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2 選択必修	2
	地域変容論（地誌学）		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地球環境問題〔教養教育科目〕		2
「法律学，政治学」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2

科　目　の　区　分	授　業　科　目	中一種免 単位数	
		必修	選択
「社会学，経済学」	総合科学の基礎G（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎H（社会学の基礎）	2	
	比較社会論		2
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ		2
	社会変動論		2
	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	応用経済学		2
「哲学，倫理学，宗教学」	総合科学の基礎C（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2

免許教科　高一種免「地理歴史」

科目の区分	授業科目	高一種免 単位数 必修	高一種免 単位数 選択
日本史	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	歴史と文化：日本の古代史		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会		2
外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	グローバル交渉史	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	北米地域研究		2
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
人文地理学及び自然地理学	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2 選択必修	2
	地域構造論（人文地理学）		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会		2
	生活と社会：地球環境問題		2
地誌	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2 選択必修	2
	地域変容論（地誌学）		2

免許教科　高一種免「公民」

科目の区分	授業科目	高一種免 単位数	
		必修	選択
「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2
「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
	比較社会論		2
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ	2	
	社会変動論		2
	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	応用経済学		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2
	生涯発達心理学	2	
	社会心理学		2
	コミュニティ心理学		2

免許教科　中一種免・高一種免「美術」

科目の区分	授業科目	中一種免 単位数 必修	中一種免 単位数 選択	高一種免 単位数 必修	高一種免 単位数 選択
絵画（映像メディア表現を含む。）	環境アート	2		2	
	芸術創生基礎演習	2		2	
	絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）		2		2
	絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）		2		2
	メディア情報論	2		2	
	メディア表現	2		2	
	メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）		2		2
	メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）		2		2
	アート表現基礎	2		2	
	現代絵画論		2		2
	イノベーション教育科目：絵画表現と技法の基礎〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目：絵画表現と技法の応用〔教養教育科目〕		2		2
彫刻	彫刻研究	2		2	
デザイン（映像メディア表現を含む。）	映像デザイン	2		2	
	デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）		2		2
	デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）		2		2
	写真画像保存技術概論		2		2
	スタディスキル：ビジュアルコミュニケーション〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目：アーツ・アンド・テクノロジー〔教養教育科目〕		2		2
工芸（中一種免「美術」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	工芸表現と技法	2			
美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術概論	2		2	
	芸術文化論	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「保健体育」

科目の区分	授業科目	中一種免 単位数 必修	中一種免 単位数 選択	高一種免 単位数 必修	高一種免 単位数 選択
体育実技	コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1		1	
	コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1		1	
	コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1		1	
	コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1		2 選択必修	1
	コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1			1
	コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1			1
	ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習・健康増進施設実習を含む）	2		2	
「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む））	2		2	
	コーチング論（体育原理を含む）	2		2	
	地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2		2	
	スポーツ心理学	2		2	
	スポーツ社会学	2		2	
	スポーツマーケティング論		2		2
	スポーツ経営学	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（運動行動制御学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ経営学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学）		4		4
生理学（運動生理学を含む。）	運動生理学	2		2	
	応用解剖生理学		2		2
	スポーツ栄養学（生理学を含む）	2		2	
	スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2		2	
	応用生理学		2		2
	心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学）		4		4
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2	
	健康科学の基礎		2		2
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）		4		4
	精神医学（精神保健を含む）	2		2	
	健康心理学（学校保健を含む）	2		2	
	救急処置法	2		2	
	健康行動論（学校安全を含む）	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「英語」

科目の区分	授業科目	中一種免 単位数 必修	中一種免 単位数 選択	高一種免 単位数 必修	高一種免 単位数 選択
英語学	英語研究Ⅰ (Studies in English-Linguistic Approaches)	2		2	
	英語研究Ⅱ (Studies in English-Phonetics)		2		2
	英語研究Ⅲ (Studies in English-Semantics and Pragmatics)		2		2
	国際語としての英語 (English as an International Language)	2		2	
	言語コミュニケーション演習Ⅰ (Seminar in Language and Communication Ⅰ)		4		4
	Extensive Reading (英語文法・語彙構築プログラム)		2		2
英米文学	英語圏文学研究	2		2	
	言語メディア研究演習Ⅰ (Seminar in Language and Media Ⅰ)		4		4
英語コミュニケーション	Academic Communications Ⅰ (英語文章表現)	4		4	
	Academic Communications Ⅱ (英語スピーチ＆ネゴシエーション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅰ (ライティング＆ディスカッション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅱ (論文作成＆ディベート)		2		2
	Academic English Ⅰ (日本文化・時事発信型英語)		2		2
	Academic English Ⅱ (４技能アカデミック英語入門)		2		2
異文化理解	異文化間コミュニケーション (Cross-Cultural Communication)	2		2	
	カルチュラルスタディーズ		2		2
	国際ジャーナリズム (International Journalism)		2		2

免許教科　高一種免「情報」

科目の区分	授業科目	高一種免 単位数	
		必修	選択
情報社会及び情報倫理	総合科学の基礎J（情報社会と情報倫理）	2	
	知的財産の基礎と活用		2
コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	C言語プログラミング（実習を含む）	2	
	プログラミング演習２*	2	
	計算機概論		2
	計算機数学		2
	制御概論		2
	情報創生演習Ⅰ（WEB アプリケーション）		2
	情報創生演習Ⅰ（オープンソース開発）		2
情報システム(実習を含む。)	総合情報研究（実習を含む）	2	
	データ表現研究	2	
	データベース基礎論		2
情報通信ネットワーク(実習を含む。)	ネットワーク・アプリケーション研究	2	
	情報創生プロジェクト（実習を含む）	2	
	最適化論		2
	ネットワーク論		2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	メディア情報研究（実習を含む）	2	
	モデリング理論*		2
	コンピュータ・グラフィックス基礎論		2
	メディア情報演習Ⅰ（バーチャルリアリティ）		2
	メディア情報演習Ⅰ（3DCG シミュレーション）		2
情報と職業	情報と職業	2	

＊プログラミング演習２及びモデリング理論（理工学部開設科目）については，他学部受講申請により履修すること。

４－３　「教職に関する科目」

科目の区分	授業科目	単位数	中一種免	高一種免	備　　考
			必修	必修	
教職の意義等に関する科目	教師論	2	2	2	
教育の基礎理論に関する科目	教育学概論	2	2	2	
	教育心理学	2	2	2	
	教育の制度と経営	2	2	2	
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	2	2	2	
	国語科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修	「教科教育法」取得したい教科免許状の教科教育法を修得しなければならない。また，他の教科教育法の単位は「教科又は教職に関する科目」に算入されない。 中一種免（社会）では社会科教育法の他に社会科・地理歴史科教育法と社会科・公民科教育法のうち１科目以上を履修しなければならない。 高一種免（情報）の情報科教育法はⅠ・Ⅱとも必修である。
	国語科教育法Ⅱ	2			
	国語科教育法Ⅲ	2			
	国語科教育法Ⅳ	2			
	社会科教育法	2	2		
	社会科・地理歴史科教育法	2	2 選択必修	2 選択必修	
	社会科・地理歴史科教育方法論	2			
	社会科・公民科教育法	2		2 選択必修	
	社会科・公民科教育方法論	2			
	英語科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修	
	英語科教育法Ⅱ	2			
	英語科教育法Ⅲ	2			
	英語科教育法Ⅳ	2			
	美術科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修	
	美術科教育法Ⅱ	2			
	美術科教育法Ⅲ	2			
	美術科教育法Ⅳ	2			
	保健体育科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修	
	保健体育科教育法Ⅱ	2			
	保健体育科教育法Ⅲ	2			
	保健体育科教育法Ⅳ	2			
	情報科教育法Ⅰ	2		2	
	情報科教育法Ⅱ	2		2	
	道徳教育	2	2		
	特別活動論	2	2	2	
	教育方法学	2	2	2	
生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目	生徒指導論（進路指導を含む）	2	2	2	
	教育相談	2	2	2	
教育実習	教育実習事前事後指導	1	1	1	
	教育実習（中学）	4	4		３週間
	教育実習（高校）	2		2	２週間
教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	2	2	

４－４　「教科又は教職に関する科目」

科目の区分	授業科目	単位数	中一種免	高一種免	摘　　要
			必修	必修	
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1	1		社会福祉施設等で５日間 鳴門教育大学附属特別支援学校等で２日間

本学部では「介護等体験」を中学校一種免許状の必修科目として開設しています。中学校一種免許状を取得する場合は，可能な限り２年次に履修して下さい。

「介護等体験」を受講するには，受講の前年度に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」及び「介護等体験」受講説明会に出席し，「希望調査票」を提出してください。また，「介護等体験」の実習までに開催される説明会･事前指導のすべてに出席してください。すべてに出席しなければ「介護等体験」を受講できません。

なお，４－２「教科に関する科目」又は４－３「教職に関する科目」で修得した単位数のうち，３－２又は３－３で指定された単位数を超えて修得した単位数は「教科又は教職に関する科目」の単位数に算入されます。

5　履修上の注意

５－１　受講要件と履修方法

「教育実習」および「教職実践演習」を受講するためには，受講の前年度末において，以下の要件を満たしていなければなりません。

⑴　４年次に進級できる者。

⑵　下記の単位数を修得していること。

科目名	受　講　要　件	
	「教科に関する科目」	「教職に関する科目」
教育実習（中学）	24 単位以上	16 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法４単位を含む）
教育実習（高校）	24 単位以上	10 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法２単位を含む）
教職実践演習	教育実習に必要な単位	

①　「教育実習」を受講するには，次のことを行って下さい。

〇受講の前々年度に「教育実習」希望調査票を提出する。

〇受講の前年度に実施される「教育実習」受講説明会に出席する。

〇受講年度の「教育実習事前事後指導」（集中講義）を受講し，「教育実習」の事前指導を受ける。

以上のことがすべてできていなければ「教育実習」を受講できません。

なお，中一種免と高一種免を同時に取得する場合，「教育実習」は中学または高校のいずれかで３週間の実習を行うことになります。その場合，履修登録は「教育実習（中学)」としてください。ただし，３週間実習を行っても「教育実習（高校)」の単位は２単位です。

②　「教職実践演習」を受講するには，次のことを行って下さい。

〇１年次後期に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，「教職キャリアノート」の意義，書き方等の指導を受ける。

〇受講の前年度までに開催されるすべての「教職キャリアノート」講習会に出席する。

以上のことがすべてできていなければ「教職実践演習」を受講できません。

また，次の場合も「教職実践演習」を受講できません。

〇「教職キャリアノート」に授業担当教員の確認印が押されていない。

〇受講年度又は受講年度までに「教育実習」を受講していない。

なお，２年次以降から教員免許状の取得をめざす学生は，毎年後期に開催される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，授業担当教員の指示に従ってください。

５－２　その他

①　他大学等で修得した「教職に関する科目」の単位は，その単位を修得した他大学等で取得できる免許状の必要最低単位数を上限として，本学部における当該科目を履修し修得した単位として認められます。

②　他大学（鳴門教育大学など）で履修した単位を加えて免許を取得しようとする場合には，前もって学務係に相談するようにしてください。なお，他大学（鳴門教育大学など）の教職に関する科目の中には，本学での免許の単位とはできない科目もあります。

③　「教職に関する科目」のうち，「教育相談」のみ進級および卒業に必要な単位に認められます。

2．学芸員の資格取得

1　学芸員の資格

学芸員の資格は，博物館法第五条第一項の規定により，次のように定められています。

学士の資格を有する者で，大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

2　文部科学省令で定められた博物館に関する科目

文部科学省令で定められた博物館に関する科目は以下のとおりです。

（開講学期は変更されることがありますので，受講前に時間割で必ず確認すること）

科　　目　　名	単　位　数	開講学年・学期
生涯学習概論	２単位	３年・前期集中
博物館概論	２単位	１年・前期集中
博物館経営論	２単位	２年・前期
博物館資料論	２単位	２年・後期集中
博物館資料保存論*	２単位	３年・前期集中
博物館展示論*	２単位	２年・後期集中
博物館教育論*	２単位	２年・後期集中
博物館情報メディア論	２単位	２年・前期集中
博物館実習（事前事後指導を含む）	３単位	４年・前期集中
計	19単位	

本学部では，すべて上記の科目名のままで開講します。また＊の付いた３科目は，徳島県文化の森総合公園内の県立博物館・県立美術館・県立文書館との連携によって，鳴門教育大学・四国大学の学生と合同で受講する科目です。会場も文化の森で受講することとなります。

3　受講に際しての注意事項

⑴　２で示された博物館に関する科目のすべては，学芸員の資格を取得するための必須科目ですが，卒業に必要な単位には算入されません。

⑵　博物館教育論，博物館展示論，博物館資料保存論及び博物館実習は，学外の施設において受講する科目であることを踏まえ，受講要件として，以下の①及び②の両方を満たす者とします。

①　本学部に在学もしくは本学部を卒業した者，及び学部長が特に認めた者

②　各科目を受講するまでに以下に示す要件を満たした者

科　目　名	受講までに修得すべき科目と単位数
博物館教育論	「博物館概論」　２単位
博物館展示論	「博物館概論」・「博物館情報・メディア論」　計４単位
博物館資料保存論	「博物館概論」「博物館資料論」　計４単位
博物館実習	「博物館概論」及び「博物館資料論」を含めて12単位以上

4　そ　の　他

⑴　学芸員の資格取得を希望する学生は，集中講義として開講される「博物館概論」を必ず受講してください。講義の最初に資格取得のための説明を実施します。

⑵　科目の受講など，重要な連絡は，学務係前の掲示板の掲示を通して行います。必ず掲示を確認してください。

⑶　学芸員の資格取得のために，単位互換協定校の単位を修得し単位の認定を希望する場合は，事前に学務係に照会してください。

3．認定心理士の資格取得

1　認定心理士とは

（公社）日本心理学会により認定される心理学の基礎資格で，指定された科目を履修することによって取得できます。

2　認定心理士の目的

心理学の専門家として仕事をするために必要な，最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを（公社）日本心理学会が認定するものです。

3　認定心理士取得のための履修科目

資格取得に必要な領域と必要単位数は以下の通りです。

「基礎科目」 ａ：心理学概論，ｂ：心理学研究法，ｃ：心理学実験・実習

〇ａ，ｂの各領域４単位以上，領域ｃは３単位以上で，小計 12 単位以上

「選択科目」 ｄ：知覚心理学・学習心理学，ｅ：生理心理学・比較心理学，ｆ：教育心理学・発達心理学，ｇ：臨床心理学・人格心理学，ｈ：社会心理学・産業心理学

〇ｄ，ｅ，ｆ，ｇ，ｈ　の５領域中３領域以上で各領域４単位以上

〇５領域の小計が 16 単位以上

「その他の科目」 ｉ：心理学関連科目，卒業論文・卒業研究（最大４単位まで）

＊　基礎科目，選択科目，その他の科目で総計 36 単位以上が必要

＊　「その他の科目」以外の各領域は「基本主題」と「副次主題」のいずれかに分類されます。各領域で必要な単位は４単位以上ですが，この４単位中少なくとも２単位は「基本主題」に属する単位でなければなりません。

上記領域に該当する本学における開講科目は以下の通りです（(　) は単位数)。なお，教養教育科目，教職科目以外は心身健康コースで開設されている科目です。

「基礎科目」

領域ａ（基本主題）基礎心理学入門（２），心理学概論（２），心理学概説（２），心理学基礎（２），心理学要説（２）

＜以上，教養教育科目＞

領域ｂ（基本主題）行動統計学（２），心身行動研究法（２）

領域ｃ（基本主題）心理学実験実習Ⅰ（１），心理学実験実習Ⅱ（１）

心理学実験実習Ⅲ（１），心理学実験実習Ⅳ（１）

「選択科目」

領域ｄ（基本主題）知覚心理学（２），認知心理学（２），学習心理学（２）

領域ｅ（基本主題）生理心理学（２）

領域ｆ（基本主題）生涯発達心理学（２），教育心理学（２）＜教職科目＞

領域ｇ（基本主題）臨床心理学（２），人格心理学（２），教育相談（２），健康心理学（２）

（副次主題）精神医学（２）

領域ｈ（基本主題）社会心理学（２），コミュニティ心理学（２）

「その他の科目」

領域ｉ（基本主題）スポーツ心理学（２），卒業研究（心理学に関するもの：４）

４　認定心理士申請に関して

認定心理士の認定申請は，大学を卒業した後で資格取得希望者が個人の資格で申し込むことを原則としています。大学を卒業し，その在学期間に取得した単位を認定単位として申請します。

面接試験や筆記試験は無く，更新もありません。

申請書類，および資格申請の手引きは（公社）日本心理学会のホームページよりダウンロードすることができます。

申請には指導教員等の署名・捺印，成績証明書，卒業証明書が必要ですので，卒業前に準備しておくと良いでしょう。また，基礎科目ｂ，ｃに該当する科目には受講年度のシラバスのコピーが必要です。

4．健康運動指導士の資格取得

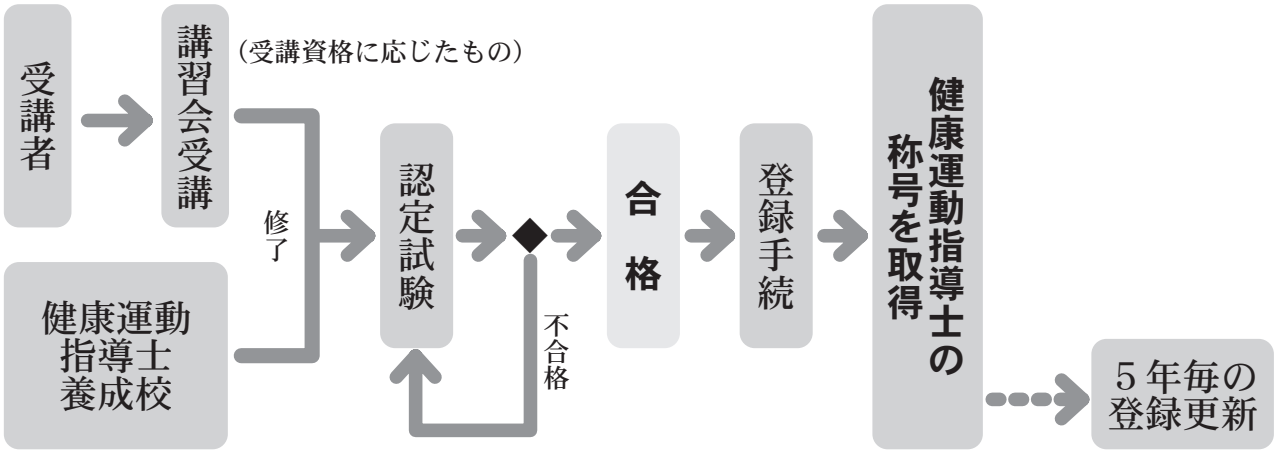
1　「健康運動指導士」について

健康運動指導士は，スポーツクラブや保健所・保健センター，病院・介護施設などにおいて，人々の健康を維持・改善するために，安全かつ適切な運動プログラムを提案・指導する専門家です。厚生労働省所管の㈶健康・体力づくり事業財団が養成・資格の認定・登録事業を行っています。

健康運動指導士は，特に運動を重視した国の施策として展開された第２次国民健康づくり対策（アクティブ 80 ヘルスプラン）から誕生した資格です。現在，「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21)」が積極的に展開されていますが，メタボリックシンドロームの予防，生活習慣病ハイリスク者への運動指導，少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導に関する専門的知識及び技術を有する者として動機づけ，支援，または積極的支援対象者に対して生活習慣の改善のための取り組みに資する働きかけを担う人材として期待されています。

2　「健康運動指導士」養成校＝指定された授業単位を修得することで認定試験が受験できる

健康運動指導士の称号は，次の図のように，健康運動指導士養成講習会を受講するか，または，健康運動指導士養成校の養成講座を修了して，健康運動指導士認定試験に合格した上で，健康運動指導士台帳に登録されなければなりません。



詳しくは㈶健康・体力づくり事業財団　http://www.health-net.or.jp/shikaku/index.html　を参照

本学部では，社会総合学科心身健康コースに健康運動指導士養成校としての養成プログラムを開設しており，そこで指定された科目の単位修得により認定試験を受験することができます。

3　「健康運動指導士養成プログラム」として指定されている科目

健康運動指導士養成プログラムとして指定されている科目は，年次ごとに開講されており，中には隔年開講のものもあるので，１年から３年までの履修計画を立てて，必要とされる単位を全て修得することが，認定試験の受験資格となります。

	前　　期		後　　期	
2　年	健康科学の基礎	2	健康教育学	2
	運動生理学	2	コーチング論実習Ⅲ＊	1
	応用解剖生理学	2	スポーツ心理学	2
	コーチング論	2		
	コーチング論実習Ⅰ＊	1		
	コーチング論実習Ⅱ＊	1		
	コーチング論実習Ⅷ＊	1		
3　年	健康行動論	2	救急処置法	2
	スポーツ科学実験実習	2	（コーチング論実習Ⅲ＊	1）
	スポーツ栄養学	2		
	（コーチング論実習Ⅰ＊	1）		
	（コーチング論実習Ⅱ＊	1）		
	（コーチング論実習Ⅷ＊	1）		
	ウェルネスプロジェクト実習	2		
合計　26　単位				

・コーチング論実習＊は隔年開講科目であるため，2・3年が合同で履修します。

・通年の「ウェルネスプロジェクト実習」の履修学生のうち「健康運動指導士養成クラス」の学生は，実習先をフィットネスクラブ「ハッピー徳島」と定め，健康増進施設実習・水泳水中運動指導実習として実施します。

4　「健康運動指導士養成クラス」による資格取得サポート

心身健康コースに配属された2年次から「健康運動指導士養成クラス」を編成し，クラス担当の指導，教員を置き，履修指導や資格情報，模試などの資格取得のためのサポートを月1回程度で実施します。先輩からのアドバイスや，授業の復習，相互自習など，学生主体となったゼミ形式で，4年の9月，あるいは3月に認定試験を受けるまでの学習を支援します。ただし，4年間の在学中に養成プログラム科目にかかるすべての単位を修得したものに限り，卒業後の受験が認められます。再受験は可能ですが，できるだけ4年生の2回の試験で合格できるように努力してください。

5．スポーツ指導者資格免除適応コース（共通科目）

1　日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目）について

本学部は，日本体育協会の「スポーツ指導者養成講習会免除適応コース」承認校となっています。適応コースとは日本体育協会で実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを本学部で履修することができ，講習・試験の一部またはすべてが免除されるシステムです。

本学部で免除適応されるのは共通科目コースⅠとⅡの講習と試験であり，卒業時に日本体育協会へ申請し，「免除適応コース修了証明書」の交付および「スポーツリーダー」の資格が取得できます。

卒業後，日本体育協会の公認スポーツ指導者資格を取得する場合，共通科目の一部またはすべての講習と試験が免除されます（専門科目の受講は必要です）。

＜共通科目のすべてが免除される資格＞

指導員（競技種目別）
上級指導員（競技種目別）
ジュニアスポーツ指導員
クラブマネジャー
アシスタントマネジャー

＜共通科目の一部が免除される資格＞

アスレティックトレーナー（共通科目Ⅲのみ受講）
スポーツ栄養士（共通科目Ⅲのみ受講）
コーチ（競技種目別）（共通科目Ⅲのみ受講）
教師（競技種目別）（共通科目Ⅲのみ受講）
上級コーチ（競技種目別）（共通科目Ⅲ，Ⅳのみ受講）
上級教師（競技種目別）（共通科目Ⅲ，Ⅳのみ受講）

2　公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースとして指定されている科目

「免除適応コース修了証明書」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を修得する必要があります。

（２年生）

健康体力科学の展開　スポーツ経営学　スポーツ社会学
コーチング論　スポーツ心理学　応用解剖生理学　健康教育学

（３年生）

スポーツ栄養学　健康行動論　救急処置法
スポーツマーケティング論

3　その他

毎年１月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

6．アシスタントマネジャーの資格取得

1　日本体育協会公認『アシスタントマネジャー』について

本学部では，日本体育協会が認定するスポーツマネジメント資格「アシスタントマネジャー」の講習会免除適応コースの承認を受けています。

スポーツマネジメント資格には，「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは，地域スポーツクラブなどにおいて，クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう，健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。「アシスタントマネジャー」は，その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し，協働できる能力を身につけるための資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，４年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2　「アシスタントマネジャー養成コース」として指定されている科目

「アシスタントマネジャー」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を修得する必要があります。

それによって，日本体育協会公認「アシスタントマネジャー」の 34 時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（２年生）

健康体力科学の展開　　スポーツ経営学　　スポーツ社会学

コーチング論　　スポーツ心理学　　応用解剖生理学　　健康教育学

（３年生）

健康行動論　　救急処置法　　スポーツマーケティング論

スポーツ栄養学

3　資格取得に必要な費用

□アシスタントマネジャーテキスト	2,000 円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,150 円
□検定料	10,500 円

4　その他

10 月頃に検定試験の案内，１月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

7．ジュニアスポーツ指導員の資格取得

1．日本体育協会公認『ジュニアスポーツ指導員』について

本学部では，日本体育協会が認定するフィットネス系資格「ジュニアスポーツ指導員」の，講習会免除適応コースの承認を受けています。

「ジュニアスポーツ指導員」とは，発育発達期の身体的･心理的特徴についての専門的な知識と技能を持ち，2歳から15歳の子ども達を対象に，総合的な体づくりと基礎的動作の習得を目的としたプログラムを提供できる指導者の資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「ジュニアスポーツ指導員」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，4年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2．「ジュニアスポーツ指導員養成コース」として指定されている科目

「ジュニアスポーツ指導員」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を取得する必要があります。それによって，日本体育協会公認「ジュニアスポーツ指導員」の37時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（2年生）

健康体力科学の展開　スポーツ経営学　スポーツ社会学
コーチング論　スポーツ心理学　応用解剖生理学　健康教育学
コーチング論実習Ⅰ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅶ

（3，4年生）

スポーツ栄養学　健康行動論　救急処置法
教育相談　スポーツマーケティング論
ウェルネス・プロジェクト実習　または　教育実習（中学保健体育）

3．資格取得に必要な費用

□ジュニアスポーツ指導員テキスト	7,800円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,150円
□検定料	10,500円

4．その他

10月頃に検定試験の案内，1月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

８．社会調査士の資格取得

社会調査士資格制度について

社会調査士は，一般社団法人　社会調査協会により認定される制度です。

社会調査士資格制度の目的

情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。

こうした社会調査の高まる重要性に比して，その担い手となる専門的人材の育成システムの現状はきわめて未整備の状態にあるといってよい。その結果として，現在実施されている社会調査の一部については，しばしば方法上・倫理上の問題点が指摘されており，社会調査の質的な改善や水準向上を求める声には大きなものがある。

こうした声に応え，事態の改善をはかるためには，なによりも社会調査に関する教育体制を整備し，調査を担当する人材の育成を制度化すると同時に，その専門的職業としての資格の制度化をはかることが必要とされる。このたび日本教育社会学会，日本行動計量学会，日本社会学会の３学会が，相互の連携協力のもとに，「社会調査士」資格の制度化をはかり，「社会調査士資格認定機構」の設立を構想したのは，そうした社会制度に応えることをねらいとするものである。（社会調査士資格認定機構設立趣旨書より）

（平成 20 年 12 月 25 日より，「社会調査士資格認定機構」は，体制を整備し，名称を新たに「一般社団法人　社会調査協会」として新しいスタートを切りました。）

社会調査士資格取得のための標準カリキュラム

社会調査士取得のためには，以下のＡ～Ｇに対応する授業科目単位を修得する必要があります。

Ａ：社会調査の基本的事項に関する科目
Ｂ：調査設計と実施方法に関する科目
Ｃ：基本的な資料とデータの分析に関する科目
Ｄ：社会調査に必要な統計学に関する科目
Ｅ：量的データ解析の方法に関する科目
Ｆ：質的な分析の方法に関する科目
Ｇ：社会調査の実習を中心とする科目
＊　ＥとＦはどちらかひとつを選択してください。

Ａ～Ｇがどの授業科目に対応するかは毎年協会に申請するため，多少変動がありますので，申請の際には必ず，一般社団法人　社会調査協会のホームページ（http://jasr.or.jp/）を参照してください。

本学部では，一般社団法人　社会調査協会の発行する社会調査士資格取得のための必要な科目（社会調査協会標準カリキュラムに準拠）を設置しております。

社会調査士資格には，卒業以前に取得できる「社会調査士（キャンディデイト)」資格と，卒業資格取得後に申請，あるいは，社会調査士（キャンディデイト）資格を変更して取得する正規の「社会調査士」資格があります。資格申請受付期間は毎年変更がありますので，必ず HP を確認してください。

資格取得希望者は，以下の要件に従って書類を準備，申請してください。

社会調査士（キャンディデイト）の場合，申請にあたっては，必ず自身が資格申請要件を有しているかどうか確認してください。

【資格申請要件】

① 在籍期間が２年以上であること

② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムＡ～Ｇに対応した科目単位を申請時までに，３科目以上単位修得していること

③ ２の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が５科目以上であること
（ただしＥ／Ｆ科目は選択制のため１科目と数える）

【資格申請手順】

① 社会調査協会ホームページ（http://jasr.or.jp/）から様式をダウンロードし，必要事項を記入

② 必要書類を準備

1. 単位取得を証明する書類
2. 科目を履修中であることを証明する書類

③ 資格認定手数料 16,200 円（税込）を郵便局にて振込み，領収証コピーを様式裏面に貼付
振込用紙は調査協会から各大学へ送られている，所定の用紙を使用してください。
口座番号：00110 － 1 － 654739
加入者名：一般社団法人　社会調査協会

④ 上記の様式および必要書類を，連絡責任者に提出
（本校連絡責任者　矢部拓也）

注）本規定は，2015 年 12 月時点のものであり，今後，改訂される可能性があります。申請に際しては，各自，社会調査協会のホームページを読んでから申請にのぞんでください。

9．社会福祉主事の資格取得

社会福祉主事について

社会福祉主事は，「社会福祉法第19条」に規定されている「任用資格」で，福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）であり，社会福祉施設職員等の資格に準用されています。「任用資格」とは，社会福祉主事として採用されて始めて「社会福祉主事」と名乗れるということを意味します。任用資格を取得するためには，大学在学中に，下記に示す社会福祉主事任用資格指定科目の内，3科目以上を受講する必要があります。

社会福祉主事の職務は，下記に示す福祉施設等において，福祉各法に定められた援護・育成・公正の措置に関する事務を行うことです。社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおりです。

【行政】

1．福祉事務所

現業員，査察指導員，老人福祉指導主事，家庭児童福祉主事［児童福祉事業従事2年以上等］，家庭相談員［児童福祉事業従事2年以上等］，母子相談員

2．各種相談所

知的障害者福祉司［知的障害者福祉事業従事2年以上等］，身体障害者福祉司［身体障害者福祉事業従事2年以上等］，児童福祉司［児童福祉事業従事2年以上等］

【社会福祉施設】

施設長，生活指導員　等

※［　］内は，社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

社会福祉主事任用資格指定科目

【社会福祉法第19条1号に定められた指定科目一覧】

社会福祉概論，社会福祉事業史，社会福祉援助技術論，社会福祉調査論，社会福祉施設経営論，社会福祉行政論，社会保障論，公的扶助論，児童福祉論，家庭福祉論，保育理論，身体障害者福祉論，知的障害者福祉論，精神障害者保健福祉論，老人福祉論，医療社会事業論，地域福祉論，法学，民法，行政法，経済学，社会政策，経済政策，心理学，社会学，教育学，倫理学，公衆衛生学，医学一般，リハビリテーション論，看護学，介護概論，栄養学，家政学

本学部での履修と，社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の発行について

社会福祉主事として任用されるに際しては，卒業証明書と成績証明書によって履修を証明することができることとなっています。但し，採用に際して社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の提示を求められることがあります。その場合には，本学部では，次に示す科目の内の3科目を履修することにより，福祉主事任用資格必要科目履修証明書を発行することができます。

【社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書発行のために受講が必要な科目】

本学開講科目（読替科目）	指　定　科　目
・民法Ⅰ及びⅡ	民法
・行政法Ⅰ及びⅡ	行政法
・精神医学	精神障害者保健福祉論
・教育学	教育学
・人間と生命／心理学基礎	心理学
・福祉社会論	地域福祉論
・社会統計学Ⅰ及びⅡ	社会福祉調査論
・環境倫理学	倫理学
・衛生・公衆衛生学	公衆衛生学

※民法，行政法及び社会統計学はⅠとⅡの両方を受講して１科目と見なされるので，両方とも受講すること。

10. GIS 学術士の資格取得

1 「GIS 学術士」の資格制度について

「GIS 学術士」とは，GIS の学術を保有する者として，公益社団法人日本地理学会により認定される制度です。

2 「GIS 学術士」の資格制度の目的

「GIS」とは，地理情報科学（Geographic Information Sciences）および地理情報システム（Geographic Information System）を指し，「GIS」の学術とは地理情報をコンピュータで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示･伝達することに係わる学術を意味します。「地理情報」とは，地理的な位置や範囲と属性情報が対になっている情報を指します。「GIS 学術士」の資格制度は，GIS の知識と技術の向上をはかり，適正な GIS 学術を普及し，もって地理情報科学及び地理学の進歩と社会の発展に貢献することを目的としています。（「GIS 学術士資格認定規定」をもとに作成）。

3 「GIS 学術士」資格取得のための標準カリキュラム

「GIS 学術士」資格取得のためには，以下の【A】～【D】に対応する授業科目単位を修得する必要があります。

【A】：GIS に関連する情報処理を中心とする科目

【B】：GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目

【C】：GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目

【D】：GIS を利用した卒業論文を執筆する科目（または，それに相当する演習）

（指導教員を選ばないが，卒業論文における GIS 利用の適・不適は，申請書と作成された論文によって，GIS 学術士資格委員会が判定する。）

総合科学部のどの授業科目が【A】～【D】に対応するかは，年度ごとに多少の変動がありますので，申請の際には必ず，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページ（下記 URL）にある「実績証明団体」の「徳島大学総合科学部社会創生学科地域創生コース」もしくは，「徳島大学総合科学部社会総合科学科」の項目を参照してください。

http://ajg-certi.jp/

4 「GIS 学術士」資格申請に際して

「GIS 学術士」の取得は卒業後になります（申請は卒業前に可）。ただし，下記の要件を満たしていれば，卒業前に「GIS 学術士（見込み）」の認定を受けることができます。「GIS 学術士（見込み）」が認定されれば，資格要件科目をすべて修得した後に，「GIS 学術士」資格への変更を申請することが可能になります。

○「GIS 学術士（見込み）」の認定要件

① 大学在籍期間が３年以上であること。

② ３の【A】【B】【C】に対応した科目の単位を申請時までに２科目以上修得していること。

③　②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が３科目以上であること。

5　資格申請手順について

以下では「GIS 学術士（見込み）」の申請手順について簡潔に記します。

①　公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページから各種申請書をダウンロードして必要事項を記入します。

http://ajg-certi.jp/

②　単位修得・科目履修を証明する書類を準備します。

③　手数料を払い込みます。（「GIS 学術士（見込み）」は認定審査手数料 5,400 円）。払込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付してください。

【払込先（郵便局）】

振替口座：00130 － 0 － 413143

加入者名：公益社団法人日本地理学会 GIS 学術士資格委員会

＊払込金受領書の「ご依頼人」の欄に，住所，氏名（大学名・学生番号）を記入してください。

④　上記の必要書類一式を公益社団法人日本地理学会 GIS 学術士資格委員会まで郵送してください。

注１）上記の情報は 2015 年 12 月時点のものであり，今後改訂される可能性もあります。申請に際しては，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページを必ず事前に確認してください。不明な点があれば，塚本章宏（「GIS 学術士」徳島大学総合科学部代表担当者）まで問い合わせください。

注２）卒業後，見込み者が「GIS 学術士」の資格認定を受けるには残額の 5,400 円が必要です。

11. 日本語教員の養成

「クール・ジャパン」の流行や漫画・アニメ，また日本食の人気などで，世界では日本語を学ぶ人たちが増えています。私たちの使っている日本語は，現在世界で398万人が学んでおり（国際交流基金2012），国内でも17万人の人たちが勉強しています（文化庁2010）。さらに，日本政府も国家戦略の一つとして日本国内への留学生や優秀な労働者の積極的な受け入れを進めており，これからも質の高い日本語教師の必要性は高くなっていくと思われます。

日本人なのだから日本語が教えられる，と思うかもしれません。確かに日本人なら誰でも日本語を話しますが，実は日本語教育と国語教育は視点が全く違います。そして，日本語が全くわからない人に，整理して文法を教えたり日本人と上手に会話できるように指導したりするには，十分な知識と技術が必要です。

総合科学部では，次ページにある日本語教育関連の授業を提供していますが，それらの授業を履修しても日本語教師のための資格や免許が得られるわけではありません。でも，日本語教育に関連した事柄を学ぶことで，自分の言語である日本語と言語を含む日本文化や日本人の考え方などを客観的にとらえ直すことができます。また，日本語を使った日本人との円滑なコミュニケーションの仕組みについても学びますから，他の日本人や外国人留学生や友達との良いコミュニケーションのとり方についても理解することができます。もちろん，これらの授業は将来日本語教師として働くための良い土台となります。

日本語教師を職業として目指すなら，一般の教員免許を取得するための授業科目を履修しておくこと，また外国語を体系立てて勉強しておくことを勧めます。

副専攻課程に相当する単位を取得した場合，そのことを証明する証明書を本学部が発行しますので，希望者は所定の手続きを取ってください。証明書を得るために他大学・他学部との間で単位互換を希望する人は，事前に教務委員を通して教務委員会に照会し，履修希望授業科目が文部科学省の示した表Aの科目として認定されるかを確認してください。

表A　文部科学省が日本語教員養成のための標準的教育内容として示した分野と主（副）専攻のための最低修得単位数

記　号	内　　容	主専攻課程	副専攻課程
Ⅰ－(1)	日本語の構造に関する体系的，具体的な知識	18単位	10単位
Ⅰ－(2)	日本語の教授に関する知識・能力	11単位	9単位
Ⅱ	言語学的知識・能力	8単位	4単位
Ⅲ	日本人の言語生活等に関する知識・能力	4単位	2単位
Ⅳ	日本事情	4単位	1単位
	計	45単位	26単位

表Ｂ　分野ごとに本学部で解説している授業科目と認知されうる最大単位数

記　号	授業科目の名称	単位数
Ⅰ－(1)	日本言語概説	2
	応用日本語学概説	2
	日本言語研究	2
	応用日本語研究	2
	日本語表現の基礎	2
	日本言語演習	8
	＊日本語の音声	2
	＊日本語の敬語	2
Ⅰ－(2)	日本語教育方法論Ⅰ	2
	日本語教育方法論Ⅱ	2
	日本語教授法Ⅰ	2
	日本語教授法Ⅱ	2
	日本語教材研究	2
	＊世界の中の日本語	2
Ⅱ	英語研究Ⅰ	2
	国際語としての英語	2
	Academic Communications Ⅰ	2
	Academic Communications Ⅱ	2
	実用外国語基礎演習Ⅰ	2
	実用外国語基礎演習Ⅱ	2
Ⅲ	異文化間コミュニケーション	2
	日本文化研究Ⅰ	2
	日本文化研究Ⅱ	2
Ⅳ	日本表象文化論Ⅰ	2
	日本表象文化論Ⅱ	2
	比較文化研究	2

＊印の付いた科目は教養教育科目（年度によって名称が変更されることがある。）

12. グローバル人材育成学習プログラム

総合科学部では，学科横断的な複数科目を受講することで一定のまとまった知識や能力を獲得できるようにまとめた一連の科目を「学習プログラム」と名付けてまとめ，「グローバル人材育成学習プログラム」を用意しています。これらの科目の一部のみを受講することもできますが，プログラム所定の単位を修得した場合は，プログラム単位修得証明書を発行します。くわしくは学務係でたずねてください。

この学習プログラムは，所定の科目の修得と短期留学，さらには海外交流協定校※1などへの長期留学（セメスター単位）の経験を踏まえて，異文化に対する豊かな洞察力と確かな語学力を身につけ，国内外の社会で世界的な視野をもって活躍することができる人材を育成することを目的としています。日本文化および多文化理解のための科目履修（1，2年次中心）に，早期（1年次が望ましい）の短期留学を経て，2年次後期以降の長期留学という学習課程をここでは想定しています。

このプログラムには英語を軸とするものと中国語を軸とするものがあります。所定科目とプログラム修了証明書の取得に必要な単位数は表1のとおりです。必要単位数を修得した上で，語学検定試験の成績，短期留学の経験，長期留学での単位修得の有無などを加味して，証明書には複数のランクが設定されています。その種類と取得要件は表2のとおりです。Sランクを取得した場合，学部長による表彰の対象になります。証明書の申請は3年生11月以降から出来ます。すでに証明書を取得している場合でも，語学検定試験の成績向上などにより，再申請が可能です。

英語を軸とするプログラムに参加する場合は1年次終了時に，中国語を軸とするプログラムに参加する場合は2年次終了時までに学務係で登録してください※2。なお，このプログラムへの登録が，海外交流協定校への長期留学（セメスター単位）の条件になっています。交流協定校への留学を希望する皆さんは，必ずこのプログラムに登録してください。

※1 「手引き」26頁参照

※2 ただし，語学検定試験で以下のいずれかの水準を超えた場合は，英語を軸とするプログラムの場合は2年次中途，中国語を軸とするプログラムの場合は3年次中途での登録を認めます。

英　語	TOEFL iBT　80点	TOEIC　730点	実用英語技能検定（英検）準1級	IELTS　6.0点
中国語	中国語検定4級	HSK　2級	TECC　400点	

※ 海外交流協定校への派遣留学について，年に2度の報告会を開催しています。派遣された皆さんは，帰国後にその経験を後輩に伝えるために，そこで報告することが義務づけられています。また，留学を希望する皆さんはその準備のために必ず参加してください。

表１　グローバル人材育成学習プログラム修了証明書取得に必要な単位数

授業カテゴリー	必要単位数	授業科目・題目名※※
日本の社会と文化を理解するための科目	10 単位	別表１－１
サマー・スクール参加科目		
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	6 単位	
英語運用能力向上のための科目※	8 単位	
中国語運用能力向上のための科目※	8 単位	
		合計　24 単位以上

※英語８単位，中国語８単位はいずれかを選択。
※※授業科目･題目名については別表１－１を参照すること。ただし，全学共通教育の授業題目については年度によって変更になる場合があるので学務係で確認すること。

表２－１　プログラム修了証明書のランク

証明書のランク	ポイント
S	22 以上
A	19 以上
B	16 以上
C	11 以上

表２－２　加算ポイント基準（語学検定はいずれか一つを採用する）

語学検定（英語）ランク	ポイント
TOEFL100，TOEIC870，英検１級，IELTS7.0 以上	11
TOEFL80，TOEIC730，英検準１級，IELTS6.0 以上	8
TOEFL60，TOEIC550，英検２級，IELTS5.0 以上	5
TOEFL45，TOEIC450，英検準２級，IELTS4.0 以上	2
語学検定（中国語）ランク	ポイント
HSK ５級，HSK 口頭試験高級，中国語検定準１級，TECC700 点以上	11
HSK ４級，HSK 口頭試験中級，中国語検定２級，TECC600 点以上	8
HSK ３級，HSK 口頭試験初級，中国語検定３級，TECC500 点以上	5
HSK ２級，中国語検定４級，TECC400 点以上	2
短期語学等研修（３週間以上）	ポイント３
長期（セメスター単位）留学	ポイント
５科目以上単位認定	11
３科目以上単位認定	8
１科目以上単位認定	5
海外インターンシップ経験	ポイント３

※ TOEFL は iBT 試験を利用します。TOEIC は IP 試験を除く。

別表１－１　平成 28 年度開講の授業

授業カテゴリー	科　　目　　名	必要単位数
日本の社会と文化を理解するための科目	**（教養教育科目）** アジアの近代と日本 徳島を考える 憲法と人権 I 憲法と人権 II 江戸時代後期の社会変動と明治維新 能・狂言・文楽・歌舞伎 世界の中の日本語 古代・中世日本の社会 沖縄社会文化論 **（総合科学部科目）** 近現代世界の成立と展開 現代日本社会論 Japanese Studies Ⅰ Japanese Studies Ⅱ	10 単位
サマー・スクール参加科目	**（教養教育科目）** Global communication-Volunteer experience in local community	
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	**（教養教育科目）** 異文化／自文化研究へのいざない 国際政治学入門 国際協力論―この貧困と抗争の尽きない世界で 移民から世界を見る 地球環境問題 現代世界の展開Ⅰ 現代世界の展開Ⅱ **（総合科学部科目）** 比較宗教学 グローバル交渉史 国際関係論 平和学 現代国際情勢概論 国際協力論 グローバル・ヒストリー 国際語としての英語 総合科学実践プロジェクトA，B，E	6 単位
英語運用能力向上のための科目	**（総合科学部科目）** Academic English Ⅰ，Ⅱ Academic Communications Ⅰ，Ⅱ	8 単位
中国語運用能力向上のための科目	**（教養教育科目）** 中国語入門 中国語初級 **（総合科学部科目）** 実用外国語基礎演習（中国語）Ⅰ，Ⅱ 実用外国語演習（中国語）	8 単位
	計	24 単位以上

Ⅳ．授業概要（シラバス）

（「学部共通科目」および「実践学習科目」を記載。
他の授業科目はＨＰを参照）

1．総合科学部
学部共通科目

ページ	配当学年		授　業　科　目	単位数等
109	①	必修	総合科学入門講座	1　必修
109	①	選択必修Ⅰ	科学論	2 ┐ 2単位以上
110	①		情報処理基礎論	2 ┘ 必修
110	①	選択必修Ⅱ	総合科学の基礎A（日本語表現の基礎）	2 ┐
111	①		総合科学の基礎B（文化研究の基礎）	2
112	①		総合科学の基礎C（哲学・思想の基礎）	2
112	①		総合科学の基礎D（スポーツ科学の基礎）	2
113	①		総合科学の基礎E（心理学の基礎）	2
113	①		総合科学の基礎F（公共政策学の基礎）	2 10単位以上
114	①		総合科学の基礎G（経済学の基礎）	2 必修
115	①		総合科学の基礎H（社会学の基礎）	2
115	①		総合科学の基礎J（情報社会と情報倫理）	2
115	①		Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
116	①		Academic English Ⅱ（4技能アカデミック英語入門）	2
117	②		Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2 ┘
計				13単位以上

総合科学入門講座

Introduction to Integrated Arts and Sciences

1単位（必修）1年（前期）
平井　松午，饗場　和彦，葭森　健介，依岡　隆児，山口　裕之

【授業の目的】
国内外の諸地域では，グローバル化，少子高齢化，健康社会づくり，地域活性化などに関わる地域課題の解決やそのための社会的取組が強く求められています。こうした課題を理解・解決するには，総合的な視点にもとづく研究アプローチが不可欠です。本授業では「総合科学」についての理解を深め，視野を広げることの必要性を通じて，総合科学部で学ぶことの意義を理解します。

【授業の概要】
授業では，総合科学部（社会総合科学科）が目指す学修の基本理念やプログラム，学びのルール，学術的発想法などについて教授するとともに，総合科学部が取り組むグローバル化や地域連携への理解を深めます。

【キーワード】
総合科学，学修，グローバル化，社会連携

【到達目標】
1．総合科学部の理念と学習プログラムを理解する。
2．学修や課題探求に求められる基本的態度を理解する。
3．多面的・総合的な視点や論理的思考性の必要性を理解する。

【授業の計画】
第1回：総合科学部での学び（葭森，平井）4月15日
第2回：国際化と国際交流（葭森ほか）4月22日
第3回：社会連携と地域貢献（平井ほか）5月13日
第4回：読書のススメ（依岡）5月20日
第5回：総合科学の実践（山口）5月27日
第6回：自由で平和な民主主義のために（饗場）6月3日
第7回：多文化主義への理解（依岡ほか）6月10日
第8回：学術的発想とレポートの書き方／アンケート（山口ほか）6月17日
※月日は授業実施予定日。

【教科書】
『コピペと言われないレポートの書き方教室：3つのステップ：コピペから正しい引用へ』／山口裕之：新曜社，2013年

【参考書】
『履修の手引き』／総合科学部：総合科学部，2016年
『読書のススメ　四国から，グローカルに』／依岡隆児：徳島新聞社，2010年

【教科書・参考書に関する補足情報】
授業時には，必要に応じて資料も配付します。

【成績評価方法・基準】
1．毎回提出してもらう「授業コメント」（40点／1回5点）や，「課題レポート」（40点），授業への参加姿勢（20点）をもとに成績評価を行います。
2．「課題レポート」は各自2回（各20点）提出してもらいます。
3．5回以上出席しないと，成績評価の対象になりません。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
出欠カードで毎回出席確認を行うので，学生証は絶対に忘れないこと。大学は自己責任です。忘れた場合には出席扱いとはなりませんので，注意してください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
課題レポート2回分の提出が課せられます。関心を持った講義内容については，関連図書などを参考に，自らが主体的に関心事・テーマについて調べた内容を「相手にわかりやすく伝える」気持ちでレポートを作成してください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（メールアドレス）平井松午　hirai@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）授業終了後の昼休み

科学論

Science and Society

2単位（選択必修Ⅰ）1年（後期）
土屋　　敦，饗場　和彦，熊坂　元大，塚本　章宏

【授業の目的】
1．現代社会で生じている「科学の功罪」に関する理解を深めるとともに，それを自分の問題として考えるためのきっかけを得ること。
2．医療倫理，研究倫理，環境倫理，地域医療など，「科学の功罪」に関する主題群に対して，受講者自らが情報収集を行い主体的に情報を発信できる力を身に付けること。

【授業の概要】
講義の中では，現代社会における「科学のあり方」を問い直すことを目的として，「文理融合型」の知のあり方を模索する手掛りを受講生の方に提供する。また随時，医療倫理，環境学，地域医科学などの専門講師をゲストスピーカーとしてお招きする。
本講義は，3部構成から成る。
第1部「生命倫理編」では，ナチスによる人体医学実験などの科学技術の進展における「負の遺産」を概観するとともに，研究倫理や医療倫理の主題をテーマごとに紹介する。
第2部「地域の中の科学と技術編」では，地域社会における科学と技術のあり方を紹介し，現代科学のあり方を「地域」という言葉をキーワードに問い直す。
第3部「環境倫理編」では，動物実験の倫理や気候変動など，広義の環境倫理をめぐる問題を概説するとともに，各主題への理解を深める。

【キーワード】
科学技術の功罪，生命倫理，環境倫理，動物倫理，地理学（GIS），地域と科学技術

【到達目標】
・文化・社会と自然との関わりについての理解
・専門的知識を体系的に理解できる能力の育成
・論理的思考力の養成
・日本語の論理的文章を理解できる能力の養成
・日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成
・情報リテラシーの養成
・豊かな人間性の涵養
・高い倫理観の涵養
・自分で問題を発見しようとする態度の養成

【授業の計画】
第1回：オリエンテーション（土屋・熊坂）【生命倫理編】
第2回：「科学技術と倫理―ナチスの人体実験と医療倫理・研究倫理の成立」（土屋）
第3回：ゲストスピーカー講演「人を対象とする医学系研究と倫理」（楊河宏章　准教授　徳島大学病院臨床試験管理センター）
第4回：「進みすぎ生命科学技術？―出生前診断と選択的中絶」（土屋）
第5回：「「脳死の人」をめぐる論争と臓器移植」（土屋）
第6回：「安楽死・尊厳死は認められるべきなのか？」（土屋）【地域の中の科学と技術編】
第7回：「保健医療のGIS」（塚本）
第8回：ゲストスピーカー講演「地域医療について」（山口治隆　特任助教　徳島大学大学院　総合診療医学分野）
第9回：「地域社会における医療技術」（土屋）【環境倫理編】
第10回：「いのちの重さと種族の違い―食料と動物実験の倫理」（熊坂）
第11回：「動物と自然の描き方―殺生と交感」（熊坂）
第12回：ゲストスピーカー講演「環境規制は何を守ろうとしているのか」（遠藤智司　特任准教授　大阪市立大学工学研究科）
第13回：「メディアから見る環境問題の捉え方」（熊坂）
第14回：「緩和と適応―気候変動の倫理」（熊坂）
第15回：学期末試験
第16回：総括講義（土屋・熊坂）

【教科書・参考書に関する補足情報】
参考書籍は，随時講義の中で紹介していきます。

【成績評価方法・基準】
出席点（30点）＋学期末試験（70点）
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
皆さんが，現在の科学と技術の「正の側面」と「負の側面」を理解していく上でよい講義だと思います。
関心のある方はぜひ受講してください。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
土屋　敦（tsuchiya.atsushi@tokushima-u.ac.jp）
総合科学部１号館南棟１階
熊坂元大（kumasaka@tokushima-u.ac.jp）
総合科学部１号館北棟１階
（メールアドレス）
tsuchiya.atsushi@tokushima-u.ac.jp
kumasaka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
随時。
事前にメールでアポイントメントをお願いします。

情報処理基礎論

Introducton to Computing

２単位（選択必修Ⅰ）１年（後期）
豊田　哲也，石田　基広，佐藤　充宏，田口　太郎，
矢部　拓也，行實　鉄平，中塚健太郎

【授業の目的】
現代の情報化社会を生きていく上で，さまざまなデータを分析したり，ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ，方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は，科学における認識の基礎である。また，諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは，情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん，重要な意志決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では，こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため，体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は，そのプラットホームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて，統計学に関する基礎的な知識を学び，データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。
【授業の概要】
授業は導入部分，本篇部分，総括部分の３つからなる。本篇は１つのテーマごとに講義１回と実習１回をセットとし，全部で７つ（または６つ）のセットから構成される。受講者数が多いため，２クラスに分かれて実施する。講義では，データを科学的に理解するために必要な統計学の基礎的事項について解説する。実習では，課題や目的に応じデータを活用するのに役立つ実践的技能を身につけるため，表計算ソフトExcelを用いたトレーニングをおこなう。教材プリントは前もって配布されるので，受講生は授業の前に予習しておくことが望ましい。また，毎回授業の最後に内容をふり返り要点をまとめると同時に，質問やコメントの記入を求める。なお，この授業は担当教員がチームで授業の開発と運営にあたっており，教育改善のモデルケースとして位置づけられていることから，受講生諸君の積極的な取り組みが期待される。
【キーワード】
情報処理，統計学，リテラシー，論理的思考力，Microsoft Excel，社会調査士
【授業計画】
第１回：ガイダンス　講義
第２回：データの尺度と比率(1)　講義
第３回：データの尺度と比率(2)　実習
第４回：グラフの種類と表現(1)　講義
第５回：グラフの種類と表現(2)　実習
第６回：集計表の作成(1)　講義
第７回：集計表の作成(2)　実習
第８回：ヒストグラムと代表値(1)　講義
第９回：ヒストグラムと代表値(2)　実習
第10回：データの散らばり(1)　講義
第11回：データの散らばり(2)　実習
第12回：２変数間の関係(1)　講義
第13回：２変数間の関係(2)　実習
第14回：推測統計学への道(1)　講義
第15回：推測統計学への道(2)　実習
第16回：授業のまとめ　講義
【教科書・参考書に関する補足情報】
各回の授業時にプリントを配布する。教材はこの授業のために開発されたオリジナルな内容である。参考資料は授業時に指示する。
【成績評価方法・基準】
課題の評価（70％）に授業への取組（30％）を加味して評価する。
【再試験の有無】
おこなわない
【受講者へのメッセージ】
受講者は前提としてWindows操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる（１年次前期に共通教育「情報科学入門」を受講済みであることが前提である）。授業は講義と実習を組み合わせておこない，各回の内容に応じた課題を与える。なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある。初回授業ではガイダンスとクラス分けをおこなうので，開講前の９月末に掲示板等で指定された教室に集合すること。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
豊田　哲也：（総合科学部１号館1S25,
toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp）
矢部　拓也：１号館南棟１階
行實　鉄平：１号館中棟2M10　スポーツ経営学研究室
088－656－7286
田口　太郎：（２号館E棟２F，地域計画学研究室，
Tel：088－656－2235，taguchi@tokushima-u.ac.jp）
中塚健太郎：総合科学部１号館２階２M14
TEL　088－656－7213
石田　基広：2606
佐藤　充宏：１号棟２階２M11（スポーツ社会学研究室）
TEL　088－656－7207
（メールアドレス）
豊田　哲也：toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp
矢部　拓也：yabe @ ias.tokushima-u.ac.jp
行實　鉄平：yukizane@tokushima-u.ac.jp
田口　太郎：taguchi@tokushima-u.ac.jp
中塚健太郎：nakatsuka@tokushima-u.ac.jp
石田　基広：ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp
佐藤　充宏：satom@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
豊田　哲也：木曜　12：00－13：00
矢部　拓也：希望者は，随時，メールにてアポを取って下さい。
行實　鉄平：月曜午後
田口　太郎：適宜。田口へメールにてアポイントを取ってください。
石田　基広：金曜日16時～18時
【備考】
１．地域創生コースで取得可能な資格である社会調査士のカリキュラムのうち，【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目（必修）に該当する。
２．地域創生コースで取得可能な資格であるGIS学術士資格のカリキュラムのうち，【A】GISに関連する情報処理を中心とする科目（必修）に該当する。

総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）

Foundations of integrated Sciences：A

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
村上　敬一

【授業の目的】
現代日本語の基本的なしくみ（構造）と，その適切な使い方（運用）について理解することを目的とする。

日本語を母語とする者としての日本語学的知識（音声・文法・語彙など）と，その具体的な運用（社会言語能力）を実践的に学び，高めていく。

【授業の概要】

高校までの「国語」ではなく，日本語をひとつの言語として客観的に眺めることから始める。

現代日本語の具体的な事例に基づいて，ことばに関する研究（日本語学，言語学，方言学）や，日本語を母語としない人たちへの日本語教育（日本語教育学）の考え方を解説する。

【キーワード】

現代日本語学　社会言語学　日本語教育学　応用日本語学　日本語の音声　日本語の語彙　日本語の文法

【関連／科目】

『応用日本語学概説［Introduction to Applied Japanese Linguistics］』，『応用日本語学研究［Applied Japanese Linguistics］』

【到達目標】

1．日本語の基本的なしくみ（構造）について理解する。
2．日本語の適切な運用能力について，具体的な実践を通して高めていく。
3．現代日本語の現状について，客観的に眺める目を養い，具体的に説明できる力を身につける。
4．言語を社会との関わりで考える社会言語学について，基礎的なことがらを学ぶ。
5．日本語を母語としない人たちへの日本語教育について，基礎的なことがらを学ぶ。

【授業の計画】

第１回：日本語表現と日本語のしくみ
第２回：日本語の音声・音韻
第３回：日本語の文字・表記
第４回：日本語の語彙①（語構成と語構造，語種）
第５回：日本語の語彙②（語の意味，語源，語史）
第６回：日本語の語彙③（新語，流行語，若者語など）
第７回：日本語の文法①（動詞，形容詞）
第８回：日本語の文法②（助動詞，格助詞，終助詞，接続助詞など）
第９回：日本語の文法③（使役，受身など）
第10回：日本語学習者の日本語
第11回：日本語の地域差
第12回：日本語の歴史
第13回：日本語と社会①（日本語の男女差）
第14回：日本語と社会②（日本語の職業差）
第15回：日本語と地域社会
第16回：総括

【教科書】

初めて学ぶ方言学／井上史雄，木部暢子：ミネルヴァ書房，2016，ISBN：9784623075201

【参考書】

新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える／庵功雄　著，：スリーエーネットワーク，2012，ISBN：9784883195893

やさしい日本語のしくみ／庵功雄　［ほか］著，：くろしお出版，2003，ISBN：9784874242841

図解日本語／沖森卓也，木村義之，陳力衛，山本真吾　著，：三省堂，2006，ISBN：9784385362427

【教科書・参考書に関する補足情報】

原則として，教科書と関連する資料に基づいて授業を進めます。
ネット上に公開されている，下記の資料を使います。
国際交流基金　http://www.jpf.go.jp/j/
文化庁　国語関連
http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/index.html
国立国語研究所　http://www.ninjal.ac.jp/

【成績評価方法・基準】

下記の観点から，（　　）内の割合にて評価する。
出席など授業への参加度（20%）日常的な小レポート（20%）レポート①（30%）　レポート②（30%）

【再試験の有無】

上記の評価方法・基準にて評価し、再評価は行なわない。

【受講者へのメッセージ】

授業を受身で「聞く」「受ける」のではなく，積極的な参加を期待します。日常的な小レポートのほか，日本語に関する実践的な能力を身につけるための課題にも，積極的に取り組んでください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

（予習）
授業の計画に従って，事前に教科書を読んだり，ウェブ上の資料に目を通したりして，問題点や疑問点を整理しておくことが望ましい。
（復習）
授業の内容をふまえたレポートには，積極的に取り組むこと。

【WEB ページ】

国際交流基金　http://www.jpf.go.jp/j/
文化庁　国語関連
http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/index.html
国立国語研究所　http://www.ninjal.ac.jp/

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）　南棟１階 28 号室　TEL　088－656－7117
（メールアドレス）　murakami.kei@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）　火曜日　16：20－17：30　南棟１階 28 号室
事前にメール等で予約すること（緊急の場合は，この限りではない）。

【備考】

この授業は「中学校・国語」および「高校・国語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（必修）に該当する。

総合科学の基礎 B（文化研究の基礎）

Foundations of integrated Sciences：B

２単位（選択必修Ⅱ）１年（後期）
田島　俊郎，石川　榮作

【授業の目的】

文化とはある人間の集団，民族や国民や，部族のような人々の集まりの構成員に共有される約束ごとをいう。大はいわゆる民族や部族のような地域的，政治的グループであっても，学生，会社員，医者，などの職業や年齢などによる比較的小さなグループ，さらに遊び仲間のようなごく小さなグループであっても，そのグループに独特の約束ごとはもっている。そういった約束ごとの総体を文化と呼ぼう。文化を共有するかどうかで，共同体に受け入れられ，あるいは排除されることがある。 文化は時に部外者には不合理で不可解なものに見える。さらに集団のなかで共有された規約であるはずなのに集団の構成員自身にも不可視であることがある。不可視な文化的約束ごとは，内部の人間にとっても不合理で不可解であることもある。そういった文化を約束ごととして認識していくことが，文学や言語学，哲学，美学，文化人類学などが文化研究の方法である。

【授業の概要】

前半に田島が文化を観察し分析する方法論について述べ，後半には石川が，ヨーロッパの伝説を素材とした芸術作品を具体的に分析する。

田島は言語学，文化人類学，レトリック論，文学など，文化を読み解く手法について概観する。

石川は，トリスタン伝説を素材としたワーグナーのオペラ『トリスタンとイゾルデ』（1865 年初演）とケビン・レイノルズ監督の映画『トリスタンとイゾルデ』（2006 年アメリカ）を取り上げ，それぞれの特質を探っていく。

【キーワード】

文化，文学，オペラ，言語学，レトリック，神話

【到達目標】

分析の方法について学び，実際の表現方法の諸相にも触れることによって，文化を研究するための基礎を築き上げる。

【授業の計画】

第１回：文化とは何か，文化を研究するとは
第２回：ことばと文化
第３回：ことばで世界を切りわける
第４回：文化人類学，野生の思考
第５回：レトリック，隠喩と換喩
第６回：文学の方法
第７回：文学は世界の見方を提示する
第８回：アイルランドの駆け落ち譚
第９回：トリスタン伝説の生成と展開(1)
第10回：トリスタン伝説の生成と展開(2)
第11回：ワーグナーのオペラ『トリスタンとイゾルデ』第一幕

第12回：ワーグナーのオペラ『トリスタンとイゾルデ』第二幕
第13回：ワーグナーのオペラ『トリスタンとイゾルデ』第三幕
第14回：ケビン・レイノルズ監督映画『トリスタンとイゾルデ』(1)
第15回：ケビン・レイノルズ監督映画『トリスタンとイゾルデ』(2)
第16回：レポート講評

【教科書】
資料を提示，配布する。石川の授業ではプリントを配布するほか，石川榮作『トリスタン伝説とワーグナー』（平凡社新書）を使用する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価方法・基準】
２回のレポートおよび授業への参加貢献の程度による。
レポートの締め切りは，田島あてが１月上旬，石川あては１月下旬か２月上旬を予定しています。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
コメントや質問などは大いに歓迎します。授業への積極的な参加を期待します。

【WEB ページ】
http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/introcul/index.html

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
田島　俊郎：総合科学部１号館北棟２（2N08），088－656－7144
石川　榮作：総合科学部１号館北棟１階1N08，656－7142
（メールアドレス）
田島　俊郎：tajimat@tokushima-u.ac.jp
石川　榮作：ishikawa.eisaku@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
田島　俊郎：毎週木曜日 12 時～ 13 時
石川　榮作：毎週金曜日 15 時～ 16 時

総合科学の基礎 C（哲学・思想の基礎）

Foundations of integrated Sciences：C

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
山口　裕之，熊坂　元大，石田　三千雄

【授業の目的】
「正しく考える」ための知識や技術を，哲学的な思想を取り上げつつ学ぶ。

【授業の概要】
哲学とは「正しい知識」を得るための方法論である。日本語で「正しさ」というと，「科学的な正しさ」（事実認識の正しさ）と，「倫理的な正しさ」という二つの意味がある。この授業では，第一部で「自由」などをキーワードとして社会や個人に対する哲学の視点を講義し，第二部で「科学的な正しさ」について講義し，第三部で「倫理的な正しさ」について講義する。

【キーワード】
哲学，科学と哲学，倫理学

【到達目標】
１．人文科学（哲学）に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
２．日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
３．高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業の計画】
第１回：イントロダクション：現代における哲学の意義（石田，山口，熊坂）
第２回：社会と哲学(1)哲学史における自由（熊坂）
第３回：社会と哲学(2)異文化と寛容さ（熊坂）
第４回：社会と哲学(3)アイデンティティ（熊坂）
第５回：まとめとディスカッション（石田，山口，熊坂）
第６回：現代科学論の系譜(1)自然法則とイデア論（山口）
第７回：現代科学論の系譜(2)経験は真理を保証できるか（山口）
第８回：現代科学論の系譜(3)プラナリアの記憶物質（山口）
第９回：現代科学論の系譜(4)因果関係は実在するか（山口）
第10回：まとめとディスカッション：「科学の正しさ」をめぐって（石田，山口，熊坂）
第11回：倫理的な正しさとは何か　その１：リベラリズムの立場（石田）
第12回：倫理的な正しさとは何か　その２：リバタリアニズムの立場（石田）
第13回：倫理的な正しさとは何か　その３：コミュニタリアニズムの立場（石田）
第14回：まとめとディスカッション（石田）
第15回：授業全体のまとめ（石田，山口，熊坂）

【教科書】
なし

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【教科書・参考書に関する補足情報】
授業で必要な資料は配付する。

【成績評価方法・基準】
毎回の授業の最後に記入する「一言カード」，授業中に行う「小テスト」，「まとめ」授業における発表，学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験の有無】
なし

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
配布したプリントを何度も読み，そこに何が書かれているのかを考えることが，一番大切な予習であり，復習です。可能ならば，授業で扱った文献を自分で読んでください。

【WEB ページ】
http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/philosophy/top.html

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
山口　裕之：総合科学部１号館北棟１Ｆ　Tel　088－656－7615
石田三千雄：総合科学部１号館1N17，Tel　088－656－7147
熊坂　元大：総合科学部１号館1N11　Tel　088－656－7150
（メールアドレス）
山口　裕之：yamaguti@tokushima-u.ac.jp
石田三千雄：mishida@ias.tokushima-u.ac.jp
熊坂　元大：kumasaka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
山口　裕之：毎週火曜 10：30 ～ 11：30
石田三千雄：水曜７・８講時
熊坂　元大：メールで事前予約のうえ，随時面談する。

総合科学の基礎 D（スポーツ科学の基礎）

Foundations of integrated Sciences：D

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
荒木　秀夫，佐藤　充宏，三浦　哉，山口　鉄生，佐竹　昌之，行實　鉄平，中塚　健太郎

【授業の目的】
総合科学としてのスポーツ健康科学の視座を身につける。

【授業の概要】
スポーツ健康科学における各領域の研究内容および方法を紹介する。

【キーワード】
スポーツ，運動，健康，科学

【到達目標】
スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。

【授業の計画】
第１回：脳，こころ，身体をつなぐ科学（荒木）
第２回：脳と行動科学（荒木）
第３回：運動時の身体機能の特性（三浦）
第４回：健康づくりのための生活習慣（三浦）
第５回：体力について（佐竹）
第６回：スポーツバイオメカニクスについて（佐竹）
第７回：スポーツ医学について（山口）
第８回：生命科学について（山口）
第９回：スポーツ心理学について（中塚）
第10回：スポーツメンタルトレーニング－身心の自己調整法－（中塚）
第11回：スポーツ経営学について（行實）

第12回：アダプテッド・スポーツについて（行實）
第13回：スポーツ社会学について（佐藤）
第14回：健康社会学について（佐藤）
第15回：「心身健康学に向けて」振返討論会（佐藤）
【教科書】
特になし
【参考書】
プリントを配布する。
【成績評価方法・基準】
出席態度，レポート，小テスト，課題への取り組みを総合的に評価する。
【再試験の有無】
無し
【受講者へのメッセージ】
遠慮なく質問してください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
各教員より指示があります。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
荒木秀夫　2M13　088－656－7214　araki@tokushima-u.ac.jp
佐藤充宏　2M11　088－656－7207　satom@tokushima-u.ac.jp
三浦　哉　2M17　088－656－7288
hajime-m@tokushima-u.ac.jp
山口　鉄生　2 M16　088－656－7209
t-yam@tokushima-u.ac.jp
佐竹　昌之　2 M15　088－656－7212
satake.masayuki@tokushima-u.ac.jp
行實　鉄平　2 M10　088－656－7286
yukizane@tokushima-u.ac.jp
中塚健太郎　2 M14　088－656－7213
nakatsuka@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
t-yam@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業終了後
【備考】
教員の講義担当日は予定を変更することがある。

総合科学の基礎 E（心理学の基礎）

Foundations of integrated Sciences：E

２単位（選択必修Ⅱ）１年（後期）
佐藤　健二，山本　真由美，上岡　義典，
内海　千種，境　泉洋，福森　崇貴，佐藤　裕

【授業の目的】
総合科学の基礎の一つに心理学が考えられる。また，心理学に関する基礎的な学術的知識は，地域住民の健康増進を考える際に重要と考えられる。健康増進に関わる行動のさまざまな側面に心理学的要因が関わっているからである。この授業を通して，学生は，地域住民の健康増進との関連において，心理学の基礎的な学術的知識を習得することができる。
【授業の概要】
心理学の各専門分野について，汎用性の高い概論的な授業内容を講義する。講義形式で進める。
【キーワード】
心理学，健康
【到達目標】
１．心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。
２．地域住民の健康増進との関連において，心理学の基礎的な学術的知識を修得している。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス（全員）
第２回：知覚心理学（佐藤（裕））
第３回：認知心理学（佐藤（裕））
第４回：学習心理学（境）
第５回：コミュニティ心理学（境）
第６回：社会心理学（佐藤（健））
第７回：健康心理学⑴：認知行動論的接近（佐藤（健））
第８回：生涯発達心理学（山本（真））
第９回：発達臨床心理学（山本（真））
第10回：福祉心理学（上岡）
第11回：教育心理学（上岡）
第12回：臨床心理学（内海）
第13回：健康心理学⑵被害者の心身の変化（内海）
第14回：パーソナリティ心理学（福森）
第15回：医療心理学（福森）
第16回：総括（佐藤（健））
【教科書】
使用しない。適宜，資料を配付する。
【参考書】
必要に応じて，講義の中で紹介する。
【成績評価方法・基準】
各担当教員の最終回に教室でレポートを課す。その合計得点を担当教員数で除した数が評点となる。
【再試験の有無】
無
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
復習として，授業中に配布した資料を熟読し，理解を深めること。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
佐藤　健二：総合科学部３号館南棟３階3S05 研究室
境　　泉洋：総合科学部３号館南棟３階3S03 研究室
山本真由美：総合科学部３号館南棟３階3S06 研究室
佐藤　　裕：総合科学部３号館南棟３階3S02 研究室
福森　崇貴：総合科学部３号館南棟３階3S08 研究室
上岡　義典：総合科学部３号館南棟３階3S01 研究室
内海　千種：総合科学部３号館南棟３階3S07 研究室
（メールアドレス）
佐藤　健二：satoken@tokushima-u.ac.jp
境　　泉洋：sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp
山本真由美：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
佐藤　　裕：satoyu@tokushima-u.ac.jp
福森　崇貴：t.fukumori@tokushima-u.ac.jp
上岡　義典：ueoka@tokushima-u.ac.jp
内海　千種：uchiumi@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
佐藤　健二：木曜日 12：15－12：45
境　　泉洋：前期：木曜 12 時～ 14 時，後期：水曜 12 時～ 14 時
出張等によって急遽不在の事があります。その際は，メール等で問い合わせてください。
山本　真由美：在室時はいつでも可。
上岡　義典：火曜日：12：00 ～ 13：00（出張等により，不在の場合もあります）

総合科学の基礎 F（公共政策学の基礎）

Foundations of integrated Sciences：F

２単位（選択必修Ⅱ）後期（１年）
小田切　康彦

【授業の目的】
現代社会は，環境問題，社会保障問題，介護問題，過疎化等，非常に多様な問題を抱えている。こうした社会全体の問題として認識されるのが公共問題であり，それらをどのように解決するかという方針や手段が公共政策である。本授業では，こうした公共政策の理念や制度，構造等を体系的に学ぶとともに，その現代的動向と課題について理解することを目指す。
【授業の概要】
授業は，まず，公共政策に関する基礎的な知識として，政府・行政機構の概要，政策の体系・過程・手段等について学ぶ（第１回～第６回）。つづいて，環境，福祉，子育て・医療，経済・産業，まちづくり，教育・文化・スポーツ，外交・国際，といった各政策分野の取り組みに関して，近年の動向と課題について検討する（第７回～第13回）。そして，最後に，受講生による簡単な政策コンペを実施し，市民参加の観点から政策問題の解決方策を探る（第 14 回）。
【キーワード】
公共政策，国家，地方自治体，政策問題，政策分野，政策体系，

政策手段，政策コンペ，グループワーク
【関連／科目】
『公共政策学［Public Policies］』
【到達目標】
１．公共政策の理念と制度体系を説明できる。
２．公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス：公共政策とは何か
第２回：公共政策の主体⑴：国家，政府
第３回：公共政策の主体⑵：地方自治体
第４回：公共政策の過程：形成，決定，実施，評価
第５回：公共政策の体系：政策，施策，事務事業
第６回：公共政策の手段：規制，経済的手法，情報的手法
第７回：公共政策の事例⑴：環境，循環型社会
第８回：公共政策の事例⑵：福祉，社会保障
第９回：公共政策の事例⑶：子育て，医療
第10回：公共政策の事例⑷：経済，産業
第11回：公共政策の事例⑸：まちづくり，市民参加
第12回：公共政策の事例⑹：教育，文化，スポーツ
第13回：公共政策の事例⑺：外交，国際化
第14回：ミニ政策コンペ：市民参加と問題解決策
第15回：試験
第16回：総括
【教科書】
特に指定しない（毎回，文献・資料等を配布する）。
【参考書】
政策学入門：私たちの政策を考える／新川達郎　編，法律文化社，2013，ISBN：9784589035288
身近な公共政策論：ミクロ行政学入門／安章浩，新谷浩史　著，学陽書房，2010，ISBN：9784313320383
政策科学入門／宮川公男　著，東洋経済新報社，2002，ISBN：9784492250082
【教科書・参考書に関する補足情報】
・授業は毎回配布する資料・レジュメを基にすすめる。
・その他，関連する文献・資料等は授業のなかで随時紹介する。
【成績評価方法・基準】
コミュニケーションペーパー（20％），授業期間中に実施する２回の小レポート（20％），および期末試験（60％）を総合して評価する。
【再試験の有無】
再試験は行わない。
【受講者へのメッセージ】
各種政策問題の理解のため，物事を総合的・多面的に捉える努力が求められる。また，日ごろから社会問題等に関心を払ってほしい。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
・授業前に配布する資料・レジュメを通読して授業にのぞむこと。
・２回の小レポートは宿題として課す。授業外学修として積極的な情報収集，分析等が求められる。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館中棟３階公共政策学研究室（３ M23）
TEL：088－656－7187
（メールアドレス）yas-kot@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）随時，電話やメール等で予約受付。
【備考】
各回の授業の中で取り上げる事例等は，社会状況や受講生のニーズを踏まえ，事前に説明したうえで変更する場合もある。

総合科学の基礎 G（経済学の基礎）

Foundations of integrated Sciences：G

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
内藤　徹

【授業の目的】
ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。
【授業の概要】
本講義では，消費者理論および生産者理論の議論を行った後，完全競争市場を前提とした市場均衡理論を解説します。後半ではこれらの知識をもとに不完全競争市場，市場の失敗，不確実性と情報の経済分析，ゲーム理論といったミクロ経済学の先端の話にも触れる予定です。
【キーワード】
ミクロ経済学，消費者理論，生産者理論，市場均衡，市場の失敗
【到達目標】
１．社会の一員として必要である経済の基本知識を習得する。
２．経済学を通じて地域社会に貢献できる人材の育成
【授業の計画】
第１回：ミクロ経済学で学ぶこと
第２回：需要の理論
第３回：消費者行動の理論：需要の理論の背景にあるもの
第４回：供給の理論
第５回：需要曲線と弾力性
第６回：市場の理論
第７回：中間テスト
第８回：需要と供給で解く経済問題
第９回：余剰分析で解く経済問題
第10回：市場の失敗⑴：外部性と公共財
第11回：市場の失敗⑵：情報の非対称性
第12回：市場の失敗⑶：独占
第13回：不確実性のもとでの選択行動
第14回：ミクロ経済学とその応用
第15回：定期試験
第16回：総括授業
【教科書】
基礎からわかるミクロ経済学／家森信善，小川光　著，中央経済社，2007，ISBN：9784502658709
【参考書】
コンパクトミクロ経済学／赤木博文　著，新世社，2008，ISBN：9784883841196
【教科書・参考書に関する補足情報】
基本的には教科書の内容に沿って解説します。徳島大学 LMS でレジュメ・講義スライドを公開します。
【成績評価方法・基準】
中間テスト（20％）期末テスト（80％）
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
この授業では経済理論の初歩を学びます。近代経済学は大きくミクロ経済学とマクロ経済学に分けることができますが，本講義ではそのうちの「ミクロ経済学」を学びます。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
（予習）
１．講義前にレジュメをダウンロードする。
２．予習動画が公開されている Section では予習動画閲覧し，講義で扱われる内容を把握する。
（復習）
１．講義終了後に公開される講義スライドを参照し，講義中に理解できなかった点や疑問点を確認する。
２．自己学習で解決できない場合は，担当教員に質問等を行い解決する。
【WEB ページ】
徳島大学 LMS（Moodle）
http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）非常勤講師室
（メールアドレス）contact@kpu.hustle.ne.jp
（オフィスアワー）講義終了後（当該教室）
【備考】
・本科目は，教員の免許状取得のための必修科目（教科に関する科目（中学校　社会及び高等学校　公民））です。
・講義は双方向授業を行うため，「クリッカー」を使用します。教室に入室時に TA からクリッカーの発信機を受け取り，講義中，送信指示があるので送信機を使用して送信してください。使用後は再び TA が回収しますのでもち帰らないようにして下さい。

総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）

Foundations of integrated Sciences：H

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
樋口　直人

【授業の目的】
高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して，社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が，どのようなしくみでなりたっているのか，それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけてもらうことを目標とする。

【授業の概要】
秩序と逸脱，環境，集団，階層と教育，権力と支配といったテーマに即して，自分の振る舞いやこれまでの歩みを振り返ってもらう。自分がいかに社会のなかで作られているか，自分と社会がいかにしてつながっているのかを，それぞれのトピックに即して解説していく。

【キーワード】
社会構造，役割，地位

【授業の計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：秩序と統制⑴：規範・監視・契約
第３回：秩序と統制⑵：互酬の連鎖としての社会
第４回：環境と社会⑴：合理性の悲劇
第５回：環境と社会⑵：社会的費用と社会的負担
第６回：主観と客観⑴：逸脱と犯罪
第７回：主観と客観⑵：主観と客観
第８回：主観と客観⑶真実とは何か：映画『羅生門』鑑賞と解説
第９回：支配と正統性⑴：社会と政治
第10回：支配と正統性⑵：ジェンダーと社会
第11回：教育と階層⑴：教育と選別
第12回：教育と階層⑵：進学と階層
第13回：集団と排除⑴：ネットワークと社会
第14回：集団と排除⑵：社会的包摂と社会的排除
第15回：近代と社会学

【教科書】
特になし

【参考書】
関連する書籍リストを初回に配布する。

【成績評価方法・基準】
詳しくはオリエンテーションの際に資料を配るが，授業中の課題が50％，レポート50％を基本とする。到達度で評価されたい場合には，そうした選択肢も用意する。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
活字をたくさん読んでください。それを社会学的に考える方法を講義で話します。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
１号館南棟１階，088－656－7200，higuchinaoto@yahoo.co.jp
（メールアドレス）higuchinaoto@yahoo.co.jp
（オフィスアワー）木曜日昼休み

総合科学の基礎Ｊ（情報社会と情報倫理）

Foundations of integrated Sciences：J

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期集中）
吉田　敦也

【授業の目的】
情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業の概要】
この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する。受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める。

【キーワード】
情報リテラシー

【到達目標】
現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。

【授業の計画】
第１回：１．情報化社会の到来　1.1 「情報」とは何か，1.2　コンピュータが動作する仕組み
第２回：1．3　ネットワークによる通信の仕組み，1.4 ［情報の価値］と［情報量］，［情報伝達］
第３回：1．5　情報化社会の到来，1.6　社会の情報化の進展と，文化・人間性の変化，レポート１
第４回：2．知的所有権とプライバシー　2.1　著作権
第５回：2．2　そのほかの知的所有権，2.3　プライバシー，レポート２
第６回：３．情報倫理　3.1　情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2　情報化社会における原則
第７回：３．３　情報倫理に必要な知識，3.4　情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート３
第８回：４．情報危機管理　4.1　情報危機管理がなぜ必要か，４．２　現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策
第９回：4.3　運用ポリシーと利用者の価値観
第10回：4.4　運用規約と管理組織，レポート４
第11回：4.5　不正アクセスとセキュリティ
第12回：5．ケーススタディ
第13回：5.1　発表と評価１
第14回：5.2　発表と評価２
第15回：5.3　発表と評価３
第16回：まとめ

【教科書】
教科書：辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【教科書・参考書に関する補足情報】
授業に関する資料等は電子媒体（PDF ファイル，電子書籍，Web サイトコンテンツ）で送信／共有する。

【成績評価方法・基準】
授業中に指示された課題，ケーススタディ等のインターネットを通じた提出状況，教室ならびにオンライン活動への参加度，最終課題への取り組み度合い，共同場面での貢献度，クラスメイトとの議論／交流などを総合して判定する。

【再試験の有無】
なし

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
クラスメイトと仲良くなり，コミュニケーションを十分にとり，情報交換に努める。その上で，「疑問をもつ」「自分で調べる（ネット検索含む）」「本を読む」などを基本にして，事前学習，事後学習することを奨める。

【WEB ページ】
http://ct.ias.tokushima-u.ac.jp/yclass
（受講者限定，学内からのみアクセス可）

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
吉田　敦也（総合科学部２号館地域連携プラザ２階 E202，
Tel：088－656－7897）
（メールアドレス）yoshida@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）メールで24時間対応する（yoshida@tokushima-u.ac.jp）

Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）

Academic English Ⅰ

２単位（選択必修Ⅱ）１年（前期）
吉田　文美，山田　仁子，田久保　浩

【授業の目的】
English for Global Purposes をテーマとして，日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で，高等学校で学んできた英語のルール（英文法・文型の基本など）と単語熟語力を再確認し，英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また，英語で「日本」を考え，理解し，既存の英語力で発信できるよう

にする。
【授業の概要】
日本文化及び日本時事を扱う読解用テキストに沿って，英語で書かれた文章を辞書なしで読み，英問英答等で理解をさらに深める。また，英語による音読を介して，英語の音声を確認する。リーディング，リスニング，スピーキング，プレゼンテーション等の演習を通して，日本の文化や社会に関して英語で表現するための情報発信型コミュニケーション能力を育成する。
【キーワード】
時事英語，英語の基本ルールの確認，リスニング，発音
【授業の計画】
第１回：ガイダンス（日本時事・文化で本当に知っていることとは）
第２回：日本の精神を発信する
第３回：日本の伝統文化を発信する
第４回：日本の食・住・娯楽を発信する
第５回：日本の観光名所を発信する
第６回：日本の政治を発信する
第７回：日本の産業を発信する
第８回：中間プレゼンテーション（日本文化について）
第９回：日本のサブカルチャーを発信する
第10回：日本の祝日を発信する
第11回：日本の気候を発信する
第12回：日本の未来を発信する
第13回：日本の家族問題を発信する
第14回：日本の変化・課題を発信する
第15回：中間プレゼンテーション（日本時事について）
第16回：期末試験
【教科書】
新・英語で語る日本事情／江口裕之，ダニエル・ドゥーマス：ジャパンタイムズ，2011，ISBN：9784789014267
英語で説明する日本の文化：これ一冊で！日本のことが何でも話せる／植田一三，上田敏子：語研，2009，ISBN：9784876151899
【参考書】
英語で発信する日本小事典　Encyclopedia of Japan【日英対訳】／IBC パブリッシング　編：IBC パブリッシング，2012，ISBN：4794601808
【教科書・参考書に関する補足情報】
⑴　高等学校で使用した学習用英和辞典に加えて，『リーダーズ英和辞典』（研究社）等の一般向け英和辞典および Longman Dictionary of Contemporary English,Macmillan English Dictionary, Cambridge Learner's Dictionary, Collins English Dictionary などの英語辞典の使用を勧める。紙媒体，電子辞書，オンライン辞典のいずれでも構わない。
⑵　高等学校で使用した文法書（『チャート式総合英語』『ヴィジョンクエスト総合英語』『総合英語 Forest』等）は，引き続き利用すること。新たに本格的な英文法書の入手を希望する場合（英語教員志望者等）は，『ロイヤル英文法』，『実践ロイヤル英文法』（ともに旺文社），『英文法解説』（金子書房），Michael Swan 著 Basic English Usage（Oxford University Press）のいずれかの購入を勧める。
【成績評価方法・基準】
20%　日本文化についてのプレゼンテーション　20%　日本時事についてのプレゼンテーション
20%　提出物（音読ノート，資料収集ログ等）　40%　期末試験
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
今年度は２クラスのみ開講する。各開講クラスの授業計画，使用教材，参考書等は，初回授業で示す。初回授業では，受講を希望するクラスの調査も行う。初回授業を欠席した場合は，希望するクラスに入れないことも起こりうるので，必ず出席すること。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
各クラスの初回授業で説明します。
【WEB ページ】
自習用に以下の WEB 教材の利用を勧める（履修登録，成績閲覧等に利用する大学の c アカウントとそのパスワードでアクセス可能である）。
『徳島大学　スーパー英語』：
https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/
徳島大学システムサービス一覧（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
吉田　文美：総合科学部１号館　北棟１階（1N10）
Tel：088－656－7124
田久保　浩：総合科学部１号館２F　2N12
Tel：088－656－7122
山田　仁子：総合科学部１号館　北棟１階（1N13）
Tel：088－656－7129
（メールアドレス）
吉田　文美：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp
田久保　浩：h.takubo@tokushima-u.ac.jp
山田　仁子：hitokoy @ yahoo.co.jp
メールを送る際には，件名に開講時間と授業題目（金曜１－２ AE１）と自分の名字を記入する事。
（オフィスアワー）
吉田　文美：毎週月曜　12：00～13：00　総合科学部１号館北棟１階　1N10
田久保　浩：毎週水曜日　12：00～14：20　総合科学部１号館２F　2N12
山田　仁子：木曜日　10：20～11：20　総合科学部１号館　北棟１階　1N13

Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）

Academic English Ⅱ

２単位（選択必修Ⅱ）１年（後期）
田久保　浩，中島　浩二，山内　暁彦

【授業の目的】
グローバル化が進む今の世界で要求される国際的なコミュニケーションの力，すなわち必要に応じて情報を集め，情報発信ができるための最低限の英語力の目安としては，海外の大学で英語で行われる授業でのレベルが基準になります。そこでこの授業では，そのレベルを達成するための一段階として，以下の目標を設定しています。⑴英語で行われる大学の授業で必要な英語の基礎技能を習得する。⑵英語の資料を読み，基本的なレベルの英語のレポートを書き，英語でプレゼンテーションができる。
【授業の概要】
大学レベルの英語で行われる授業活動に必要な，ライティング，リーディング，プレゼンテーションの３つの要素を集中的に訓練します。ライティングでは，自分の考えを論理的に提示する英文パラグラフの書き方を習得し，短いレポートにまとめる方法を学ぶ。リーディングでは，主題や論理構成を的確に把握し「必要な情報を得るためのリーディング」を習得。プレゼンテーションでは効果的な話し方やジェスチャー・論理的な構成・視覚にアピールする資料の作成と利用について，基礎訓練を行います。以上のアクティヴィティーについて，随時課題に取り組むことで，使いながら英語を身に着けてゆきます。
【キーワード】
ESL, Academic English, Reading, Writing, Presentation
【到達目標】
⑴　英語で行われる大学の授業で必要な英語の基礎技能を習得する。
⑵　英語の資料を読み，基本的なレベルの英語のレポートを書き，英語でプレゼンテーションができる。
【授業の計画】
第１回：イントロダクション・ガイダンス
第２回：パラグラフの構成
第３回：パラグラフ内の一貫性
第４回：英語レポート・論文の基本構成
第５回：パラグラフから論文へ
第６回：効果的な資料読解―二つのステップ
第７回：効果的な資料読解―辞書とパラフレーズ
第８回：要約を書く
第９回：論文・批評文を書く
第10回：プレゼンテーション―ボディー・ランゲージ
第11回：プレゼンテーション―自己紹介をする
第12回：プレゼンテーション―メモカードを作る
第13回：プレゼンテーション―Show and Tell

第14回：プレゼンテーション―人前の恐怖を克服する
第15回：プレゼンテーション―事実と見解とを区別して論じる
第16回：期末試験
【教科書】
Study Skills for College English 2nd Ed. ／慶應義塾大学経済学部英語部会：慶応義塾大学出版会，2011
【参考書】
英語のプレゼンテーション／田中真紀子：研究社，2014
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書，参考書，あるいは詳しい授業内容について，初回の授業で説明します。
【成績評価方法・基準】
20％　期末試験，30％　ライティング課題，20％　Rewriting 提出 15％　プレゼンテーション準備，15％　プレゼンテーション
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
国際教養コースへ進むことを考えている学生は１年次に履修することを強く推奨します。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
大学のオンラインプログラム「スーパー英語」や共通教育の英語科目と組み合わせて，総合的な英語力アップをめざしてください。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
田久保　浩：総合科学部１号館２Ｆ　2N12　TEL　088－656－7122
中島　浩二：（1S11，088－656－7151）
（メールアドレス）
田久保　浩：h.takubo@tokushima-u.ac.jp
中島　浩二：nakasima.kj@tokushima-u.ac.jp
【備考】
この授業は「中学校・英語」「高校・英語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（選択科目）に該当する。

Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）

Extensive Reading

２単位（選択必修Ⅱ）２年（前期・後期）
田久保　浩，吉田　文美，山内　暁彦，中島　浩二，山田　仁子，スティーヴンズ　メリディス

【授業の目的】
e- ラーニングを利用した，英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて，4000 語レベルまでの語彙力･速読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。
【授業の概要】
継続的自律英語学習で読解力，語彙，文法，聴解を総合的に高める。英語に頻繁に触れ，発展的な英語力を多読・語彙の学習習慣で身に着ける。e- ラーニングシステム「スーパー英語」を利用し，週３回の多読（ER）・語彙学習（VT）　課題を自律的に行う。ER と VT 課題は Placement テスト結果でレベルが決定し，月曜～火曜と金曜～土曜の ER 課題と水曜～木曜の VT 課題を期日までに行う。
【キーワード】
読解力，語彙，多読
【到達目標】
400 語レベル程度の語彙力・速読力を養成する。
【授業計画】
第１回：e-learning システムの登録・使用方法・Placement Quiz・課題紹介等
第２回：ER（Level １）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）速読練習
第３回：ER（Level １）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）ディクテーション
第４回：ER（Level １）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）単語力クイズ
第５回：ER（Level １）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）文法練習
第６回：ER（Level ２）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水 ～木）　長文理解
第７回：ER（Level ２）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水 ～木）　ディクテーション
第８回：ER（Level ２）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水 ～木）　速読練習
第９回：ER（Level ２）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水 ～木）　単語力クイズ
第10回：ER（Level ３）･VT（Intermediate 3000 Level，水～木）文法チェック
第11回：ER（Level ３）･VT（Intermediate 3000 Level，水～木）ディクテーション
第12回：ER（Level ３）･VT（Intermediate 3000 Level，水～木）長文理解
第13回：ER（Level ３）･VT（Intermediate 3000 Level，水～木）速読力チェック
第14回：ER（Level ４）・VT（Advanced 4000 Level，水～木）語彙力測定
第15回：ER（Level ４）・VT（Advanced 4000 Level，水～木）文法チェック
第16回：期末試験
【教科書】
徳島大学『スーパー英語』
https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/
徳島大学システムサービス一覧　（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能。自習用にも活用することを勧める。この他に使用するコンテンツは，授業中に指示をする。
【参考書】
多読術（ちくまプリマー新書）／松岡正剛：筑摩書房，2009，ISBN：978－4480688071
【成績評価方法・基準】
20％　期末試験　（語彙）20％　毎週の語彙課題
20％　毎週の多読課題 30％　ER の小レポート（×15）
10％　コース後の継続的自律英語学習プラン
【再試験の有無】
なし
【WEB ページ】
徳島大学『スーパー英語』
https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/
徳島大学システムサービス一覧（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能。自習用にも活用することを勧める。この他に使用するコンテンツは，授業中に指示をする。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
田久保　浩：総合科学部１号館２Ｆ　2N12
TEL　088－656－7122
山内　暁彦：総合科学部１号館北棟２階　2N10，
Tel：088－656－7132
スティーヴンズ　メリディス：2NO3，088－656－7133
吉田　文美：（1N10）　Tel：088－656－7124，
Email：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp
山田　仁子：（hitokoy@yahoo.co.jp）
メールを送る際には，件名に授業題目開講時間と自分の名字を記入する事。
中島　浩二：（1S11，088－656－7151）
（メールアドレス）
田久保　浩：h.takubo@tokushima-u.ac.jp
山内　暁彦：yamauchi.akihiko@tokushima-u.ac.jp
スティーヴンズ　メリディス：meredith@ias.tokushima-u.ac.jp
吉田　文美：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp
山田　仁子：hitokoy@yahoo.co.jp
中島　浩二：nakasima.kj@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
田久保　浩：毎週水曜日　12：00－14：20
山内　暁彦：金曜日　12：00 ～ 13：00
スティーヴンズ　メリディス：Fri　２：35 ～４：05
吉田　文美：毎週月曜　12：00 ～ 13：00　総合科学部１号館北棟１階　1N10
山田　仁子：木曜日 10：20 ～ 11：20
中島　浩二：１ st Semester：Mon　16：10－17：00 Office（1S11）

2nd Semester：Tue　16：10－17：00　Office（1S11）
【備考】
　この授業は「中学校・英語」「高校・英語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（選択科目）に該当する。
2016 年度は開講しない。

2．総合科学部
実践学習科目

ページ	配当学年		授　業　科　目	単位数等
121	①	必修	キャリアプラン入門	2　必修
121	①		課題発見ゼミナール	2　必修
126	②	選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
127	③		短期インターンシップ	2
128	②		総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
128	②		総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
129	②		総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2　８単位以上
129	②		総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2　必修
130	②		総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
130	②		総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論）(Foundations of Integrated Arts and Sciences:F（Multicultural Society))	2
131	②	選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
131	②		総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
132	②		総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
132	②		総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
133	②		総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2　２単位以上
133	②		総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2　必修
133	②		総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
134	②		総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
134	①		総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
計				14単位以上

キャリアプラン入門

Introduction to Career Planning

２単位（必修）１年（前期）
葭森　健介，　栗栖　聡，　平井　松午

【授業の目的】
大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境，および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職との関連で必要な素養，能力，行動力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業の概要】
今年度は以下の３点を主題とする。
① 大学生に求められる社会人基礎力，キャリアデザインについて講義を受けるとともに，自らのキャリアデザイン形成に役立つ Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法について理解する。
② 適性検査を受け，その結果をフィードバックされることで，大学での学びやキャリアデザインに必要な能力を理解する。
③ 大学生から社会人になるということ（社会的自立）について，外部講師等がそれぞれの立場から行う，企業・社会等において求められる人間像について講義を受け，エンプロイアビリティを高めるということの意義について理解を深める。受講者はそれらを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する。

上記①・②はキャリアデザインに関する一般的な事項であり，③は実際の現場における実例を踏まえた話題提供であるが，これらの内容を受けて最終回までにレポートが課せられる。なお，授業の振り返りや課題レポートの提出に際しては，Web 版キャリア学習ポートフォリオを利用する。

【キーワード】
大学，総合科学，地域社会，キャリアデザイン，ポートフォリオ，職業

【関連／科目】
『キャリアプラン［Career Planning］』，『短期インターンシップ［Short Term Internship］』

【到達目標】
大学の現実と課題を各自が理解し，大学における真摯な学び（広い教養と専門的力の養成）の重要性を自覚し，今後４年間の学習計画を立てることによって，卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。

【授業の計画】
第１回：授業の狙い（担当教員：葭森・栗栖）（４月 13 日）
第２回：適性検査の実施（４月 20 日）（担当教員：平井・葭森・栗栖）
第３回：巣立ちプログラムと Web ポートフォリオ（担当教員：平井）（４月 27 日）
第４回：総合系学部卒業のキャリアを活かすには（担当教員：葭森・内海）（５月 11 日）
第５回：高校と大学での学びの違い－高校の勉強と総合科学部での学び＜講師：中川尚＞（担当教員：葭森）（５月 18 日）
第６回：適性検査の結果返却とレポートの見方（担当教員：平井・葭森・栗栖）（５月 25 日）
第７回：求められる社会人基礎力（担当教員：畠）（６月１日）
第８回：地域の活性化を考える＜講師：田村耕一＞（担当教員：矢部）（６月８日）
第９回：社会人になるために（担当教員：山野）（６月 15 日）
第10回：ビジネスコミュニケーション（担当教員：山野）（６月 22 日）
第11回：マスコミの社会的役割＜講師：徳島新聞社記者＞（担当教員：饗場）（６月 29 日）
第12回：ブラック企業につかまらないために＜講師：徳島労働基準監督局職員＞（担当教員：上原）（７月６日）
第13回：公務員の仕事＜講師：徳島県職員＞（担当教員：石田）（７月 13 日）
第14回：次代の若者へ，仕事を創造すること＜講師：植田貴世子＞（担当教員：松嶋）（７月 20 日）
第15回：キャリアデザインを考える。＋アンケート（担当教員：平井・葭森・栗栖）（７月 27 日）
第16回：総括授業（試験）（担当教員：平井・葭森・栗栖）（８月３日）

【教科書・参考書に関する補足情報】
参考資料は授業中に配布する。

【成績評価方法・基準】
評価は討論の参加度合，授業の事前課題，レポート，試験により行う。出席状況については，授業時の点呼や Web 版ポートフォリオの授業コメント及びショートレポート（200 字程度）で確認する。

【再試験の有無】
再試験の必要な場合は掲示する。

【受講者へのメッセージ】
各講師の授業には全て参加し，レポートを提出すること。討論・発表への自発的参加が重要である。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。
（メールアドレス）
匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。
（オフィスアワー）
葭森健介　月曜日　14：30－15：30
平井松午　水曜日　11：50－12：50
栗栖　聡　水曜日　14：30－15：30
Getu

課題発見ゼミナール総論

Seminar on Approaches to Issues

（総論としての授業はありません。実際には，以下の各課題発見ゼミナールから選択して履修します）

（必修）１年（後期）
豊田　哲也

【授業の目的】
総合科学部が目指す教育の特色は，①幅広い視野に立って社会の課題を把握する理解力，②情報分析やコミュニケーションなど実践的な技能，③課題解決のため主体的に行動しようとする態度の３つを養うことにある。この授業では，こうした能力の基礎を形成することを目的に，プロジェクト型学習や課題解決型学習に取り組む。大学での学びに必要なスキルを習得するとともに，人間力の育成とコニュニケーション能力の向上を図る。１年次の学生が自律的・能動的な学修を促進するためのプログラム「SIH 道場」の一環として開講され，15 名までの少人数クラスで実施する。

【授業の概要】
課題の発見や解決のためには，単に既存の知識から正解を導き出すだけでなく，自律的に考えて問題点を提示する必要がある。また，他者との協働を通じ調査・考察した内容を発表する方法も習得すべきである。この授業はグループ学習を中心に進められ，プレゼンテーションなど汎用的技能の養成や，学修の振り返りなどアクティブラーニングの要素を取り入れた内容となっている。それぞれのクラスで取り上げるテーマは，担当教員の専門研究分野に近い場合もあれば，一般的なスキルを重視した内容の場合もある。また，クラスによっては，決められた授業時間外や休暇中に学外で体験学習をおこなうことがある。

【キーワード】
アクティブラーニング，プロジェクト型学習，コミュニケーション能力，協働力，プレゼンテーション

【到達目標】
クラスによって異なるが，以下のような技能・能力の育成を大きな目標とする。
１．コミュニケーション能力（協働力）　２．プレゼンテーション能力　３．レポート作成能力　４．文献調査・情報収集能力
各クラスの目標については，担当者ごとに示されたシラバスを参照すること。

【授業の計画】
クラスによって異なるが，以下の要素から複数のものの組み合わせとなる。
１．ディスカッション　２．プレゼンテーション　３．レポート作成　４．体験学習　５．講読　６．その他

【成績評価方法・基準】
出席の状況，授業への積極性，課題や発表の内容などから総合的に評価する。
【受講者へのメッセージ】
どのクラスに配属されるかは，「総合科学入門講座」の授業中に希望調査をおこない，抽選によって決定する。受講するクラスの担当教員は，副担任として学生生活全般の相談にも対応してくれる。ただし，どのクラスを受講するかは２年次以降のコース配属に影響しない。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生連絡先）総合科学部１号館南棟１階
（メールアドレス）toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
葭森　健介

【授業の目的】
大学の学びとは先生から与えられた課題をこなすことではなく，自分で課題を見つけ，それを解決するための方法を身につけることです。この授業は少人数クラスで，身近なところ（徳島）から課題を発見し，それを客観化して，分析，他人にアピールするという事について学ぶ事を目的とする授業です。目標は自己の感性磨きそれを客観的にプレゼンテーション出来るようにすることです。
【授業の概要】
何気なく見ている徳島の街から何かを発見し，その事を調べ発表しようという授業です。つまり，同じものを見ても注目するところは人によります。それを課題発見能力と言います。課題は課題のままでは意味をなしません。なぜそれが気になるのかを客観的に見て，色々調べてそこからその課題が多くの人に意味があることと訴えかけられたらそれがプランニングや研究という仕事につながって行きます。感性を客観化し人に訴えかけるという学問の基本を身近なところでトレーニングする授業です。
【キーワード】
課題発見　解決　徳島発見　実地調査　資料調査　プレゼンテーション
【関連／科目】
『キャリアプラン入門［Introduction to Career Planning］』
【到達目標】
自分で発見できたことを人にわかるように説明できるようになることを到達目標に定めます。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス
第２回：調査項目と方法についての打合せ
第３回：調査１　徳島新発見
第４回：調査２　徳島新発見＜続＞
第５回：初回調査報告
第６回：調査報告の検討　何をどこで調べるか？
第７回：文献資料等の調査
第８回：資料調査の報告
第９回：再調査１　新発見の価値を検討
第10回：再調査２
第11回：再調査結果の報告
第12回：再調査結果の検討
第13回：補足調査
第14回：最終報告　プレゼンテーション
第15回：報告の検討と討論
第16回：今後の課題の再確認
【教科書・参考書に関する補足情報】
特に指定はありませんが授業で指示します。
【成績評価方法・基準】
通常の授業の課題と発表，学期末のレポートで評価
【再試験の有無】
原則としてなし
【受講者へのメッセージ】
平常の授業での発表や，他の人の発表に対する討論への参加等も加味し，評価を行います。従って，授業には必ず出席し，発表や討論には積極的に参加して下さい。国際センターの日本事情の授業と連携し，時間割枠外で留学生と共同の調査や発表会を行うこともあるので注意して下さい。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
ゼミですので授業で出だされた事前課題をこなし，授業では十分な準備をして報告をすること。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
葭森健介（総合科学部１号館2N05　Tel：656－7156
E-mail：yoshimori@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
yoshimori@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月曜日：14：30～15：30

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
山口　裕之

【授業の目的】
① 一つのテーマについて関連する文献を検索する。
② 役割を分担して調査研究を行う。
③ 建設的なディスカッションを行い，合意形成を行う。
④ 説得力のある原稿を作成する。
⑤ 説得力のあるプレゼンテーションを行う。
⑥ 他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。
【授業の概要】
熊坂先生のクラスと合同で行う。一つのテーマについて，多方面から調査研究し，妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「文化摩擦にどう対応するべきか」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので，夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では，関連する内容を講義する。その後，小グループに分かれて調査研究を行い，学期末に発表会を行う。発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。
【キーワード】
文章表現力・共同研究・プレゼンテーション
【先行／科目】
『総合科学入門講座［Introduction to Integrated Arts and Sciences］』
【到達目標】
① 文章表現力を身につける。
② 共同して調査研究する力を身につける。
③ プレゼンテーションの技能を身につける。
【授業の計画】
６月24日　「課題発見ゼミナール」ガイダンス
７月１日　テーマの説明と課題図書の紹介・文献検索入門
第１回：講義「文化摩擦にどう対応するか」（熊坂）＋質疑応答
第２回：講義「そもそも「文化」とは何だろうか」（山口）＋質疑応答
第３回：講義のまとめとプレゼンテーションの評価基準
第４回～14回：共同研究
第15回：発表会
【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室／山口裕之：新曜社，2013
【参考書】
夏休み前のガイダンス，講義中に適宜提示する。
関連する文献を検索する技法を講義するので，自分たちで探すように。
【成績評価方法・基準】
グループワークへの積極的な参加・プレゼンテーションの出来栄えを中心に総合的に評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
「考えること」も一つの技術です。決まりや作法があります。自分の好きなことだけ自己流でやっていても決して「考える力」は身に付きません。この授業では正しく考えるための基礎的な技術

を伝授します。技術の習得には反復練習が必要です。苦労して得た技術だけが，他の人にはマネのしがたい「自分だけの財産」になります。がんばってください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
普段から本をたくさん読むこと。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館北棟１Ｆ　Tel　088－656－7615
（メールアドレス）
yamaguti@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
毎週火曜 10：30 ～ 11：30

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
熊坂　元大

【授業の目的】
①　一つのテーマについて関連する文献を検索する。
②　役割を分担して調査研究を行う。
③　建設的なディスカッションを行い，合意形成を行う。
④　説得力のあるプレゼンテーションを行う。
⑤　他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。
【授業の概要】
山口先生のクラスと合同で行う。一つのテーマについて，多方面から調査研究し，妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「文化摩擦にどう対応するべきか」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので，夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では，関連する内容を講義する。その後，小グループに分かれて調査研究を行い，学期末に発表会を行う。発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。
【キーワード】
文章表現力　共同研究　プレゼンテーション
【到達目標】
①　文章表現力を身につける。
②　共同して調査研究する力を身につける。
③　プレゼンテーションの技能を身につける。
【授業の計画】
６月24日　「課題発見ゼミナール」ガイダンス
７月１日　テーマの説明と課題図書の紹介・文献検索入門
第１回：講義「文化摩擦にどう対応するか」（熊坂）＋質疑応答
第２回：講義「そもそも「文化」とは何だろうか」（山口）＋質疑応答
第３回：講義のまとめとプレゼンテーションの評価基準
第４回～14回：共同研究
第15回：発表会
【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室：３つのステップ：コピペから正しい引用へ／山口裕之　著，新曜社，2013，ISBN：9784788513457
【教科書・参考書に関する補足情報】
夏休み前のガイダンス，講義中に適宜提示する。
関連する文献を検索する技法を講義するので，自分たちで探すように。
【成績評価方法・基準】
グループワークへの積極的な参加・プレゼンテーションの出来栄えを中心に総合的に評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
「考えること」と，それを「他者に伝えること」は，誰もが日常的に行っています。しかしそこに「論理的に」や「わかりやすく」といった修飾語をつけ加えると，誰もが簡単にできることではなくなります。この授業は，そのための技術の習得に向けた練習機会です。積極的に臨んでください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
日頃から新聞を読むなどして，社会の出来事についての情報を摂取し，その背景について考えること。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館1N11　Tel　088－656－7150
（メールアドレス）
kumasaka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
研究室にて随時。ただしメール等にて事前に相談すること。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
三浦　哉

【授業の目的】
本授業では，「健康づくり」，「競技力向上」をテーマに，地域での中高齢者の健康づくり支援，ジュニアアスリートの競技力向上支援の二つを通じて，指導する力，測定する力，分析する力などを養うことを目的とする。
【授業の概要】
中高齢者の身体機能の特性，中高校生の競技力の現状を理解し，それに対する運動／トレーニングの効果，身体機能の測定方法・分析方法を習得し，実際にフィールドで測定評価，データ分析を行う。さらに，得られた結果を基に課題解決策を模索する。
【キーワード】
健康，スポーツ，身体機能，測定評価
【到達目標】
１　健康に関連した身体の機能・構造について理解する
２　身体機能を適切な手法で測定・評価できる
３　データを基に課題解決策の提案を思考できる
【授業の計画】
第１回：ガイダンス
第２回：「健康」，「体力」，「スポーツ」について
第３回：中高齢者の健康づくり事業の紹介
第４回：ジュニアアスリート支援事業の紹介
第５回：中高齢者向け体力測定Ｉ
第６回：中高齢者向け体力評価方法
第７回：体脂肪の測定評価方法
第８回：筋力・筋出力の測定評価方法
第９回：ハイパワーの測定評価方法
第10回：ミドルパワーの測定評価方法
第11回：ローパワーの測定評価方法
第12回：中高齢者の体力測定の実践
第13回：ジュニアアスリートの身体機能測定の実践
第14回：データ解析
第15回：課題対策
第16回：総括
【教科書・参考書に関する補足情報】
資料等は随時配布
【成績評価方法・基準】
授業への取り組み姿勢（50%），プレゼンテーション（30%），レポート（20%）で総合評価する。
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
本授業が学外実習を含むため，通常の開講時間外で実施する場合があります。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
三浦　哉　2M17　応用生理学研究室　088－656－7288
hajime-m@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
hajime-m@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
木曜日　11：50 ～ 12：50　応用生理学研究室

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
佐藤　裕

【授業の目的】
本ゼミナールの目的は，視聴覚障がい・言語障がいに関する社会的課題を身の回りから発見し，その解決策を提案することを通して，自らの意見や考えを他者に伝える能力を養い，適切なプレゼンテーション技法を身につけることである。
【授業の概要】
視聴覚障がい･言語障がいをテーマとした講義の後，実地調査･文献調査をグループごとに実施し，調査結果を発表し，議論する。
【キーワード】
視聴覚障がい　言語障がい　調査　プレゼンテーション
【到達目標】
１　障がいに関する社会的課題を見つけ出すことができる
２　自らの意見・考えを正しく文章化する能力を身につける
３　プレゼンテーション能力を習得する
【授業の計画】
第１回：ガイダンス
第２～３回：視聴覚障がいと社会
第４～６回：文献調査（文献の検索，収集，読解，まとめ方）
第７～８回：文献調査報告　（レジュメのまとめ方，発表）
第９～11回：実地調査（学校外における調査）
第12～13回：実地調査発表準備（プレゼンテーションの仕方）
第14～15回：実地調査発表
第16回：まとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
授業の中で紹介する
【成績評価方法・基準】
授業での発言，討論への参加，プレゼンテーションの成果から総合的に評価する
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
普段あたりまえに使っている視覚や聴覚，言語について深く考え，調査する授業です。視覚・聴覚・言語を積極的に使用して下さい。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
行實　鉄平

【授業の目的】
本授業では，地元プロスポーツチーム（徳島ヴォルティス）の運営体験活動や観戦者調査を通して学生の主体的に考える力の育成をめざし，具体的には，表現力・企画力・協働力・実践力・スポーツ社会機能の理解力といった，いわゆる，ジェネリックスキル（汎用的技能）を養うことを目的としている。
【授業の概要】
本授業は，まず，担当教員やプロスポーツチームスタッフ等より，徳島のプロスポーツチームの歴史やホームタウン活動（地域貢献活動）について紹介する。次に，学生には，プロスポーツ組織が目指す理念や目的を理解してもらった上で，実際の試合運営（競技場内外での多様な活動）や，観戦者調査（顧客ニーズ調査）を体験してもらう。さらに，各体験学習後は，プロスポーツ組織を活用したスポーツの楽しみ方を広げる運営・企画について議論し，その内容をプレゼンテーションすることで上記に示した授業の目的・目標の達成を目指していく。
【キーワード】
スポーツ　体験学習活動　グループワーク　プレゼンテーション
【到達目標】
・自分の意見（感じた事や考えたこと）を自分の言葉で表現できる
・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる
・スポーツの社会的機能（役割）について理解することができる
【授業の計画】
第１回：オリエンテーション（徳島のプロスポーツ組織について）
第２回：プロスポーツチームの歴史とホームタウン活動（地域貢献活動）について
第３回：プロスポーツチームの接客対応について
第４回：プロスポーツチームの運営体験１（入場口案内活動）
第５回：プロスポーツチームの運営体験２（エコステーション活動）
第６回：プロスポーツチームの運営体験３（フェイスペイント活動）
第７回：プロスポーツチームの運営体験４（ボールパーク活動）
第８回：スポーツ科学領野の研究調査の方法について
第９回：プロスポーツチームの観戦者調査体験１（アンケート調査項目の検討）
第10回：プロスポーツチームの観戦者調査体験２（アンケート調査分析枠組みの検討）
第11回：プロスポーツチームの観戦者調査体験３（アンケート調査票の作成）
第12回：プロスポーツチームの観戦者調査体験４（アンケート調査の実施）
第13回：プロスポーツチームの運営活動企画１（アイデア創出グループワーク）
第14回：プロスポーツチームの運営活動企画２（プレゼン作成グループワーク）
第15回：企画内容のプレゼンテーション
第16回：総括
【教科書】
適宜資料を配布します
【成績評価方法・基準】
本授業は「授業への取り組み:50%」「コミュニケーションペーパー：20%」「プレゼンテーション：30%」の３つの視点で総合評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
本授業は学外活動を含みます。学外活動は，休日または週末の活動となります。活動場所までは各自で移動となる場合があります。大学チームのＴシャツを購入してもらいます。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
SIH 道場のｅコンテンツを活用した自主学習を適宜指示します。
【WEB ページ】
徳島ヴォルティス HP：http://www.vortis.jp/
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
１号館中棟2M10　スポーツ経営学研究室　088－656－7286
（メールアドレス）yukizane@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）月曜午後

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
眞弓　浩三

【授業の目的】
統計的データの解釈確率論に基づいて考察できる能力を身に着けるという課題に取り組む。
【授業の概要】
授業の計画を参照すること。
【キーワード】
確率論　統計データ　次元　階層理論
【到達目標】
統計的データの解釈確率論に基づいて考察できる能力を身に着ける。
【授業の計画】
第１回：サンプルバイアスについて
第２回：確率論の基礎とベルトランドの考察

第３回：平均とは何か？
第４回：算術平均とミディアム，モード
第５回：データに隠された背景
第６回：宣伝に利用されるデータの信ぴょう性
第７回：次元の問題
第８回：一次近似の諸問題
第９回：対数関数による近似
第10回：ワイアシュトラスの多項式近似の関する諸問題
第11回：グラフによる表示の問題点
第12回：隠された次元の解釈
第13回：統計データの恣意的操作
第14回：回帰分析の基礎
第15回：回帰分析と確率変数
第16回：まとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
特になし。
【成績評価方法・基準】
試験はしないが，各回の講義内容について理解しているか質問や発表を通じて個別に評価する。
【再試験の有無】
再試験などは行わない。
【受講者へのメッセージ】
論理的な思考を身に着け，演繹できるように頭を鍛えよう。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（メールアドレス）
mayumi.kozo@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
特に指定はしない。あらかじめメールで連絡するようにしてください。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
上原　克之

【授業の目的】
本授業では，基本的人権に関する裁判例を素材として，今後の授業を履修するうえで基礎となる，資料を読み解く力，論理的思考力，報告・討論する力，論理的文章を書く力等を養うことを目的とします。
【授業の概要】
はじめの２～５回目は，ウォーム・アップとして裁判例に関係ないテーマで自由に討論していきます。６回目以降，報告者をきめ，報告者はテキストを読んで裁判例に関するレジュメを作成して報告します。報告者以外の参加者は事前にテキストを読んだうえで報告内容について討論・検討していきます。後日，報告者は，報告及び討論・検討内容についてレポートを提出します。都合がつけば，裁判の傍聴なども行いたいと思います。
【キーワード】
基本的人権
自由
自己決定権
【到達目標】
１　論理的思考力の養成
２　報告・討論する力の養成
３　論理的文章を書く能力の養成
【授業の計画】
第１回：ガイダンス
第２～５回：自由テーマ討論
第６回：髪型の自由
第７回：バイクに乗る自由
第８回：再婚の自由
第９回：プライバシー権
第10回：歴史的文化的環境権
第11回：取材の自由
第12回：アクセス権
第13回：自己情報開示請求権
第14回：平等権
第15回：生存権
第16回：総括授業ないし裁判の傍聴（未定）
【教科書】
基本的人権の事件簿　憲法の世界へ（第５版）／棟居快行他：有斐閣，2015，ISBN：9784641281356
【成績評価方法・基準】
各課題毎に課すレポート（80％）と出席や授業への取組みなどの平常点（20％）により評価します。
【再試験の有無】
再試験は実施しません
【受講者へのメッセージ】
しっかり予習をして，授業中は積極的に発言するようにしてください。
新聞等を読んで（ネットだけではだめ），社会の中で起こっていることに関心をもってください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
テキストを読んでテキストに書かれているポイントをまとめる。
根拠を明らかにしたうえで自分の考えを明確にする。
疑問に思った点を図書資料，インターネットを活用して調べる。
授業中，他の人の意見をメモしておく。他の人に対する自分の意見も考える。
授業で討論して，教員の説明を聞いてもわからない点をさらに自分で調べてみる。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
行政法研究室（総合科学部１号館中棟３階３Ｍ18）
Tel：088－656－7173
（メールアドレス）
uehara@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
水曜日 12：00－12：50
行政法研究室（総合科学部１号館中棟３階３Ｍ18）

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
吉田　敦也

【授業の目的】
地域の未来設計，社会イノベーションの基礎的事項を実践体験的に学ぶ。その過程を通じて，問題発見と課題解決の力，シビックプライド，市民参加の意識を高め，身につける。地域の持続に貢献するヤングクリエーターの発掘と育成にも取り組む。
【授業の概要】
徳島大学フュチャーセンターを使い，デザイン思考による「未来設計」の考え方，コミュニティデザイン，プロトタイピング，地域協働の基礎を学ぶ。実践テーマとして，米国オレゴン州ポートランドのまちづくりをモデルにした「徳島大学ファーマーズマーケット」をデザインし，社会実験してみる。一連の過程を通じて，問題発見力や課題解決力の基礎となる対話する力，地頭力，コミュニティへの意識･誇りを高め，自分事として「やってみる」態度形成，地域創生学習への動機付け，ヤングクリエーター資質への気づきを促す。
【キーワード】
フュチャーセンター，地域の持続，未来設計，社会イノベーション，デザイン思考，対話，協働，観察，分析，地頭力，問題発見，共感，アクション，ICT リテラシー，コミュニティデザイン，サステイナビリティ，プロトタイピング，社会実験，市民参加，シビックプライド，米国オレゴン州ポートランド，ファーマーズマーケット，プロジェクトマネジメント，ヤングクリエーター。
【到達目標】
・デザイン思考による「未来設計」の理念，知識，手法の基本を理解し，地域応用する基礎力の形成
・米国オレゴン州ポートランドの街づくりモデルについて調査，分析，地域応用する基礎力の形成
・徳大ファーマーズマーケットのデザイン，プロトタイピング，社会実験を実践する基礎力の形成
・持続する地域の形成の土台となるシビックプライドの意識，共感して「やってみる」態度の形成

・自らの中に潜む問題発見と課題解決の素地，ヤングクリエーターとしての資質への気づきの支援

【授業の計画】

第１回：フューチャーセンターへようこそ
第２回：未来設計の考え方，スペーステクノロジー
第３回：ダイアログ（対話）文化と「場」への接近
第４回：社会イノベーションとデザイン思考について
第５回：ポートランドのまちづくりとファーマーズマーケット
第６回：徳島大学ファーマーズマーケットのデザインと実践に向けて
第７回：目的達成のチーム形成，情報共有，グループワークの準備
第８回：ネット活用のための環境整備と情報リテラシー
第９回：問題発見と課題解決へのアプローチ
第10回：コミュニティデザインの視点と我が町探索
第11回：ブレインストーミング，共感，マッピング
第12回：問題提起，アイデア創出，「自分事」づくり
第13回：プロトタイピング，物語りの共有，テスト
第14回：地域協働，キャンパスでの社会実験
第15回：ハーベストとインパクト分析
第16回：報告書作成と成果発表

【教科書・参考書に関する補足情報】

授業に関する資料等は電子媒体（PDF ファイル，電子書籍，Web サイトコンテンツ）で送信／共有する。

【成績評価方法・基準】

授業中に指示された課題等への対処，インターネットを通じた提出状況，教室ならびにオンライン活動への参加度，最終課題への取り組み度合い，共同場面での貢献度，クラスメイトとの議論／協働／交流，報告書作成への寄与などを総合して判定する。

【再試験の有無】

無し

【受講者へのメッセージ】

スマートメディアによるネットワーク型の授業や演習を行う。そのため，メール，ブログ，ツイッター，facebook などを利用／演習する。地域連携の協働作業にも参加する。まち，村，中山間地域などへ出かけていき，地域の住民や高齢者などと交流する場合がある。汗を流し，ガハハと笑って，楽しく学習する。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

クラスメイトと仲良くなり，コミュニケーションを十分にとり，情報交換に努める。その上で，「共感する」「疑問をもつ」「調べる（ネット検索含む）」「観察する」「本を読む」「分析する」「考察する」などを基本にして，事前学習，事後学習することを奨める。

【WEB ページ】

http://ct.ias.tokushima-u.ac.jp/yclass（受講者限定，学内からのみアクセス可）

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
吉田　敦也（総合科学部２号館地域連携プラザ２階 E202，Tel：088－656－7897）
（メールアドレス）
yoshida@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
メールで24 時間対応する（yoshida@tokushima-u.ac.jp）

【備考】

作業等の関係から授業の進行はシラバスに記載の順番と一致しない場合がある。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）１年（後期）
衣川　仁

【授業の目的】

〈大学で学ぶための力〉を高めることを目的とします。学ぶための力とは，具体的には読むこと，書くこと，調べること，考えること，意見を述べること，意見を聞くこと，批判すること…など，数多くあります。それらについて，自分で必要だと自覚したうえで，大学での学びに向きあえるようになることを目指します。

【授業の概要】

読むこと，書くこと…など多様な事柄を身につけるために，様々な素材を使って様々な問題を考える予定です。その際，全体を通した大きなテーマとして「歴史」を設定しておきます。あらゆるモノ・コト・ヒトに歴史がありますが，それぞれの歴史（過去）は，普通は目の前には無いため，普段の生活でそれを意識することもほとんどないことが多いでしょう。ですが，歴史を踏まえて見直してみると，今までとはちょっと違って物事が見えてくることもあります。〈歴史（過去）を知ったくらいで見方が変わるか〉という考え方もあろうかと思います。変わるかどうかも含めて，いろいろと考えてみましょう。

【キーワード】

歴史

【到達目標】

日本語の論理的な文章を読み，書き，理解すること。
自ら考える姿勢を身につけること。
そのために何をやるべきか，自覚できるようになること。

【授業の計画】

第１回：ガイダンス・自己紹介
第２回：グループ報告１・テーマ設定
第３回：グループ報告２・調査
第４回：グループ報告３・発表
第５回：映画をみる１
第６回：映画をみる２
第７回：小説を読む
第８回：小説を読む
第９回：個人報告１・テーマ設定
第10回：個人報告２・調査
第11回：個人報告３・発表
第12回：グループ報告４・テーマ設定
第13回：グループ報告５・調査
第14回：グループ報告６・調査
第15回：グループ報告７・発表
第16回：総括授業・まとめ

【教科書】

なし。適宜配布する。

【参考書】

なし。

【教科書・参考書に関する補足情報】

適宜配布します。

【成績評価方法・基準】

授業中の課題・発表，授業への取り組み，出席，レポートなどを総合的に評価します。

【再試験の有無】

無

【受講者へのメッセージ】

授業計画はあくまで大まかな予定であり，受講者の意向によって変わる場合もあります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

何でもいいので，図書館で歴史関係の本を借りて読んでみましょう。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
１号館北棟２階（2N02）　088－656－7153
（メールアドレス）kinugawa@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）月曜日 10：30 ～ 12：00

キャリアプラン

Career Planning

２単位（選択必修Ⅰ）２年（後期）
畠　一樹

【授業の目的】

受動的な思考・行動により，自分の「ありたい姿」の認識があいまいとなり，社会に適応するために必要とする能力や素養の養成が鈍化することで，入社後の就職ミスマッチなど様々な問題が顕在化している。

本授業を通して，キャリア形成に関する知識を理解するだけでなく，自らが課外活動を通して自分のありたい姿を実現するため

の行動計画を立てるとともに，授業終了後もセルフマネジメントができるように下地づくりを行う。

【授業の概要】

1）時代の変遷を知り，現代社会にどのような課題があるのかを考えるとともに，将来，どのような人生を送るのかを自分の内面に問いかけながら気づきを積み上げ，自己理解を深める。
2）自分のありたい姿を実現するために，より具体的かつ長期的に将来ビジョンを描き，現状との比較により，自己の課題設定を行う。
3）学生生活において課題の解決に取り組むための行動計画を立てるとともにセルフマネジメントの方法について学ぶ。

※授業のスタイルとして，随時，質疑応答，グループワーク，ディスカッションなどアクティブラーニングの要素を取り入れる。また，web 版キャリア学習ポートフォリオを利用して，毎授業後に気づきなどを授業コメントを通じて作成するとともに，第7，12回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

【キーワード】

思考，自己理解，行動計画，セルフマネジメント，求められる人材

【関連／科目】

『キャリアプラン入門［Introduction to Career Planning］』，『短期インターンシップ［Short Term Internship］』，『短期インターンシップ［Short Term Internship］』

【到達目標】

1）自己理解を深め，将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。
2）将来ビジョンと現状の差異（課題）を把握し，その解決に取り組むための行動計画が策定でき，具体的な行動を始めることができる。
3）行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。

【授業の計画】

第１回：ガイダンス
第２回：社会背景と課題を考える
第３回：求められる人材
第４回：思考力を養う
第５回：感性・精神性を養う
第６回：自分のあり方を考える
第７回：自己理解・自己啓発
第８回：事例を学ぶ⑴
第９回：事例を学ぶ⑵
第10回：課題・到達目標の設定
第11回：実行機会・手段の設定
第12回：課題解決力を考える
第13回：人間関係の形成
第14回：行動計画の完成
第15回：総括授業，進路情報，アンケート

【教科書】

適宜資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【教科書・参考書に関する補足情報】

キャリア関係の情報（就職，インターンシップなど）は，キャリア支援室（共通教育４号館１F）にて閲覧することが出来ます。また，キャリアカウンセラーへの相談も可能です。

【成績評価方法・基準】

到達目標の達成度を，キャリア学習ポートフォリオ（学習記録）の授業コメントおよびレポートコメントにより評価する。
各コメント評価の合計（100点満点）が60点以上を合格とする。

【受講者へのメッセージ】

1）原則としてすべての講義に出席し，授業コメントおよびレポートコメントの提出は期限厳守のこと。
2）キャリア学習ポートフォリオを継続的に利用することでキャリア形成に必要な情報を蓄積すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

本講義を知識として理解するだけではなく，課外活動において主体的に行動し，試行錯誤を繰り返すことで，知識の知恵化に取り組んでください。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
建設棟３Ｆキャリア教育推進室 088－656－9320
（メールアドレス）
hata.kazuki@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業開講時間帯以外で随時（AM. 10：00－ PM. 5：00）
建設棟３Ｆキャリア教育推進室

【備考】

1）受講希望者が定員を超える場合は受講者調整を行いますので，指定の期日までに必ず履修登録を済ませておいて下さい。登録されていない場合は，受講できないことがあります。
2）副教材を予定しています。自己負担額については2200円以下となります。確定した金額については，履修手続き時および第１回講義（ガイダンス）で周知します。

短期インターンシップ

Short Term Internship

２単位（選択必修Ⅰ）３年（通年）
森本　恵美

【授業の目的】

学生が，在学中に企業や団体の実務の現場で，仕事を通して自己実現を図り，職業観・人生観の育成を行い，自らの専門能力向上にもつなげられること。インターンシップの意義とは，①自主性・独創性のある人材育成②理論の実践による学習効果の向上③企業が求める人材要件の明確化がある。学生にとっての意義は，「社会人として働くということはどのような事なのかを知る」「自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択するための経験」「今後の学生生活の目標を明確にする」「就職希望である業種の実情を知りたい」「社会経験を通じて自分に足りない能力を見つける」などがあげられる。

【授業の概要】

①インターンシップとは，企業・行政機関・公益法人・団体等における実習・研修的な就業体験を通じて，自らの将来計画におけるキャリア・デザインについて考える授業である。②前半の事前学習では，学外研修の準備としてのコミュニケーション・マナー，守秘義務等法律知識等を修得する。特にエントリーシートの書き方，企業が何を見ているかについて，グループディスカッション等を通じて学ぶ。③後半では，７月～９月の間に，各自５日間の学外研修を受ける。④社会の一員としてのマナーや責任感や厳しさを体験することにより，自己啓発の機会を得る。

【キーワード】

事前学習，学外研修，インターンシップ，ビジネス・マナー，キャリア・デザイン

【到達目標】

①事前学習により，社会人として必要なマナーとビジネス・コミュニケーションを理解し，社会人，職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに，課題解決に努め，これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。

【授業の計画】

第１回：オリエンテーション・就職活動・大学生活におけるインターンシップの位置づけ
第２回：事前学習：企業の調べ方・企業情報を探す
第３回：事前学習：エントリーシートの作成⑴自己分析，自己 PR とは
第４回：事前学習：エントリーシートの作成⑵エントリーシートの組み立て
第５回：事前学習：エントリーシートの作成⑶志望動機を考える
第６回：事前学習：グループ討議の基本
第７回：事前学習：グループ討議：インターンシップの目標設定
第８回：事前学習：グループ討議：他者評価・相互評価
第９回：事前学習：ビジネスマナー，インターンシップの心構え
第10回：学外研修：⑴研修，日誌（授業コメント）作成
第11回：学外研修：⑵研修，日誌（授業コメント）作成
第12回：学外研修：⑶研修，日誌（授業コメント）作成
第13回：学外研修：⑷研修，日誌（授業コメント）作成
第14回：学外研修：⑸研修，日誌（授業コメント）作成
第15回：学外研修：⑹講評とまとめ（報告書）

【教科書】

就活まとめるノート①「企業研究・インターンシップ・事前調査」／坂本直文　著，学研教育出版，2014，ISBN :9784054060982

【教科書・参考書に関する補足情報】
就職四季報 2017 年度版（東洋経済社）
会社四季報（東洋経済社），web ページの活用方法は講義中に説明する。
【成績評価方法・基準】
事前学習（1～9回）で出席を2／3未満の場合は成績評価の対象外とする。学外研修先の評価も参考とする。
5日間以上のインターンシップの実施は必須である。合計（100点満点）が60点以上を合格とする。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
創成学習開発センター3階，088－656－7619，memi@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
memi@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
木　13：00－16：30
【備考】
キャンパス教育支援システムの「ポートフォリオ」には，インターンシップの情報が数多く掲載されている。大学経由のインターンシップ情報は，就職支援サイトなどに掲載されない優良企業や専門性の高い研修が数多い。各自確認すること。
インターンシップに参加する際には，何を学びたいのか，何を中心課題とするのかなどの具体的な視点や課題をもって臨むこと。また，「知っている」「わかる」から「できる」姿勢で臨む。一例として「あいさつ」がある。つまり，物事に取り組む際の主体性の発揮とコミュニケーション力（発信力・傾聴力）の強化を図ること。さらに，課題発見・発想力強化に役立つことができるようにする。「短期インターンシップ」を通じて，得たいものは何か，思い浮かんだ言葉やキーワードを文字でマッピングしてみる。安易な取り組みに成果は期待できない。就職したい企業，希望の職種，必要な能力は何か。インターンシップは，それを探る機会となる。

総合科学実践講義 A（グローバル文化論）

Issues in integrated Sciences A

2単位（選択必修Ⅰ）2年（前期）
依岡　隆児，田島　俊郎，ヘルベルト　ヴォルフガング，新田　元規

【授業の目的】
世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること。
【授業の概要】
従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする。日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員が今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の3セクションに分けて，それぞれのセクションに各人1回程度講義を提供する。その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく。概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる。「自文化と異文化」「文学（レトリック，物語・民間伝承など）」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばれることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる。
【キーワード】
比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容
【到達目標】
1．国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること。
【授業の計画】
第1回：ガイダンス（1回目），導入「比較文化」とはなにか？
第2～6回：セクション1「未知の世界に触れる」（2回目から6回目まで）：「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する。好奇心の大切さ，比較という方法について述べる。個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「宗教の比較」「犯罪」「自文化／他文化」「日本の中の異文化」など
第7～11回：セクション2「違いを楽しむ」（7回目から11回目まで）　多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する。個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「オリエンタリズム」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など
第12～16回：セクション3「つながりを見つける」（12回目から16回目まで）　文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ることを提示する。個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「ジャポニスム」「カフェ・サロン～文化交流の場」など
【教科書】
必要に応じてプリントなどを配布する。
【参考書】
各教員から授業の中で課題図書が示される。
【成績評価方法・基準】
期末レポートと平常点。期末レポートは4人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの。平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う。
【再試験の有無】
無
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
授業で紹介された文献などは，読んでおくことがのぞましい。
【WEB ページ】
http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2014.html
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
いずれも1号館北棟
新田元規　2N04　088－656－7161
田島俊郎　2N08　088－656－7144
ヘルベルト　ヴォルフガング　1N06　088－656－7145
依岡隆児　2N21　088－656－7143
（メールアドレス）
新田　元規：arata.motonori@tokushima-u.ac.jp
田島　俊郎：tajima@ias.tokushima-u.ac.jp
ヘルベルト　ヴォルフガング：wolf@ias.tokushima-u.ac.jp
依岡　隆児：yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
新田　元規：水曜日10：00～13：00　2N04
田島　俊郎：木曜日12：00～13：00　2N08
ヘルベルト　ヴォルフガング：月曜日　16：15～17：30　1N06
依岡　隆児：火曜日12：00～12：50　2N21

総合科学実践講義 B（心身健康論）

Issues in integrated Sciences B

2単位（選択必修Ⅰ）2年（前期）
山本　真由美，境　泉洋，福森　崇貴，佐藤　充宏，山口　鉄生

【授業の目的】
健康問題は時代を反映する。その時代の病める部分が個人にも社会にも健康問題として表れてくる。本講義では，現代社会において問題とされている心身健康に関する一連のテーマを扱い，その原理や対処法の学習を通じて心身健康問題の本質を理解することを目的とする。
【授業の概要】
現代社会における心身健康に関連する諸問題をスポーツ社会学，心理学，医学の面から概説し，自らの問題として考えてもらう。講義形式で進める。
【キーワード】
心，身体，健康，環境，医療，福祉
【到達目標】
1．心身の健康に関する基礎知識（医学的知識を含む）を身につける。
2．医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。
3．地域社会で活躍する能力の育成：それらの問題に対してどの

ような対応がなされているかを知る。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス（山本真由美）
第２回：虐待と反応性愛着障害のメカニズム（山本真由美）
第３回：虐待と反応性愛着障害への社会的対応（山本真由美）
第４回：不登校（境）
第５回：ひきこもり（境）
第６回：認知行動療法（境）
第７回：ストレスとは（福森）
第８回：ストレスへの対処（福森）
第９回：心－身－社会のつながり（福森）
第10回：障がい者の心と身体のスティグマ（佐藤）
第11回：障がい者スポーツと障害受容（佐藤）
第12回：障がい者スポーツによるユニバーサル・デザイン（佐藤）
第13回：生活習慣病（山口）
第14回：運動器障害（山口）
第15回：リハビリテーションと社会復帰（山口）
第16回：総括（全員）
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書は使用しない。適宜，資料を配付する。視聴覚機器などを利用する。
【成績評価方法・基準】
必要に応じて，講義の中で紹介する。
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
授業の目的を理解し，積極的に各テーマに関わってください。
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
山本真由美：3S06，TEL：088－656－7192,
E-mail：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
佐藤　充宏：１号棟２階2M11（スポーツ社会学研究室）
TEL　088－656－7207
福森　崇貴：3S08
境　　泉洋：総合科学部３号館３階3Ｓ03 研究室，Tel：088－656－7191，E-mail：sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp

総合科学実践講義 C（日本社会経済論）

Issues in integrated Sciences C

２単位（選択必修Ⅰ）２年（前期）
玉　真之介，水島　多喜男，松嶋　一成

【授業の目的】
私たちの暮らす日本の経済と社会について，様々な角度から取り上げて，その特徴と現状，そして将来についての理解を深めることを目標とする。とりわけ，グローバル化が進む現在の世界経済との関連について学ぶ。
【授業の概要】
日本経済の戦後史を踏まえたうえで，日本的な特徴を示す企業経営の在り方や雇用慣行，さらにグローバル経済化とその影響などについて講義を行うとともに，具体的なデータや出来事に関する情報を提供し，それをもとにグループに分かれてグループディスカッションを行うなどして実践的に学ぶ。
【キーワード】
日本の経済・社会　グローバリゼーション　少子高齢化　日本型経営
【到達目標】
日本経済社会に関する知識・理解　日本語の論理的文章を理解する力　コミュニケーション力
【授業の計画】
第１回：日本の経済と社会（イントロダクション）
第２回：戦後の日本経済社会（１．概説）
第３回：戦後の日本経済社会（２．高度経済成長と大衆消費社会）
第４回：戦後の日本経済社会（３．オイルショックからバブル経済へ）
第５回：戦後の日本経済社会（４．長期低迷の時代）
第６回：戦後の日本経済社会（５．リーマンショックからアベノミクスへ）
第７回：日本の企業
第８回：日本型経営とは
第９回：日本型雇用慣行
第10回：成果主義の功罪
第11回：増加する非正規雇用
第12回：男女共同参画社会
第13回：日本企業の海外移転
第14回：日本の貿易収支と経常収支
第15回：グローバル経済と日本経済社会
第16回：期末試験
【成績評価方法・基準】
平常点，中間テスト，期末テストを総合して評価する。
【再試験の有無】
無し
【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
玉　真之介：１号館３Ｆ　3M06 号室　088－656－7178
水島多喜男：(3M09，088－656－7188,
mizushima.takio@tokushima-u.ac.jp)
松嶋　一成：総合科学部１号館３階3M15 号室
（メールアドレス）
玉　真之介：tama@ias.tokushima-u.ac.jp
水島多喜男：mizushima.takio@tokushima-u.ac.jp
松嶋　一成：kmatsu@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業の前及び授業終了後

総合科学実践講義 D（メディアアート論）

Issues in integrated Sciences D

２単位（選択必修Ⅰ）２年（前期）
河原崎　貴光，平木　美鶴，石田　基広，
吉田　敦也，掛井　秀一，佐原　理

【授業の目的】
メディアと芸術を用いた地域活性化の例を紹介しつつ，実制作に役立つ知識を身につける。
【授業の概要】
メディア，アート，地域をキーワードとしたオムニバス形式の講義。メディアに関する表現や地域との関わりを重視した表現と共に，メディアとアートを用いた地域活性化の事例や技術的側面も紹介する。授業中に小レポートを課すこともある。
【キーワード】
芸術・地域・メディア
【到達目標】
メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス
第２回：佐原担当「デザイン思考－イノベーションの方法論」
第３回：佐原担当「プロトタイピングと実践」
第４回：吉田担当「フューチャーセンターで未来をデザインする」
第５回：吉田担当「フューチャーセンターの世界の事例」
第６回：平木担当「アートによる街作りについて（全国での取り組みについて）」
第７回：平木担当「LED 作品による街作りについて（徳島大学の取り組みについて）」
第８回：掛井担当「Processing による動的表現」
第９回：掛井担当「Processing によるインタラクション」
第10回：河原崎担当「インスタレーションとパブリックアートについて」
第11回：河原崎担当「インターネットとメディアアートについて」
第12回：石田担当「オープンデータと地域政策」
第13回：石田担当「地方のためのオープンデータ活用法」
第14回：まとめ
第15回：まとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
特になし
【成績評価方法・基準】
出席とレポート

【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
実践への応用を前提とした講義の為，能動的な参加を心がけること。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
アートフェスティバルや地域活性化事業について調べておくこと。

総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）

Issues in integrated Sciences E

２単位（選択必修Ｉ）２年（前期）
内藤　直樹，岸江　信介，塚本　章宏，平井　松午，
高橋　晋一，豊田　哲也，上野　加代子，矢部　拓也，
樋口　直人，田口　太郎，土屋　敦，中村　豊，桑原　恵，
衣川　仁

【授業の目的】
この授業の目的は，身近な地域社会で埋もれた現実の再発見を通じて，一般的な講義と実践的な授業の橋渡しをすることにある。地域社会に目を凝らせば，いにしえの町並み，先人の思索，野生動物との共生，紛争の痕跡，国際化する高齢者福祉，災害の傷跡などが見えない形で埋もれている。担当教員の専門に即して，そうした不可視の現実を掘り起こして紹介し，それを学問的に跡付けることを通じて見えないものを見る力を養うことを目標とする。
【授業の概要】
担当者の専門は，歴史学，考古学，地理学，地域計画・政策，人類学，社会学と多岐にわたる。したがって，年度ごとの担当者により基礎となる学問的背景は異なるが，地域社会に埋もれていたものを再発見するというモチーフで統一している。授業は，埋もれていた課題の提示，それを学問的に捉える方法の講義，受講者による具体的な課題の探索，その成果の報告といった形で授業を進めていく。
【キーワード】
地域社会，地域創生，まちづくり，郷土史
【到達目標】
受講生が自ら地域社会の課題を選定し，それに即して自ら問題設定と資料集めをしてレポートを書けるようにする。それを通じて地域づくり（地域創生）に対する意欲と関心を高めることが，到達目標となる。
【授業の計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：地域社会の課題の提示とその意味の解説
第３回：それを学問的に捉えるための理論や方法論の解説
第４回：受講者による課題の選択
第５回：４をレポートにするための必要な資料収集の方法を，具体的な素材に即して解説
第６回：受講者による報告と講評
第７回：まとめ
【教科書】
指定しない。必要な文献表は授業中に配布する。
【参考書】
授業中に適宜紹介する。
【教科書・参考書に関する補足情報】
授業ごとのテーマに応じた資料を，適宜紹介します。
また，講師の方々は，彼ら自身が生きた教材です。積極的に質問をしたり，時には彼らの活動に参加するなどして実践的な知識を身につけてください。
【成績評価方法・基準】
毎回の取り組みと最終レポートで評価する。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
授業中に紹介された事例の中で関心があるものについて，自分で掘り進める。あるいは自分の目で見るために，講師の先生にお願いするなどして活動に参加することはとても良いことだと思います。
【連絡先（Ｅメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
内藤　直樹：総合科学部一号館1S20，088－656－7141
（メールアドレス）
naito.naoki@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
内藤　直樹：毎週水曜日 PM ０：00－ PM ０：50
総合科学部１号館１階南棟
その他，メールにて事前連絡があれば随時対応する。
【備考】
講師の方のご都合などで，講師や日程の変更があり得ます。

総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論）

Foundations of Integrated Arts and Sciences:F
(Multicultural Society)

２単位（選択必修Ｉ）２年（前期）
SCHIEDGES OLAF，スタージ　ドナルド

【授業の目的】
This course increases student awareness of historical and contemporary issues in various regions through examining current media reports.
【授業の概要】
Students taking this course use English in settings that vary from casual conversation to the style of presentations common in academic conferences or business meetings. Students also gain experience in choosing topics and materials used during classes. Note taking exercises provide practice in selecting and summarizing essential details of presentations made by native and non-native speakers of English. A wide variety of topics are discussed in class and many of those topics are chosen by students.
【キーワード】
Current media，comparative culture
【到達目標】
Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor.
【授業の計画】
第１回：Course Outline
第２回：Focus on North America： Discussion of Selected Media Resources
第３回：Focus on North America： Discussion of Selected Media Resources
第４回：Class Presentations
第５回：Class Presentations
第６回：Focus on Europe： Discussion of Selected Media Resources
第７回：Focus on Europe： Discussion of Selected Media Resources
第８回：Mid Term Exam
第９回：Focus on Asia： Discussion of Selected Media Resources
第10回：Focus on Asia： Discussion of Selected Media Resources
第11回：Class Presentations
第12回：Focus on Africa： Discussion of Selected Media Resources
第13回：Focus on Africa： Discussion of Selected Media Resources
第14回：Class Presentations
第15～16回：Final Examination /Course Evaluation
［Note：This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.］
【成績評価方法・基準】
Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30%(3×10%), Examinations=20% (2 × 10%), Participation=50%.
【連絡先（Ｅメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
Bldg. 1，2N13
（メールアドレス）
dws@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
Wednesday　16：30－17：30

総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）

Integrated Science Project A

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
村上　敬一，田久保　浩

【授業の目的】
地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り，そこに可能な日本語による支援を考え，実践する。
日本語による支援の実践を通じて，多文化共生，異文化に対する理解を深める。

【授業の概要】
日本国内に15万人超，海外には400万人を超える日本語学習者が存在する。私たちの身近にも，留学生，社会人，子どもたちと，さまざまな背景を持つ日本語学習者が増加の傾向にある。
この授業では，徳島大学の留学生の日本語，徳島県内，日本国内外の日本語学習者について，日本語学習の支援を必要とする人たちの現状を知り，そこにどのような支援ができるか考え，実践する。

【キーワード】
日本語支援　日本語教育　多文化共生　異文化理解

【先行／科目】
『総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）［Foundations of integrated Sciences：A］』

【関連／科目】
『応用日本語学概説［Introduction to Applied Japanese Linguistics］』，『日本語教材研究［Theory, Resources, and Practice in Japanese Education］』

【授業の計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：徳島大学における日本語教育の現状　その１
第３回：徳島大学における日本語教育の現状　その２
第４回：留学生との日本語交流　その１
第５回：留学生との日本語交流　その２
第６回：地域の日本語教育の現状（日本語寺子屋　その１）
第７回：地域の日本語教育の現状（日本語寺子屋　その２）
第８回：地域の日本語教育の現状（日本語寺子屋　その３）
第９回：地域の日本語教育の現状（日本語寺子屋　その４）
第10回：日本語を必要とする子どもたちとの日本語交流　その１
第11回：日本語を必要とする子どもたちとの日本語交流　その２
第12回：日本語教育機関見学（JTM とくしま　日本語ネットワーク　その１）
第14回：日本語教育機関見学（JTM とくしま　日本語ネットワーク　その２）
第15回：機関見学の意見交換会
第16回：総括授業

【教科書・参考書に関する補足情報】
必要な資料，情報は，適宜授業の中で紹介します。

【成績評価方法・基準】
概ね以下の点から（　　）内の割合で評価します。
授業への参加度（40%）
徳島大学の留学生に対する日本語支援のレポート（30%）
地域の日本語学習者に対する日本語支援のレポート（30%）

【再試験の有無】
再試験，再評価は行なわない。

【受講者へのメッセージ】
日本語に軸足を置いた国際交流に関心のある人を歓迎します。学外での交流も多いので，日本語教育に興味があり，真剣に授業参加できる人の受講を期待します。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
日本語による交流を活発に行ないますので，以下の点に留意してください。

【予習】
交流授業の準備を入念に行なうこと。

【復習】
交流授業の様子を詳しく記録し，異文化理解，多文化共生に生かすこと。

【WEB ページ】
JTM とくしま日本語ネットワーク
http://homepage2.nifty.com/jtmtoku/
国際交流基金関西国際センター　http://www.jfkc.jp/

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
村上　敬一：南棟１階28号室　TEL　088－656－7117
田久保　浩：総合科学部１号館２Ｆ　2N12
TEL　088－656－7122
（メールアドレス）
村上　敬一：murakami.kei@tokushima-u.ac.jp
田久保　浩：h.takubo@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
村上　敬一：毎週火曜日　16：20－17：30
田久保　浩：毎週水曜日　12：00－14：20

総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）

Integrated Science Project B

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
吉岡　宏祐，宮崎　隆義

【授業の目的】
この授業の目的は，グローバリゼーションが進展する現代の世界において，多様な文化・信条・背景を持った人々との相互理解を深めるために，本学部で実施するサマースクールプログラムに参加する海外からの留学生に用意されるさまざまなプログラムの運営に協力することである。実際に多様な留学生と交流することで，実践的な語学運用能力を高めると共に，多様性を尊重しながらさまざまな文化の違い，考え方の違いを認識し，同時に自国の言葉や文化の理解を相互比較の観点から深めることを目的とする。

【授業の概要】
本プロジェクトでは，サマースクールプログラムに参加して協力するために，そのプログラムの円滑な実施を行うべく，受け入れのための準備やプログラムの立案と具体化の実施体制，ディスカッションやグループワーク，インタビューなど，サマースクールプログラムの運営と進行に合わせて実践的に展開する。

【キーワード】
サマースクールプログラム，海外留学生，異文化の理解，語学の実践的運用，交流企画の立案と実施運営

【到達目標】
サマースクールプログラムに参加することで，実践的な語学運用能力を高め，同時に国際交流プログラムの運営と実施によって，マネージメント，コーディネート，リーダーシップの能力を身に付ける。

【授業の計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：サマースクールプログラムについての理解と実施計画立案
第３回：予備調査と準備
第４回：プログラム実施と運営に向けた準備
第５回：プログラムの実施と運営
第６回：プログラムについての分析と評価
第７回：実施プログラムについての総括作業
第８回：最終的なサマースクールプログラムの総括についての発表と相互講評

【教科書】
指定しない。必要な資料等は授業中に配布する。

【参考書】
参考となる文献については適宜紹介する。

【成績評価方法・基準】
毎回の取り組み状況と最終総括発表により評価する。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
サマースクールプログラムに参加することで，実際に異文化の世界に触れながら企画運営を経験してみてください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
対象となる留学生の出身国やその地域の歴史や文化等を把握しておくこと。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】
（メールアドレス）
yoshioka.koyu@tokushima-u.ac.jp

miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp
【備考】
本年度開講せず

総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）

Integrated Science Project C

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
佐藤　充宏，行實　鉄平

【授業の目的】
本授業では，地元プロスポーツチーム（徳島ヴォルティス）の運営体験活動や観戦者調査を通して学生の「前に踏み出す力」，「考え抜く力」，「チームで働く力」といった，いわゆる，ジェネリックスキル（汎用的技能）を養うことを目的としている。
【授業の概要】
本授業は，まず，担当教員やプロスポーツチームスタッフ等より，徳島のプロスポーツチームの歴史やホームタウン活動（地域貢献活動）について紹介する。次に，学生には，プロスポーツ組織が目指す理念や目的を理解してもらった上で，実際の試合運営（スタジアム内外での多様な活動）や，観戦者調査（顧客ニーズ調査）を体験してもらう。さらに，各体験学習後は，プロスポーツ組織を活用したスポーツの楽しみ方を広げる運営・企画について議論し，その内容をプレゼンテーションすることで上記目標を目指していく。
【キーワード】
スポーツ　体験学習活動　グループワーク　プレゼンテーション
【到達目標】
・自分の意見（感じた事や考えたこと）を自分の言葉で表現できる
・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる
・スポーツの社会的機能（役割）について理解することができる
【授業の計画】
第１回：オリエンテーション（徳島のプロスポーツ組織について）
第２回：プロスポーツチームの歴史とホームタウン活動（地域貢献活動）について
第３回：プロスポーツチームの接客対応について
第４回：プロスポーツチームの運営体験１（入場口案内活動）
第５回：プロスポーツチームの運営体験２（エコステーション活動）
第６回：プロスポーツチームの運営体験３（フェイスペイント活動）
第７回：プロスポーツチームの運営体験４（ボールパーク活動）
第８回：スポーツ科学領野の研究調査の方法について
第９回：プロスポーツチームの観戦者調査体験１（アンケート調査項目の検討）
第10回：プロスポーツチームの観戦者調査体験２（アンケート調査分析枠組みの検討）
第11回：プロスポーツチームの観戦者調査体験３（アンケート調査票の作成）
第12回：プロスポーツチームの観戦者調査体験４（アンケート調査の実施）
第13回：プロスポーツチームの運営活動企画１（アイデア創出グループワーク）
第14回：プロスポーツチームの運営活動企画２（プレゼン作成グループワーク）
第15回：企画内容のプレゼンテーション
第16回：総括
【教科書・参考書に関する補足情報】
適宜資料を配布します
【成績評価方法・基準】
本授業は「授業への取り組み:50%」「リフレクションペーパー:20%」「プレゼンテーション：30%」の３つの視点で総合評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
本授業は学外活動を含みます。学外活動は，休日または週末の活動となります。活動場所までは各自で移動となる場合があります。大学チームのＴシャツを購入してもらいます。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
SIH 道場のｅコンテンツを活用した自主学習を適宜指示します。
【連絡先（Ｅメールアドレス，オフィスアワー）】
（オフィスアワー）授業の前後で実施します。

総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）

Integrated Science Project D

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
上岡　義典，山本　真由美，内海　千種，境　泉洋，福森　崇貴

【授業の目的】
近年の我が国においては，「不登校」「虐待」「ひきこもり」「被災」「疾患」など，さまざまな家族・地域・社会的な問題が生じている。本講では，この「心と身体の健康」に影響を及ぼすと考えられる諸問題について取り上げ，その実情について知る。特に心理学的諸問題への対応方法について触れ，地域の健康社会づくりを実践するための基礎的知見を修得する。
【授業の概要】
「学齢期にある子ども」における心身健康問題を取り上げ講義し，彼らの「心を支える」ことを中心テーマに議論を行う。「教育」「福祉」「医療」などの分野における心理学的援助の実際について，学生によるプレゼンテーションを実施し，実践のための知見を深める。
【キーワード】
発達，虐待，ひきこもり，災害，疾患
【到達目標】
１．地域における「心と身体の健康問題」を知る。
２．地域における健康社会づくりを実践していくための基礎的知見を修得する。
３．地域における心理学的支援実際について知る。
【授業の計画】
第１回：ガイダンス（全員）
第２回：発達期別心理的特徴（山本）
第３回：発達期別発達課題（山本）
第４回：発達期別問題への対応（山本）
第５回：社会的養護と心理職（上岡）
第６回：児童虐待（上岡）
第７回：不適切な養育を受けた子どもへの心理学的アプローチ（上岡）
第８回：若者自立支援（境）
第９回：家族支援（境）
第10回：災害が子どもの心身に及ぼす影響（内海）
第11回：子ども支援における基本的な態度（内海）
第12回：災害後の子どもの心理的支援について（内海）
第13回：小児がん患児および家族が抱きやすい心理社会的問題（福森）
第14回：小児がん患児および家族への心理社会的支援（福森）
第15回：試験
第16回：総括
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書は使用しない。適宜，資料を配付する。
参考書については，必要に応じて講義の中で紹介する。
【成績評価方法・基準】
受講や議論への参加態度，プレゼンテーションの内容，試験結果を総合的に評価する。
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
授業計画にある「心と身体の健康問題」について，関連情報を意識しながら日常生活を送っていただきたい。
【連絡先（Ｅメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
上岡　義典：総合科学部３号館　南棟３階　3S01 研究室
境　　泉洋：総合科学部３号館３階3S03 研究室，
Tel：088－656－7191，E-mail：sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp）

福森　崇貴：3S08
内海　千種：総合科学部３号館南棟３階（3S07）
山本真由美：3S06，TEL：088－656－7192,
E-mail：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
上岡　義典：ueoka@tokushima-u.ac.jp
境　　泉洋：sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp
福森　崇貴：t.fukumori@tokushima-u.ac.jp
内海　千種：uchiumi@tokushima-u.ac.jp
山本真由美：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
上岡　義典：火曜日：12：00～13：00（出張等により，不在の場合もあります）
境　　泉洋：前期：木曜12時～14時，後期：水曜12時～14時
出張等によって急遽不在の事があります。その際は，メール等で問い合わせてください。
山本真由美：在室時はいつでも可。

総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）

Integrated Science Project E

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期集中）
饗場　和彦，王　冷然

【授業の目的】
国際交流，国際協力をめぐる意義や課題を座学と現場体験を通して学び，自らも積極的に関わる意欲を醸成するとともに，行動力，積極性，コミュニケーション，対人関係，マナーなどの社会的な基礎力もつける。
【授業の概要】
授業では国際交流・国際協力を現場で実践している専門家から具体的な話を聞きつつ，実際にその現場に赴き活動や作業の一端を体験する。体験学習を日帰りで３回ほど実施する。土日を当てるが，具体的な日時や場所は授業中に指示する。これまでは，パプア・ニュー・ギニアから来ている研修生に徳島市内を案内したり，香川県内の公益社団法人でカンボジア支援の活動に参加したり，愛媛県松山市にある朝鮮学校の訪問などを行っている。なお，少人数形式の授業であるため，受講者の上限をおよそ20人とする。また，体験学習の際の交通費や入館料などの経費は大学側で負担する。
【キーワード】
国際，交流，協力，実践，グローバル
【到達目標】
１　国際交流，国際協力について基本的な知識を得る。
２　広い視野，国際的な視野を持つ。
３　行動力・積極性を身につける。
４　社会性・対人関係力を身につける。
【授業の計画】
第１回：イントロダクション・基礎講座
第２回：異文化交流
第３回：徳島における国際交流
第４回：世界の貧困をめぐる実際と支援　その１
第５回：世界の貧困をめぐる実際と支援　その２
第６回：世界の紛争をめぐる実際と支援　その１
第７回：世界の紛争をめぐる実際と支援　その２
第８回：国際連合による支援と課題
第９回：民間企業による支援と課題
第10回：国際協力機構（JICA）による支援と課題
第11回：ワークショップ・討論　その１
第12回：ワークショップ・討論　その２
第13回：現場体験　その１
第14回：現場体験　その２
第15回：現場体験　その３
第16回：総括と補足
【教科書】
なし
【参考書】
授業中，適宜指示，配布する。
【成績評価方法・基準】
期末レポート（およそ50％）と平常点（およそ50％）。平常点の要素は授業の出席と，現場体験，ワークショップ，討論での取り組み方など。
【再試験の有無】
再試験は行わない。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
体験学習の前に、各自、情報収集や英語表現の確認を行い、また終了後に、発見した知見、疑問についてそれぞれ調査、考察する。
【連絡先（Ｅメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
国際政治学研究室（総合科学部１号館中棟３階），656－7186。
（メールアドレス）
aibak@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月曜日12：30～16：00，国際政治学研究室（総合科学部１号館中棟３階）で。この時間以外でも研究室に在室の際はいつでも可。
【備考】
重要：この授業の受講生は，原則として共通教育の授業「国際協力論－この貧困と紛争の尽きない世界で－」（後期、火曜９･10講時）を平行して受講，あるいは傍聴することを条件とします。どうしても難しい場合は，教員に相談してください。

総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）

Integrated Science Project F

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期集中）
石田　和之，小田切　康彦

【授業の目的】
私たちが暮らす地域社会には，経済の発展，環境保全，防災対策等，実に多くの課題が存在しており，そうした諸課題を解決するための地域政策が求められている。本授業では，地域政策の企画立案等に実践的に取り組むことを体験することによって，公共政策的視点から課題解決策を提示する技術を習得する。
【授業の概要】
少人数のグループに分かれて，地域（徳島）が抱える課題を解決するための方法（アイデア）をまとめ，その成果を政策担当者に提案（プレゼン）する。
【キーワード】
地域の課題，公共政策，政策提案，グループワーク，プレゼンテーション
【到達目標】
１．地域の課題を発見できる
２．課題を解決するための政策をつくることができる
３．政策を提案（プレゼンテーション）できる
【授業の計画】
第１回：イントロダクション
第２～３回：地域の現状と課題
第４～６回：課題を発見する
第７回：課題の報告
第８～15回：課題解決策の検討
第16回：プレゼンテーション
【成績評価方法・基準】
授業への積極的な参加40％，プレゼンテーション内容60％

総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）

Integrated Science Project G

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
平木　美鶴，河原崎　貴光，石田　基広，
吉田　敦也，掛井　秀一，佐原　理

【授業の目的】
芸術をキーワードにして私達の住む地域を活性化するための方法を模索し作品制作することを通して実践力を身につける。
【授業の概要】
アートを使った地域活性化事業について理解し，地域に相応しいアート作品やワークショップを考え制作をする。この授業は大

学院生との合同授業で，プロジェクト研究Ｉを履修している院性の発想した作品を基にして再検討し制作する。これまでの例としては，センサーを使った参加型LED作品の制作や絵本をアニメーションにした映像作品等の制作展示をした。

【キーワード】

芸術・情報・地域

【到達目標】

地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。

【授業の計画】

第１回：地域活性化事業について
第２回：アートを使った地域活性化事業について
第３回：美術を使った地域活性化を発想し意見交換
第４回：美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担
第５回：共同作業による作品制作（説明）
第６回：共同作業による作品制作（制作１）
第７回：共同作業による作品制作（制作２）
第８回：共同作業による作品制作（制作３）
第９回：共同作業による作品制作（制作４）
第10回：共同作業による作品制作（制作調整）
第11回：地域住民との共同作業による作品制作（制作完成）
第12回：作品の設置作業
第13回：作品の保守管理及び説明ガイド１
第14回：作品の保守管理及び説明ガイド２
第15回：テスト
第16回：制作の振返り及び反省

【参考書】

菜の花里美発見展記録集／北川フラム：現代企画社
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2000／北川フラム：現代企画社

【成績評価方法・基準】

地域活性化事業を理解した積極的な参加とレポートを評価する。

【再試験の有無】

なし

【受講者へのメッセージ】

実践的な活動が多いため休日やその他の時間に授業を開く事もある。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
２号館東棟２階，部屋番号E203　TEL・FAX　088－656－7167
（メールアドレス）hiraki.mitsuru@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
毎週火曜日　11：50～12：50　２号館東棟２階，部屋番号E203
絵画表現研究室

総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）

Integrated Science Project H

２単位（選択必修Ⅱ）２年（後期）
岸江　信介，塚本　章宏，平井　松午，高橋　晋一，
豊田　哲也，上野　加代子，矢部　拓也，樋口　直人，
田口　太郎，土屋　敦，中村　豊，桑原　恵，衣川　仁，
内藤　直樹

【授業の目的】

この授業の目的は，地域社会で生じていることがらに関する実地調査を通じて，文献で読んだことを実社会の中で発見する能力を養成し，実践力を高めることにある。特に，学外で素材を集める作業をおこなうことにより，自ら問題や資料を発見して研究を進める基礎力を養うようにする。

【授業の概要】

担当者の専門は，歴史学，考古学，方言学，地理学，地域計画・政策，人類学，社会学と多岐にわたる。また，研究で扱う素材も古文書，地図，統計データ，フィールドワークと異なるが，学外で研究素材を収集する点では共通している。授業では，それに必要な知識の習得，実地での素材収集，その加工や分析，それをもとにしたレポート執筆を行う。

【キーワード】

地域社会，地域創生，まちづくり，郷土史，発掘，巡検，参与観察，調査

【到達目標】

実地調査の基礎を学ぶことを通じて，自ら研究に必要な素材を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。

【授業の計画】

第１回：オリエンテーション
第２回：授業で収集する素材についての解説
第３回：予備調査(1)
第４回：予備調査(2)
第５回：本調査に向けた準備
第６回：本調査
第７回：データの解読，分析(1)
第８回：データの解読，分析(2)
第９回：レポート執筆に向けた発表(1)
第10回：レポート執筆に向けた発表(2)
第11回：レポート執筆に向けた発表(3)
第12回：レポート執筆に向けた発表(4)
第13回：レポート執筆(1)
第14回：レポート執筆(2)
第15回：最終レポートの発表と講評
第16回：総括

【教科書・参考書に関する補足情報】

指定しない。必要な文献表は授業中に配布する。

【成績評価方法・基準】

毎回の取り組みと最終レポートで評価する。

【再試験の有無】

無

総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）

Integrated Science Project J

４単位（選択必修Ⅱ）１年（通年集中）
田久保　浩，上野　加代子，スタージ　ドナルド，村上　敬一

【授業の目的】

グローバル化が進む今の社会においては，多くの社会的ないし経済的課題は，従来のように国内的視点からでは解決できません。自らの国際的な経験にもとづいて，世界的な視野をもって対処してゆかねばなりません。世界を自分の目で見て，認識するため，あるいは，キャリアにつながる経験をするため，語学習得や異文化間のコミュニケーションにチャレンジする体験のため，また，それにより自分の専攻分野での勉強をより深める機会を提供するため，「実践プロジェクトJ」においては，さまざまな海外研修プログラムを用意しています。ここで得た語学学習の成果や，さまざまな国際経験を学生各自の専攻テーマやゼミでの学びに生かしてください。

【授業の概要】

目的とする海外経験によって，(1)語学習得，(2)海外文化研修，フィールドワーク，(3)海外キャリア経験等に分けられます。自分の目的や関心に応じて，次の海外研修プログラムから参加を希望するものを選んでください。夏季に実施されるプログラムは４月に説明会を開催し，５月に申し込みを行います。春季に実施されるプログラムは10月に説明会があり，11月に申し込みが行われます。説明会等の案内に注意してください。

１．モナッシュ大学語学研修（夏・春，４週間，４単位）
２．南イリノイ大語学研修（夏，４週間，４単位）
３．慶北大学校韓国文化研修プログラム（夏，２週間，２単位）
４．ガジャマダ大サマープログラム（夏，２週間，２単位）
５．復旦大学中国語中国文化体験（春，４週間，４単位）
６．台湾育達科技大学研修（春，２週間，２単位，村上敬一先生引率）
７．ラトヴィア大学，ラトヴィア農業大学文化研修（春，２週間，２単位，スタージ先生引率）
８．オークランド大学英語研修（春，４週間，４単位）
９．国際プロフェッショナル養成プログラム in　カリフォルニア（夏，４週間，４単位）
10．オーストラリア，ウェスト・レイクショア・スクール日本語教育インターンシップ　（夏～秋，10週間，４単位）

【キーワード】

留学，インターンシップ，異文化，コミュニケーション，国際経験

【到達目標】

・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。

・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能，情報発信能力，マネジメント・コーディネート能力を有し，地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。

【授業の計画】

今年度実施のプログラム

（プログラム名，実施国，都市，実施期間，宿泊形態，参加費用目安，プログラム内容）

1．モナッシュ大学語学研修，オーストラリア，メルボルン，3月上旬～下旬，ホームステイ，約40万円，英語研修，環境保護体験，研修

2．南イリノイ大語学研修，アメリカ，イリノイ州，カーボンデール，8月中旬～9月中旬，寮，約50万円，英語研修，小ツアー

3．慶北大学校夏季プログラム，韓国，大邱市，8月上旬～中旬，寮，約15万円，韓国文化研修，体験

4．ガジャマダ大サマープログラム，インドネシア，ジョグジャカルタ，7月下旬～8月上旬，約25万円，社会･文化研修，インターンシップ，ワークショップ

5．復旦大学中国語中国文化体験（夏季・春季），中国，上海，8月上旬～8月下旬，2月下旬～3月下旬，寮，約25万円，中国語，中国文化体験学習

6．台湾育達科技大学研修，台湾，新竹市，3月中旬，寮，約10万円，文化交流体験，村上敬一先生引率

7．ラトヴィア大学，ラトヴィア農業大学文化研修，ライトヴィア，リガ，イエルガワ，寮，30万円，文化交流実践，スタージ先生引率

8．オークランド大学英語研修，ニュージーランド，オークランド，3月上旬～下旬，ホームステイ，約43万円，英語研修

9．国際プロフェッショナル養成プログラム　in　カリフォルニア，アメリカ，カリフォルニア州，シリコンバレー周辺，宿泊施設，約43万円，キャリア研修，インターンシップ

10．オーストラリア，ウェスト・レイクショア・スクール日本語教育インターンシップ，オーストラリア，アデレード，7月下旬～9月下旬，ホームステイ，約50万円，小学校での日本語授業の補助（日本語教育法関係授業の履修が必要）

【成績評価方法・基準】

海外研修の全期間に参加し，研修前の事前説明会，事前学習，研修後の発表会，レポートを提出した場合，合格と認定される。認定される単位数は個別の海外プログラムごとに定められる。

【受講者へのメッセージ】

実際に世界に出て自分の目で見て，体験する経験は他には代用ができません。大学時代の国際交流経験は将来に向けての貴重な財産になります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

プログラムの開催される国や地域について，関心をもって各自調べて，知っておくようにしてください。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）

総合科学部１号館２Ｆ　2N12　TEL　088－656－7122

（メールアドレス）h.takubo@tokushima-u.ac.jp

【備考】

国際教養コースの学生は，「総合科学実践プロジェクトＪ」より少なくとも２単位，できれば４単位を修得することを推奨します。

V. そ　の　他

コース担当教員一覧表

社会総合科学科

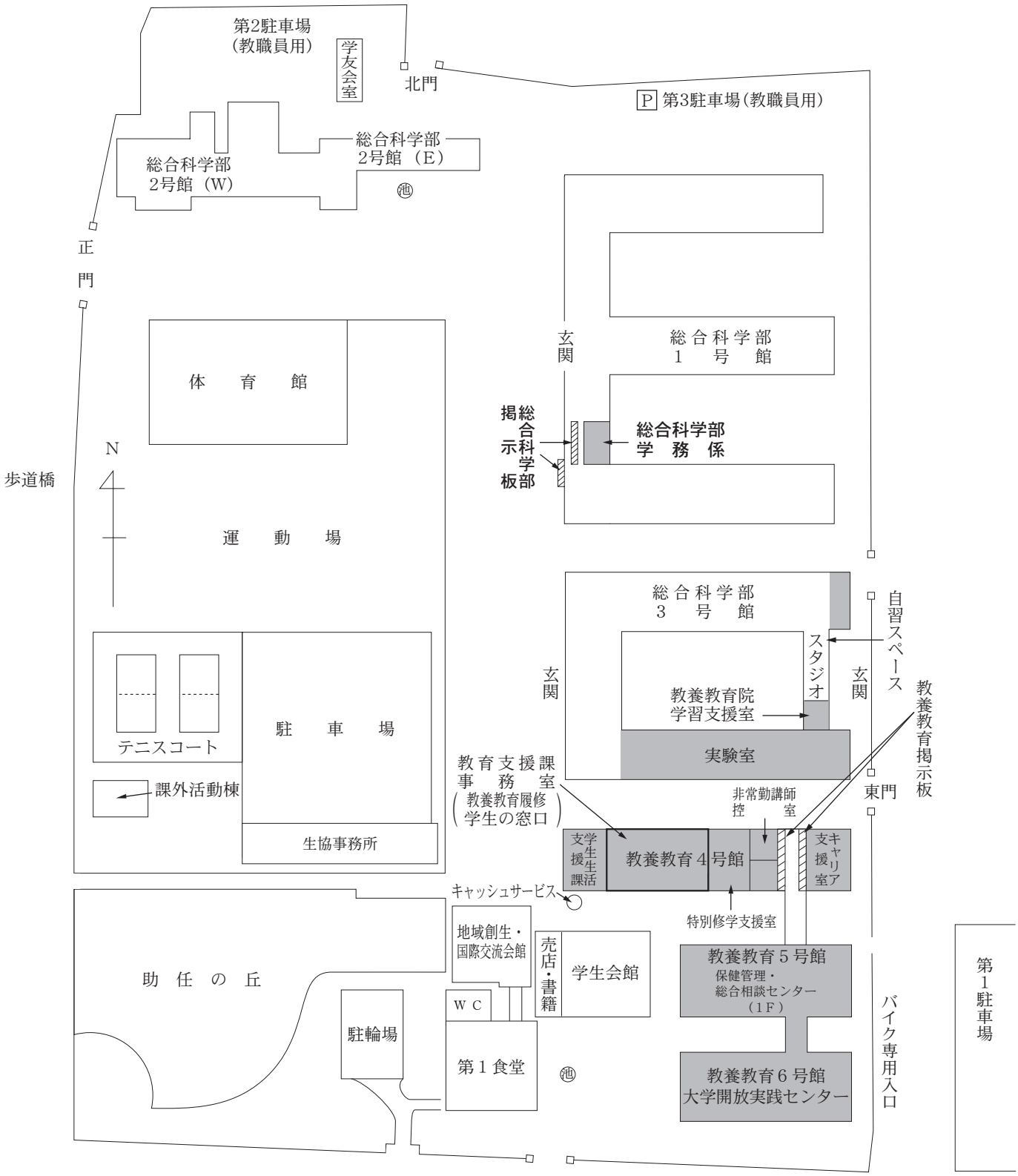
コース名	職名	氏名
国際教養コース	教授	石田三千雄
	教授	井戸慶治
	教授	佐久間亮
	教授	邵迎建
	教授	田久保浩
	教授	田島俊郎
	教授	堤和博
	教授	ヘルベルト，ヴォルフガング
	教授	葭森健介
	教授	㊐ 依岡隆児
	准教授	㊚ 新田元規
	准教授	㊟ 荒武達朗
	准教授	今井晋哉
	准教授	熊坂元大
	准教授	座喜純
	准教授	田中佳
	准教授	田中智行
	准教授	富塚昌輝
	准教授	中島浩二
	准教授	樋口友乃
	准教授	村上敬一
	准教授	㊞ 山内暁彦
	准教授	山口裕之
	准教授	山田仁子
	准教授	吉岡宏祐
	准教授	吉田文美
	准教授	シートゲス，オラフ
	准教授	スタージ，ドナルド・ウェード
	准教授	スティーヴンズ，メリディス・アン
	講師	服部恒太
心身健康コース	教授	坂田大輔
	教授	佐藤健二
	教授	㊐㊟ 佐藤充宏
	教授	三浦哉
	教授	㊞ 山口鉄生
	教授	㊚ 山本真由美
	准教授	内海千種
	准教授	境泉洋
	准教授	佐竹昌之
	准教授	佐藤裕
	准教授	多田耕造
	准教授	中塚健太郎
	准教授	福森崇貴
	准教授	行實鉄平
	講師	山本哲也

㊐：コース長　㊞：教務委員　㊚：学生委員　㊟：就職委員

コース名	職名	氏名
公共政策コース	教授	㊙ 響 場 和 彦
	教授	石 田 和 之
	教授	栗 栖 聡
	教授	真 弓 浩 三
	教授	㊐ 水 島 多 喜 男
	准教授	上 原 克 之
	准教授	㊞ 王 冷 然
	准教授	小 田 切 康 彦
	准教授	㊟ 清 水 真 人
	准教授	趙 形
	准教授	松 嶋 一 成
地域創生コース	教授	㊟ 石 田 基 広
	教授	上 野 加 代 子
	教授	岸 江 信 介
	教授	桑 原 恵
	教授	高 橋 晋 一
	教授	豊 田 哲 也
	教授	平 井 松 午
	教授	㊐ 平 木 美 鶴
	教授	吉 田 敦 也
	准教授	掛 井 秀 一
	准教授	河 原 崎 貴 光
	准教授	衣 川 仁
	准教授	佐 原 理
	准教授	田 口 太 郎
	准教授	塚 本 章 宏
	准教授	㊙ 土 屋 敦
	准教授	内 藤 直 樹
	准教授	中 村 豊
	准教授	樋 口 直 人
	准教授	㊞ 矢 部 拓 也

㊐：コース長　㊞：教務委員　㊙：学生委員　㊟：就職委員

総合科学部（教養教育棟を含む）建物配置図



講義室・実験室および教員研究室配置図

〔１階〕

総合科学部１号館

国際教養コース

（北岡）（服部恒）（ヘルベルト）（座喜）（石川）（オラフ）（吉田文）（熊坂）

1N01 渭水会
1N02 教養教育院 教員研究室
1N03 学部図書室 書架 書架
1N04 国際文化コース図書室閲覧
1N05 英語研究室
1N06 ドイツ語・比較文化研究室
1N07 英語・イスラーム思想研究室
1N08 ドイツ語・文学研究室
1N09 ヤパノロギー研究室
1N10 英米文化研究室
1N11 応用倫理学研究室
WC
閲覧室
周密書架
1N12 国際文化コース院生研究室
1N13 英語研究室（山田）
1N14 国際文化研究室
1N15 国際文化ゼミ室１
1N16 ドイツ語・文学研究室（井戸）
1N17 哲学研究室（石田三）
1N18 科学論・科学史研究室（山口裕）
展示室
1W01 地域交流プラザ
1W02 事務用倉庫

生物資源産業学部・理工学部

1W03 非常勤講師控室
玄関
オープンスペース
1M01 機器センター1
1M02 環境共生コース事務室
1M03 実験環境共生室１
1M04 実験環境共生室２
1M05 実験環境共生室３
1M06 実験環境共生室４
1M07 実験環境共生室５
1M08 実験環境共生室６
WC
1M09 実験博士課程後期室１
1M10 実験博士課程後期室２
1M11 実験博士課程後期室４
WC
1M12 機器センター８
1M13 環境共生コース研究室学生
1M14 環境共生コース院生研究室
1M15 保全生物資源研究室学（服部）
1M16 産業生物資源管理区域部（横井川）
1M17 微生物科学研究室（真壁）
1M18 発生ゲノム科学研究室（渡部）
1M19 分子生物学研究室
1M20 系統分類学研究室（山城）
1M21 博士後期課程学生研究室１
1M22 実験博士課程後期室３
1M23 実験博士課程後期室P２
1M24 実験博士課程後期室５
1W04 学務係資料室
1W05 書庫
1W06 学務係

地域創生コース

EV
ホール
WC
置場ごみ
1S01 事務長室
1S02 学部長室
1S03 博士後期課程研究室２
1S04 GIS共同利用室
1S05 地域創生ゼミ室１
1S06 地域創生ゼミ室２
1S07 作業スペース
1S08 地域創生コース学生・院生研究室
1S09 地域創生コース学生スペース１
WC
（塚本）（石田基）
1S10 空間情報論研究室
1S11 事務・調査資料室
1S12 総合情報研究室
1S13 地域創生コース学生スペース２
1S14 印刷室１
1S15 更衣室（男）
1S16 更衣室（女）
1S17 総務係
1S18 社会学研究室（上野）
1S19 社会学研究室（土屋）
1S20 地域動態論研究室（内藤直）
1S21 文化人類学研究室（髙橋）
1S22 社会学研究室（樋口）
1S23 社会学研究室（矢部）
1S24 方言通信調査室（豊田）
1S25 人文地理学研究室（平井）
1S26 地域地理学研究室（岸江）
1S27 日本語学研究室（村上敬）
1S28 地域言語論研究室

〔２階〕

国際教養コース

（衣川）（ｽﾃｨｰﾌﾞﾝｽﾞ）（新田）（葭森）（田中智）（荒武）（田島）（宮澤）（山内）（宮崎）（田久保）（ｽﾀｰｼﾞ）（吉岡）（中島）

2N01 Culture Lounge	2N02 研究室 日本史	2N03 研究室 応用言語学	2N04 研究室 アジア思想	2N05 研究室 アジア史	2N06 研究室 中国文学	2N07 研究室 アジア社会	2N08 研究室 フランス学	2N09 研究室 ミュージックデジタル	2N10 研究室 英米文学	2N11 研究室 英米文学	2N12 研究室 英米文化	2N13 研究室 英米文化	2N14 研究室 アメリカ史	2N15 研究室 英語学

WC（男女）	2N16 研究室 日本史	2N17 研究室 日本文学	2N18 文学研究室 日本近現代	2N19 文化研究室 中国文学・	2N20 研究室 考古学	2N21 研究室 比較文化 比較文学・	2N22 研究室 イギリス史	2N23 研究室 ドイツ史・	2N24 研究室 文化 フランス論	2N25 情報実習室 国際コミュニケーション文化		2N26 資料室 国際コミュニケーション文化	2N27 国際文化コース学生研究室

（桑原恵）（堤）（富塚）（邵）（中村豊）（依岡）（佐久間）（今井晋）（田中佳）

2W01 第2会議室

2W02 第3会議室

心身健康コース

（坂田）（多田）

2W03 印刷室２	2M01 研究室 教育方法論	2M02 研究室 生徒指導論	2M03 第2分析室 デザイン健康社会	2M04 健康社会デザイン第１分析室	2M05 運動生理学第２実験室	2M06 スポーツ健康増進ラボラトリー	2M07 心理健康コーズゼミ室		WC	2M08 運動生理学第１実験室		

ごみ置場	2M09 準備室 心身健康プロジェクト	2M10 研究室 経営スポーツ学	2M11 研究会室 社会スポーツ学	2M12 スポーツ科学研究室 学生・院生	2M13 研究室 運動行動制御	2M14 心理学研究室 スポーツ	2M15 研究室 健康体力学	2M16 研究室 医学スポーツ	2M17 研究室 応用生理学	2M18 支援室 指導士養成 健康運動	2M19 前室	準備室	
WC											スポーツ科学実験室	実験室	

（行實）（佐藤充）（荒木）（中塚）（佐竹）（山口鉄）（三浦）

2W04 数理科学コース演習室

2W05 数理科学コース情報実習室

理工学部

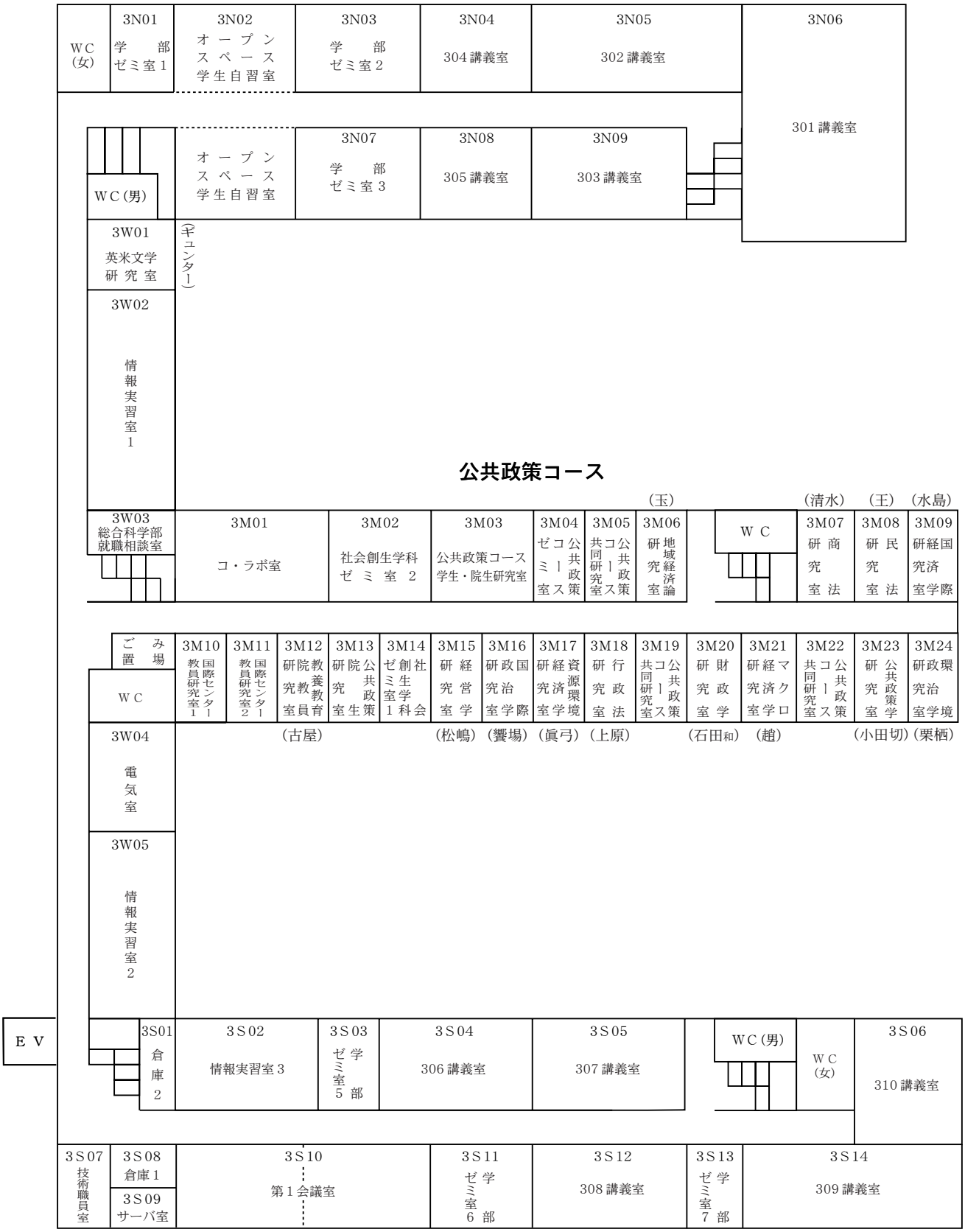
（小野）（中山慎）（宇野）（鍋島）（大沼）

EV	2S01 サーバ室	2S02 ゼミ室 数理科学１	2S03 数理科学コース学生実験室	2S04 院生研究室 数理科学	2S05 研究室 数理科学	2S06 ゼミ室 数理科学	2S07 研究室 数理科学	2S08 研究室 数理科学	2S09 研究室 数理科学	2S10 研究室 数理科学	WC	2S11 数理科学コース図書閲覧室	
												2S12 数理科学コース資料室	

2S13 ゼミ室 総数理学１科合	2S14 ゼミ室 総数理学２科合	2S15 ゼミ室 数理科学２	2S16 数理科学コース学生研究室	2S17 研究室 数理科学	2S18 研究室 数理科学	2S19 研究室 数理科学	2S20 研究室 数理科学	2S21 研究室 数理科学	2S22 研究室 数理科学	2S23 研究室 数理科学	2S24 数理科学コースセミナー室	

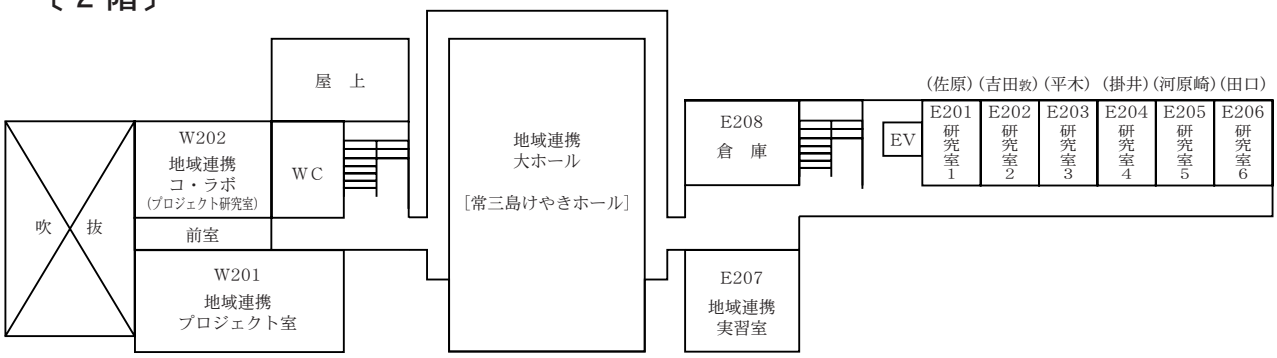
（桑原類）（村上公）（大橋守）（守安）（大渕）（片山）（蓮沼）

〔３階〕

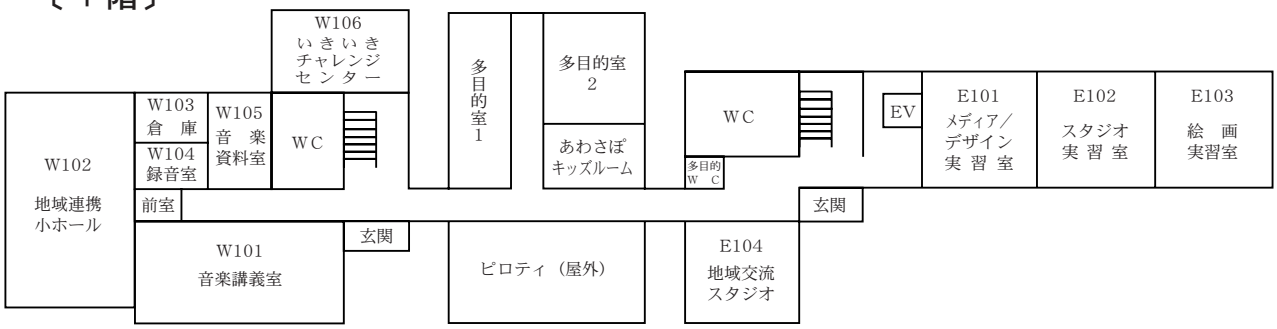

WC(女)
3N01 学部ゼミ室1
3N02 オープンスペース 学生自習室
3N03 学部ゼミ室2
3N04 304講義室
3N05 302講義室
3N06 301講義室
WC(男)
オープンスペース 学生自習室
3N07 学部ゼミ室3
3N08 305講義室
3N09 303講義室
3W01 英米文学研究室
(ギュンター)
3W02 情報実習室1
公共政策コース
(玉)
(清水)
(王)
(水島)
3W03 総合科学部就職相談室
3M01 コ・ラボ室
3M02 社会創生学科ゼミ室2
3M03 公共政策コース学生・院生研究室
3M04 公共政策コーゼミ室
3M05 公共政策コー共同研究室
3M06 地域経済研究室
WC
3M07 商研究室
3M08 民研究室
3M09 国際経済研究室
ごみ置場
WC
3M10 国際センター教員研究室1
3M11 国際センター教員研究室2
3M12 教育研究室
3M13 公共政策研究室
3M14 社会創生学科ゼミ室1
3M15 経営学研究室
3M16 国際政治学研究室
3M17 資源環境経済研究室
3M18 行政法研究室
3M19 公共政策コー共同研究室
3M20 財政学研究室
3M21 マクロ経済研究室
3M22 公共政策コー共同研究室
3M23 公共政策学研究室
3M24 環境政治学研究室
(古屋)
(松嶋)
(饗場)
(眞弓)
(上原)
(石田和)
(趙)
(小田切)
(栗栖)
3W04 電気室
3W05 情報実習室2
EV
3S01 倉庫2
3S02 情報実習室3
3S03 学部ゼミ室5
3S04 306講義室
3S05 307講義室
WC(男)
WC(女)
3S06 310講義室
3S07 技術職員室
3S08 倉庫1
3S09 サーバ室
3S10 第1会議室
3S11 学部ゼミ室6
3S12 308講義室
3S13 学部ゼミ室7
3S14 309講義室

2　号　館

〔２階〕

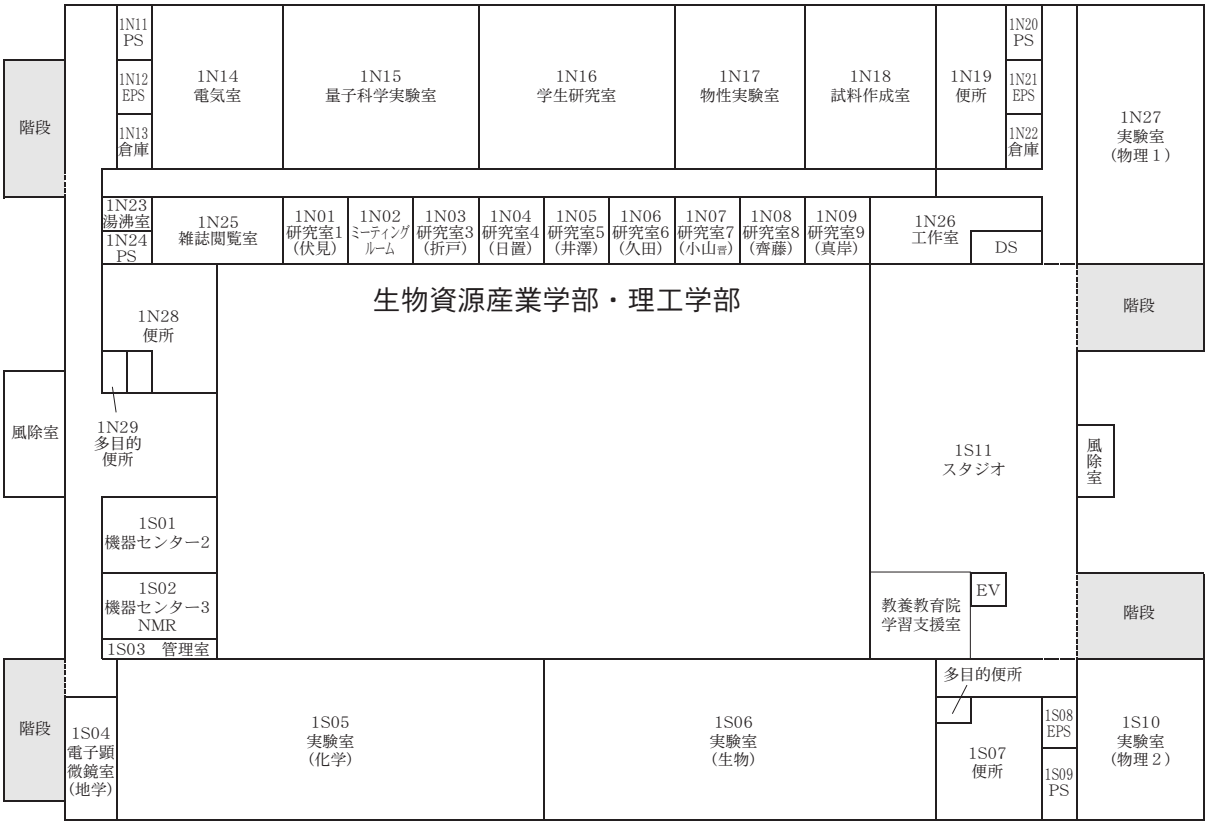

屋　上
W202
地域連携
コ・ラボ
(プロジェクト研究室)
WC
吹　抜
前室
W201
地域連携
プロジェクト室
地域連携
大ホール
［常三島けやきホール］
E208
倉　庫
EV
(佐原)
(吉田敦)
(平木)
(掛井)
(河原崎)
(田口)
E201
研究室1
E202
研究室2
E203
研究室3
E204
研究室4
E205
研究室5
E206
研究室6
E207
地域連携
実習室

〔１階〕

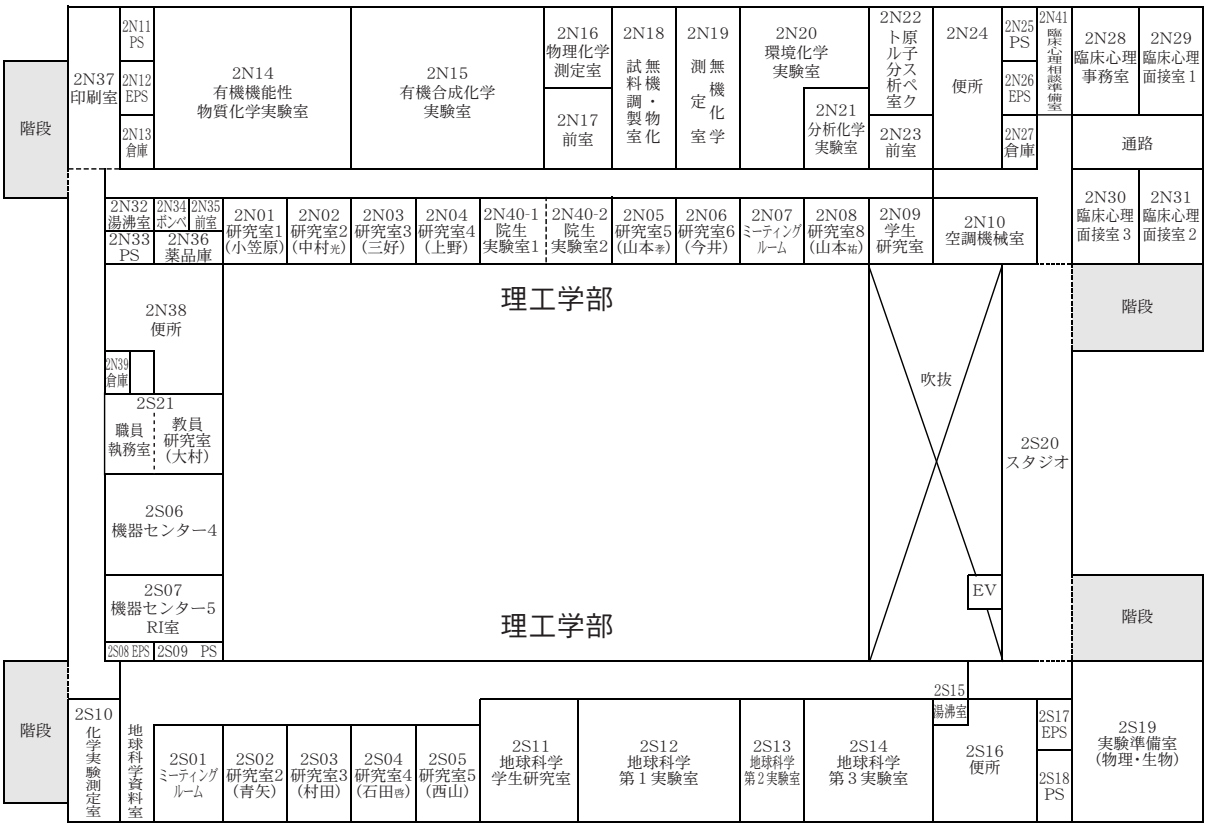

W106
いきいき
チャレンジ
センター
W102
地域連携
小ホール
W103
倉　庫
W104
録音室
W105
音　楽
資料室
WC
前室
W101
音楽講義室
玄関
多目的室1
ピロティ（屋外）
多目的室2
あわさぽ
キッズルーム
多目的
W　C
WC
EV
E101
メディア／
デザイン
実習室
E102
スタジオ
実習室
E103
絵　画
実習室
玄関
E104
地域交流
スタジオ

3　号　館

〔１階〕

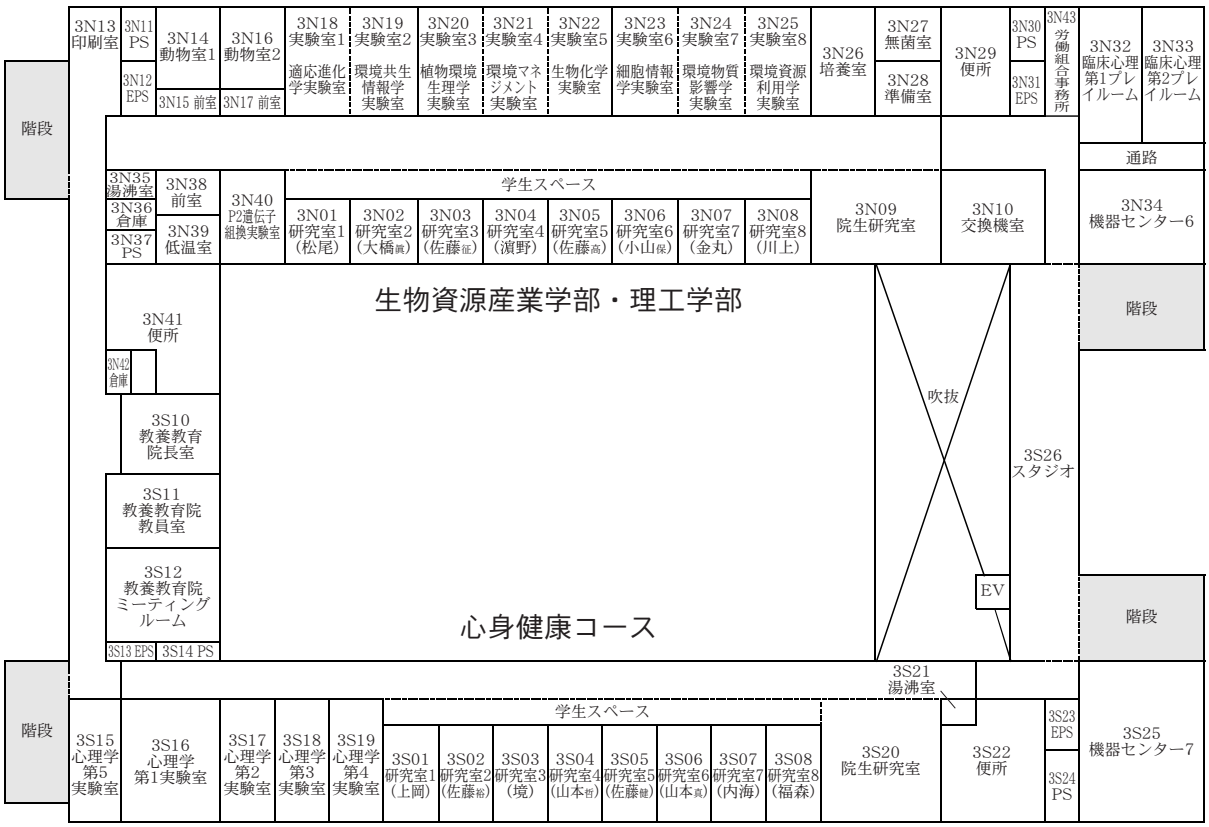

1N11 PS
1N12 EPS
1N13 倉庫
1N14 電気室
1N15 量子科学実験室
1N16 学生研究室
1N17 物性実験室
1N18 試料作成室
1N19 便所
1N20 PS
1N21 EPS
1N22 倉庫
1N27 実験室（物理１）
階段
1N23 湯沸室
1N24 PS
1N25 雑誌閲覧室
1N01 研究室1（伏見）
1N02 ミーティングルーム
1N03 研究室3（折戸）
1N04 研究室4（日置）
1N05 研究室5（井澤）
1N06 研究室6（久田）
1N07 研究室7（小山晋）
1N08 研究室8（齊藤）
1N09 研究室9（真岸）
1N26 工作室
DS
生物資源産業学部・理工学部
1N28 便所
1N29 多目的便所
風除室
1S11 スタジオ
1S01 機器センター2
1S02 機器センター3 NMR
1S03　管理室
教養教育院 学習支援室
EV
多目的便所
1S04 電子顕微鏡室（地学）
1S05 実験室（化学）
1S06 実験室（生物）
1S07 便所
1S08 EPS
1S09 PS
1S10 実験室（物理２）

〔２階〕


2N37 印刷室
2N11 PS
2N12 EPS
2N13 倉庫
2N14 有機機能性 物質化学実験室
2N15 有機合成化学 実験室
2N16 物理化学 測定室
2N17 前室
2N18 無機 試料 調製 物 室化
2N19 無機 測 定 化 室学
2N20 環境化学 実験室
2N21 分析化学 実験室
2N22 ト原 ル子 分ス 析ベ 室ク
2N23 前室
2N24 便所
2N25 PS
2N26 EPS
2N27 倉庫
2N41 臨床心理想談準備室
2N28 臨床心理 事務室
2N29 臨床心理 面接室１
通路
階段
2N32 湯沸室
2N33 PS
2N34 ボンベ
2N35 前室
2N36 薬品庫
2N01 研究室1（小笠原）
2N02 研究室2（中村光）
2N03 研究室3（三好）
2N04 研究室4（上野）
2N40-1 院生 実験室1
2N40-2 院生 実験室2
2N05 研究室5（山本孝）
2N06 研究室6（今井）
2N07 ミーティングルーム
2N08 研究室8（山本祐）
2N09 学生 研究室
2N10 空調機械室
2N30 臨床心理 面接室３
2N31 臨床心理 面接室２
理工学部
2N38 便所
2N39 倉庫
2S21
職員 執務室
教員 研究室（大村）
2S06 機器センター4
2S07 機器センター5 RI室
2S08 EPS
2S09　PS
吹抜
2S20 スタジオ
EV
2S10 化学 実験 測定 室
地球科学 資料室
2S01 ミーティング ルーム
2S02 研究室2（青矢）
2S03 研究室3（村田）
2S04 研究室4（石田啓）
2S05 研究室5（西山）
2S11 地球科学 学生研究室
2S12 地球科学 第１実験室
2S13 地球科学 第２実験室
2S14 地球科学 第３実験室
2S15 湯沸室
2S16 便所
2S17 EPS
2S18 PS
2S19 実験準備室（物理・生物）

3　号　館

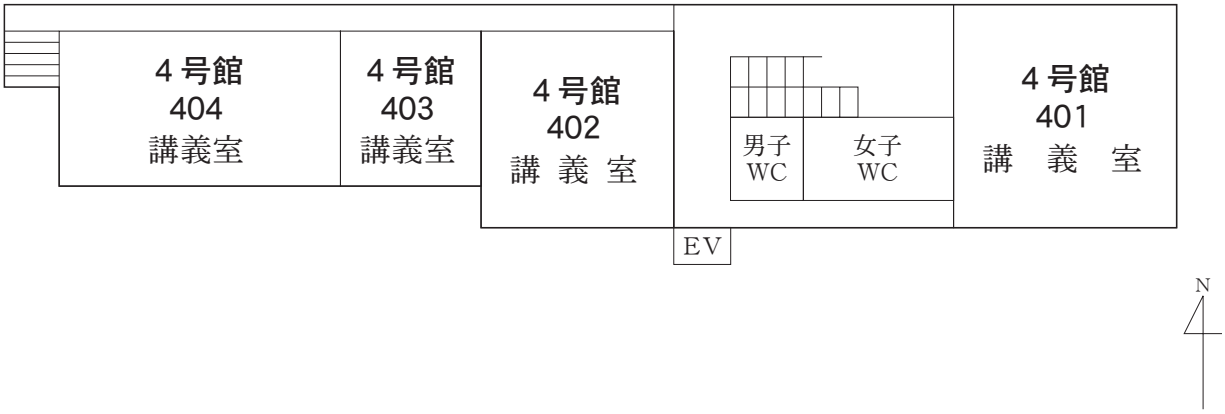
〔３階〕


3N13 印刷室
3N11 PS
3N12 EPS
3N14 動物室1
3N15 前室
3N16 動物室2
3N17 前室
3N18 実験室1 適応進化学実験室
3N19 実験室2 環境共生情報学実験室
3N20 実験室3 植物環境生理学実験室
3N21 実験室4 環境マネジメント実験室
3N22 実験室5 生物化学実験室
3N23 実験室6 細胞情報学実験室
3N24 実験室7 環境物質影響学実験室
3N25 実験室8 環境資源利用学実験室
3N26 培養室
3N27 無菌室
3N28 準備室
3N29 便所
3N30 PS
3N31 EPS
3N43 労働組合事務所
3N32 臨床心理第1プレイルーム
3N33 臨床心理第2プレイルーム
階段
通路
3N35 湯沸室
3N36 倉庫
3N37 PS
3N38 前室
3N39 低温室
3N40 P2遺伝子組換実験室
学生スペース
3N01 研究室1 (松尾)
3N02 研究室2 (大橋)
3N03 研究室3 (佐藤)
3N04 研究室4 (濵野)
3N05 研究室5 (佐藤)
3N06 研究室6 (小山)
3N07 研究室7 (金丸)
3N08 研究室8 (川上)
3N09 院生研究室
3N10 交換機室
3N34 機器センター6
3N41 便所
3N42 倉庫
生物資源産業学部・理工学部
吹抜
3S26 スタジオ
3S10 教養教育院長室
3S11 教養教育院教員室
3S12 教養教育院ミーティングルーム
3S13 EPS
3S14 PS
心身健康コース
EV
3S21 湯沸室
3S15 心理学第5実験室
3S16 心理学第1実験室
3S17 心理学第2実験室
3S18 心理学第3実験室
3S19 心理学第4実験室
3S01 研究室1 (上岡)
3S02 研究室2 (佐藤)
3S03 研究室3 (境)
3S04 研究室4 (山本)
3S05 研究室5 (佐藤)
3S06 研究室6 (山本)
3S07 研究室7 (内海)
3S08 研究室8 (福森)
3S20 院生研究室
3S22 便所
3S23 EPS
3S24 PS
3S25 機器センター7

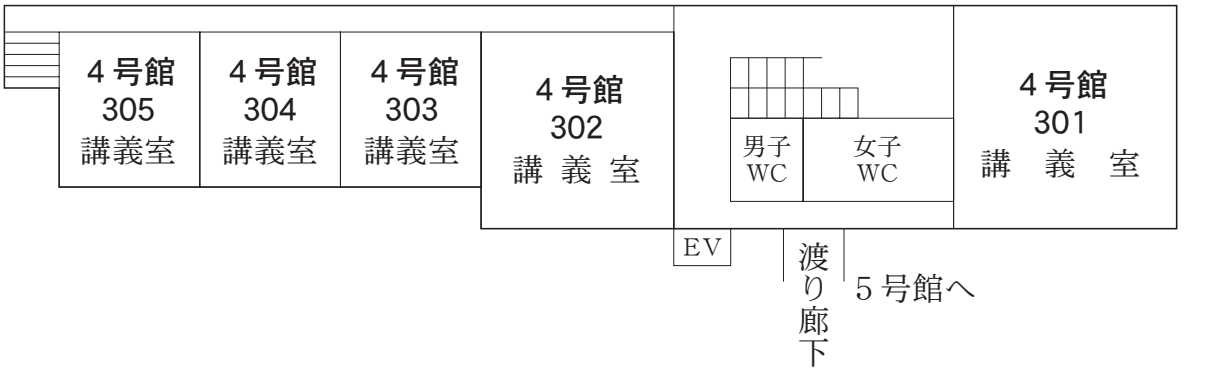
教養教育４号館

教養教育講義室と教養教育の窓口，キャリア支援室などがあります。

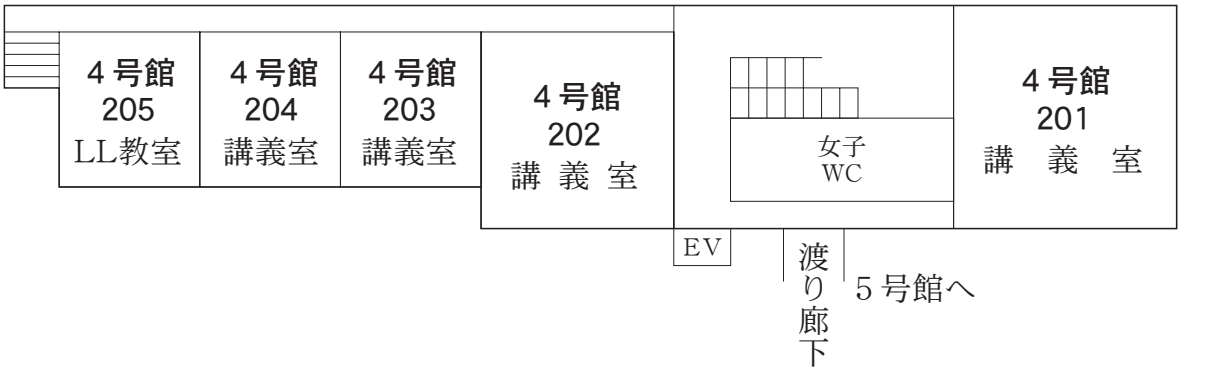
〔４階〕



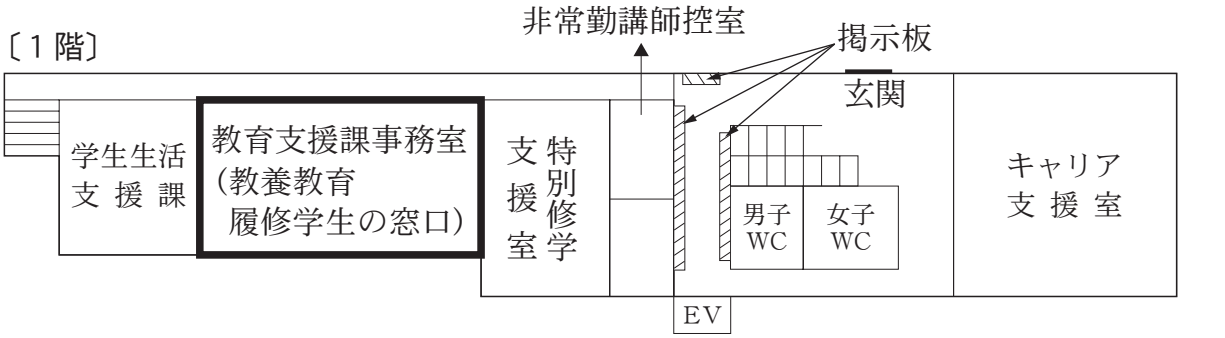
〔３階〕



〔２階〕



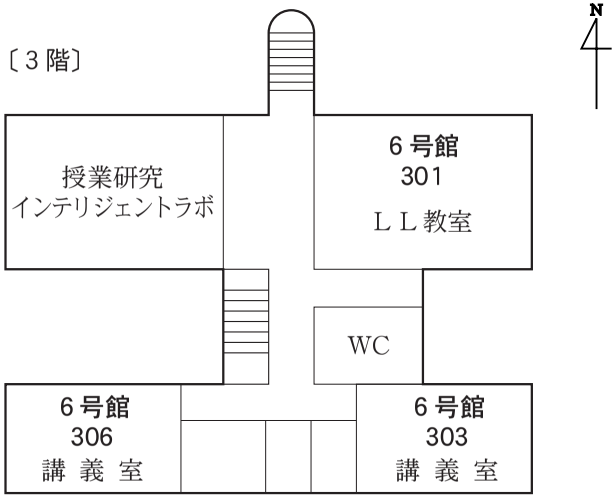
〔１階〕



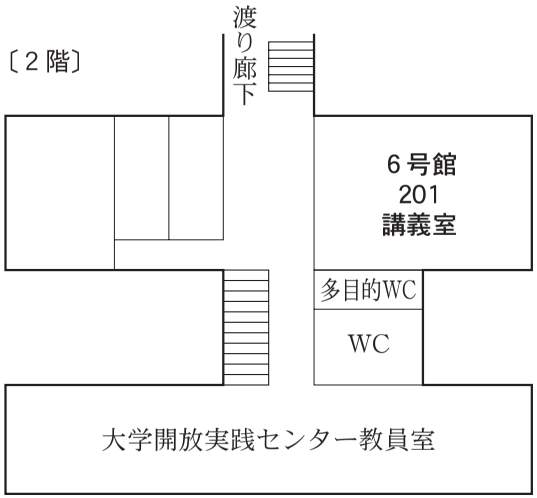
教養教育６号館

教養教育講義室と大学開放実践センター教員室があります。

〔３階〕



〔２階〕

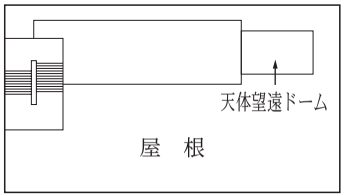


教養教育５号館

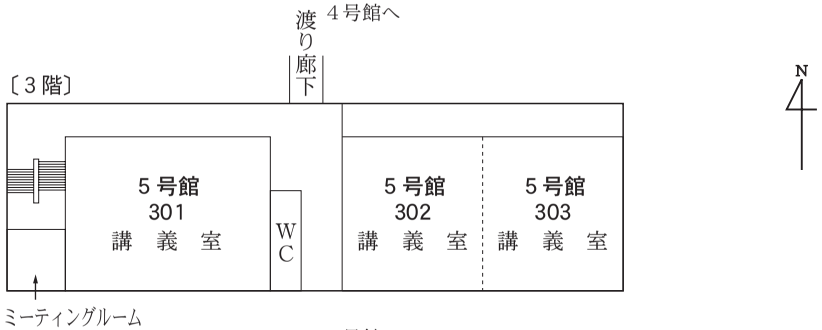
教養教育講義室と保健管理・総合相談センターがあります。

〔４階〕

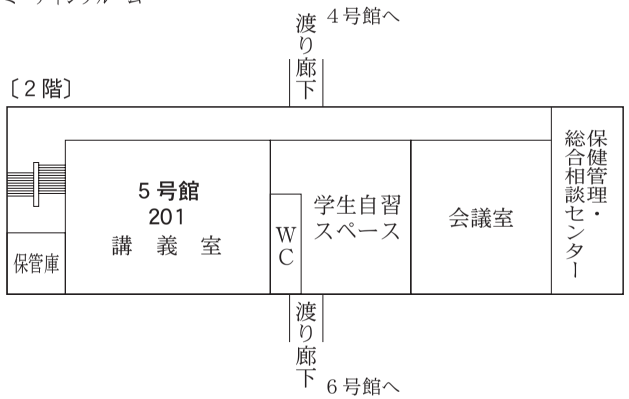
〔屋階〕



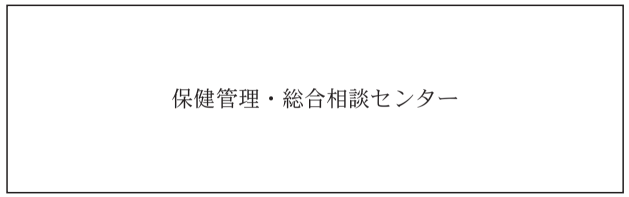
〔３階〕



〔２階〕



〔１階〕



工学部講義室配置図

N
変電室
知能情報・北棟
知能情報・南棟
フロンティア研究センター
情報センター院生棟
2階:
(情)1-A[202]
(情)1-B[202]
3階:
(情)2-C[303]
(情)3-D[304]
光応用工学科
産学官連携プラザ
総合研究実験棟
カフェ
シンボルストリート
風洞実験室
建設系実験室
降雨実験室
水理実験室
生物資源産業学部学務係2F
建設棟
環境防災研究センター
多目的ホール(3階)
図書館
池
正門
第2食堂
カフェテリア
工業会館
薬品庫
化学・生物棟
実習棟
機械
機械棟
イノベーションラザ
掲示板
会計課経理係(授業料等納付場所)
理工学部共通講義棟
車庫
電気電子棟
守衛室
1階:学務係,総務係,予算管理係
会計課経理係
(授業料等納付場所)
2階:K201～K206
CALL(学生自習室)
3階:K301～K309
4階:K401～K407
5階:K501～K507
6階:K601,K602,
創成学習スタジオ

平成 28 年度　総合科学部学年暦

	日	月	火	水	木	金	土
4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 (1)	12 (1)	13 (1)	14 (1)	15 (1)	16
	17	18 (2)	19 (2)	20 (2)	21 (2)	22 (2)	23
	24	25 (3)	26 (3)	27 (3)	28 (3)	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
5月	1	2 (4)	3	4	5	6 (3)	7
	8	9 (5)	10 (4)	11 (4)	12 (4)	13 (4)	14
	15	16 (6)	17 (5)	18 (5)	19 (5)	20 (5)	21
	22	23 (7)	24 (6)	25 (6)	26 (6)	27 (6)	28
	29	30 (8)	31 (7)				

	日	月	火	水	木	金	土
6月				1 (7)	2 (7)	3 (7)	4
	5	6 (9)	7 (8)	8 (8)	9 (8)	10 (8)	11
	12	13 (10)	14 (9)	15 (9)	16 (9)	17 (9)	18
	19	20 (11)	21 (10)	22 (10)	23 (10)	24 (10)	25
	26	27 (12)	28 (11)	29 (11)	30 (11)		

	日	月	火	水	木	金	土
7月						1 (11)	2
	3	4 (13)	5 (12)	6 (12)	7 (12)	8 (12)	9
	10	11 (14)	12 (13)	13 (13)	14 (13)	15 (13)	16
	17	18	19 (14)	20 (14)	21 (14)	22 (14)	23
	24	25 (15)	26 (15)	27 (15)	28 (15)	29 (15)	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
8月		1 (16)	2 (16)	3 (16)	4 (16)	5 (16)	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
9月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

	日	月	火	水	木	金	土
10月							1
	2	3 (1)	4 (1)	5 (1)	6 (1)	7 (1)	8
	9	10	11 (2)	12 (2)	13 (2)	14 (2)	15
	16	17 (2)	18 (3)	19 (3)	20 (3)	21 (3)	22
	23	24 (3)	25 (4)	26 (4)	27 (4)	28	29
	30	31 (4)					

	日	月	火	水	木	金	土
11月			❶ 水(5)	2	3	4 (4)	5
	6	7 (5)	8 (5)	9 (6)	10 (5)	11 (5)	12
	13	14 (6)	15 (6)	16 (7)	17 (6)	18 (6)	19
	20	21 (7)	22 (7)	23	24 (7)	25 (7)	26
	27	28 (8)	29 (8)	30 (8)			

	日	月	火	水	木	金	土
12月					1 (8)	2 (8)	3
	4	5 (9)	6 (9)	7 (9)	8 (9)	9 (9)	10
	11	12 (10)	13 (10)	14 (10)	15 (10)	16 (10)	17
	18	19 (11)	20 (11)	21 (11)	22 (11)	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
1月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	❿ 金(11)	11 (12)	12 (12)	13	14
	15	16 (12)	17 (12)	18 (13)	19 (13)	20 (12)	21
	22	23 (13)	24 (13)	25 (14)	26 (14)	27 (13)	28
	29	30 (14)	31 (14)				

	日	月	火	水	木	金	土
2月				1 (15)	2 (15)	3 (14)	4
	5	6 (15)	7 (15)	8 (16)	9 (16)	10 (15)	11
	12	13 (16)	14 (16)	⓯ 金(16)	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

	日	月	火	水	木	金	土
3月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

凡 例

- ■……春季，夏季，冬季，学年末休業等
- □……総括授業・定期試験期間
- ●……授業振替日
- ▨……後期追再試期間
- ◯……大学入試センター試験，一般選抜，特別選抜，私費外国人留学生入学選抜
- ◎……４月６日㈬ 入学式
  ３月23日㈭ 卒業式・修了式
- ▭……４月４日㈪～４月8日㈮ 新入生オリエンテーション
  10月28日㈮ 大学祭準備のため休業
  10月29日㈯～10月30日㈰ 大学祭
  11月２日㈬ 開学記念日
  １月13日㈮ 大学入試センター試験場設営のため休業

※（　）の数字は授業回数を示す

総合科学部の英語表記の頭文字「IAS」をモチーフに、人と人をつなぐかたちを描きながら、奥行きのある「諸科学の融合」を表現したシンボルマーク。「諸科学の融合」は「人と人との和合」「世界中の人々の融和」につながっていくことに期待を込めている。

大学への問い合わせ及び緊急連絡先

〇徳島大学総合科学部事務課学務係

ＴＥＬ　088－656－7108

ＦＡＸ　088－656－9314

Faculty of Integrated Arts and Sciences

Tokushima University